

八

上海租界をめぐる諸問題

1678

昭和12年10月4日
在本邦グール米国大使より
外務省宛

日本軍の上海共同租界軍事使用に対する米国
政府抗議について

AIDE-MÉMOIRE

On several recent occasions and through different channels, the attention of the Japanese Government has been earnestly invited to the use of the International Settlement at Shanghai by the Japanese forces as a military base. On August 23, with the arrival at and near Shanghai of contingents of the Japanese Army, the operations which were conducted up to that time by the Japanese naval landing force as part of the defense forces of the International Settlement, became a campaign on a large scale against the Chinese military forces in an extensive area outside the International Settlement. Since the date above mentioned, the wharves of the Hongkew section have been the main base for unloading supplies and troops and evacuating the wounded. According to authoritative

reports, fifteen Japanese transports used the docks on the three days September 22 to September 24, four thousand troops having been landed on one of these days.

On September 15 the Consular Body at Shanghai caused oral representations to be made on this subject to the Japanese Consul General, who replied that the Japanese landing party being stationed in Shanghai for the protection of Japanese interests has the right, equally with other foreign military units, to land supplies and reinforcements, and that the landing party or any other Japanese armed force was or would be acting only in self-defense.

In the opinion of the American Government, the present Japanese military operations at Shanghai—their extent, place, and seeming objectives—cannot with warrant be construed as a means of defense of the Settlement. The American Government, accordingly, feels strongly that the Japanese military forces should refrain from using any portion of the Settlement as a base for

disembarking Japanese troops and unloading military supplies to be employed outside the Settlement in major operations against Chinese troops, and that the Settlement should not be used in any way as a base or channel for military operations of any character except such as are exclusively for the protection and defense of the Settlement.

It is the further opinion of the American Government that, as the Settlement is an area in which by treaties and agreement a number of countries, including Japan and the United States, have common rights and interests, its use as a base for military operations conducted outside the Settlement is not in keeping with the spirit of those agreements, and that it unwarrantably endangers the rights and interests of all those countries, including the United States, which possess in common those rights and interests.

Tokyo, October 4, 1937.



1679 昭和12年10月19日 外務省より
在本邦米國大使館宛

上海共同租界の軍事使用に関する米國政府抗議へのわが方回答

口上書

帝國外務省ハ在京米國大使館ヨリ十月四日附覺ヲ以テ日本軍ノ上海共同租界使用ニ關シ申出ノ次第閱悉シ次ノ如ク回答スルノ光榮ヲ有ス

今次上海ニ於ケル日本ノ軍事行動ハ支那カ多數ノ軍隊ヲ租界ノ周圍ニ集結シテ同地在留日本人ノ保護ニ當レル陸戰隊ニ對シ挑戰シ來レルニ端ヲ發シ其後支那側カ上海背後ノ廣汎ナル地域ニ亘リ續々ト大軍ヲ動員シテ少數ノ日本軍ニ對抗シ來リタル爲日本軍ハ自衛ノ必要上増援隊ヲ派遣スルノ已ム無キニ至リ軍事行動區域モ自然擴大ヲ餘儀ナクセラレタル次第ニシテ從テ日本政府ハ日本軍カ共同租界防備ノ一般的義務ト在留日本人保護ノ固有の權利ニ基キ脅威ノ原因タル支那軍ニ對スル軍事行動遂行ノ爲日本ノ警備擔當區域トシテ認メラレタル上海北部地帶ニ於テ自衛上必要ナル兵員ノ上陸、軍需品ノ陸揚ヲ爲スハ當然許容セラレタル行爲

ナリト信スルモノナリ

日本ハ共同租界構成ノ一員トシテ列國ト均シク同地ニ莫大ナル權益ヲ有シ今次支那側ノ不法挑撥ニ依ル軍事行動ノ結果多大ノ犠牲ヲ拂ヒツツアル處固ヨリ日本政府ハ外國ノ權益保全ニ付テハ深甚ノ關心ヲ有スルカ故ニ今次軍事行動ニ關聯シ租界ノ一部ヲ使用スルノ餘儀無キニ至リテモ之等外國ノ權益尊重方ニ付テハ出來得ル限りノ注意ヲ加ヘ居ル次第ナリ

昭和十二年十月十九日

1680

昭和12年11月11日
在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

上海陷落に関する米國紙論調報告

ワシントン 11月11日後発
本省 11月12日前着

第五九六號

上海陷落ノ報ニ對シ各新聞ハ左記要領ノ論評ヲ加ヘ居レルカ概シテ今日迄ノ支那ノ善戰ヲ稱讃スルト共ニ今後ノ長期抵抗ヲ期待スルカ如キ口吻ヲ用ヒ居ルモノ多シ尙「スタ

一」ハ十日社説ニ於テ本問題ト往電所報近衛首相ヨリ大統領ニ宛テタル書翰トヲ結ビ付ケ書翰ノ内容如何ハ知ルニ由ナキモ文隆氏カ單ナル「スポーツ」ノ話ヲスル爲又ハ父君ヨリノ挨拶ヲ述フル爲大統領ヲ訪問セルモノトハ思ハレスト論シ居レリ

(一)「スター」十日支那ノ精神的及軍事的立場ヨリ見テ上海陷落カ重大性ヲ有スルモノナルコトハ否ミ難キモ之ヲ以テ南京政府カ再起シ得サル打撃ヲ受ケタルモノトシ又ハ蔣介石ノ抵抗カノ崩壊ト斷定スルコトハ早計ナリ例ハハ紐育ヤ桑港カ侵略者ニ占領セラレタリトスルモ米國ノ死命ヲ制スルニ足ラサルカ如ク支那ハ未タ「ノツクアウト」セラレタルモノニアラス

(二)「ポスト」支那軍カ上海ニ於テ過去三箇月間日本軍ヲ喰止メタルハ「モダーンチャイナ」ニ横溢シツツアル「フアイテングスピリット」ノ顯著ナル現レニシテ若シモ勝利カ士氣ノミニ依リ贏チ得ラルルモノトセハ蔣介石ノ軍隊ハ退却シツツアルモノニアラス日本ノ顔ヲ立ツル爲ニモ支那ヲシテ戰爭ヲ斷念セシムル爲ニモ今日程絶好ナル媾和提議ノ機會ハナク九國條約ニ背馳セサル「リーゾナ

ブルブラン」カ樹テラルルトセハ武府會議參加國多數ノ支持ヲ得ルコトハ明瞭ナリ

(三)「ボルチモアサン」日本ハ上海ヲ其ノ支配下ニ置クコトニ依リ列國ヲシテ支那ヲ抑ヘ媾和ヲ餘儀ナクセシメンコトヲ期待シ居ルモノノ如キモ今回ノ戰捷カ果シテ此ノ目的達成ニ近ツキツアルモノナリヤ否ヤヲ判斷スルコトハ尙早ナリ

英ニ轉電セリ

英ヨリ在歐各大使ニ轉報アリ度シ

1681

昭和12年11月24日 在仏国杉村大使より
広田外務大臣宛(電報)

上海租界における中国側の反日活動を禁圧すべしとの日本側要求に対する仏国新聞論調報告

付記 東亜局作成「昭和十二年度執務報告 第一冊

(第一課關係)」より抜粋

「松井司令官ノ「インタヴュー」問題」

パリ 發

本省 11月24日後着

特情巴里第一〇九號

日支紛争ニ對スル諸紙ノ關心ハ引續キ低調タカ割合ニ注目サレテ居ル問題ハ上海ノ外國租界當局ニ對スル日本側要求(支那ノ反日政治運動禁止外數項)ト「プリユツセル」會議ノ無期延期テアル前者ニ付テハ約二週間以前ニ日本軍ハ必要措置ヲ執ル旨ノ松井司令官談カ傳ヘラレテ以後段々注目サレテ來タカ二十一日附上海電カ日本ノ租界當局ニ對スル要求ヲ報シテカラハ俄ニ注意ヲ惹キ一般ニ之ヲ以テ日本ノ在支歐洲勢力驅逐ノ第一歩ナリトノ誤解ヲ與ヘテ居ル此ノ問題ニ關スル論評ノ主ナルモノニハ次ノ如キモノカアル「ウーヴル」(「タブイ」)

租界テハ主權ハ支那ニ、統治權ハ租借權所有國ニ屬スルカラ租界内軍隊通過及支那銀行停止等ヲ要求スル權利ハ支那モ之ヲ有シナイ況ンヤ日本ニ於テヤテアル反日運動ノ禁壓ニシテモ支那カ日本人、殊ニ日本新聞ノ反支宣傳ノ禁止方ヲ要請シタコトカ嘗テアツタカドウカ結局理窟カラ言ツテモ歴史的ニ見テモ日本ノ要求ハ不合理タ從テ英佛兩國テハ右要求ヲ以テ日本カ事後提出スヘキヨリ大キナ、ヨリ一聯ノ要請ノ第一矢タト觀測シテ居ル

「レピユブリーク」(「ゼラー」)

支那軍敗北ノ「フランス」ニ對スル影響トシテハ日本ノ支那市場獨占ノ可能性及日本ノ勢力ト佛領印度支那トノ接觸カアル「フランス」租界ノ問題ニ付テハ「フランス」ハ之ヲ手離スヘカラサルコトハ言フ迄モナイカ其ノ爲ニハ日本ノ要求ヲシテ理由ナカラシメル爲例ヘハ共產黨ノ策動等ヲ取締ルヘキテアル要スルニ右ノ如キ影響ニ處スル途トシテ「フランス」ハ極東ノ新事態ニ即シタ新政策ヲ樹立スルト共ニ列國トノ協調ヲ計ルヘキテアル

尙「ブリュッセル」會議ノ無期休會ニ付テハ左翼各紙力會議ハ其ノ任務ヲ果サス而モ聯盟ヘノ移牒モシナカツタコトヲ大イニ攻撃シテ居ル以外一般ニハ當然行キ着ヘキ所ニ至ツタト云フ印象力強イ之ニ付テ米國ニ於ケル孤立主義ノ運動、殊ニ「デーヴィス」代表ヲ呼返セトノ主張及右ニ關スル「ピットマン」上院外交委員長ノ聲明等ハ極東問題ニ關スル限り一般ニ最良ノ途タト信シラレテ居ル様ナ論調デア

(付記)

松井司令官ノ「インタヴュー」問題

南市ニ於ケル支那軍殘敵掃蕩一段落シ茲ニ殆ト全ク上海全部ヲ攻略シタルヲ機トシ十一月十一日松井軍司令官ハ有力外國通信社員ノ「インタヴュー」ヲ許シ租界問題、通信檢閲及稅關問題等ニ付始めテ其ノ所信ヲ披瀝シ通信員ノ質疑ニ應酬セリ即チ

(イ)租界ニ對スル列國ノ態度ニ付上海ハ國際關係錯綜セル土地ナルニ鑑ミ出來得ル限り列國側トモ協調ヲ圖リ行ク方針ナリシモ過去二ヶ月半ニ於ケル英、米、佛、白等ノ態度著シク變化スルト共ニ上海ノ各國出先官憲ノ態度モ亦變化シ來レルヲ以テ現在ニ於テハ協調困難ノ様認メラル
(ロ)列國ノ守備區域等ニ關シテハ全上海ヲ日本軍ニ依リ警備セシムルヤ否ヤハ將來ノ問題ニシテ帝國ハ第三國ノ權益ヲ尊重スルト共ニ各國居留民ノ保護ニ付テモ列國ヲシテ全カラシムルヲ欲スルモ便衣隊、共產黨分子等ノ反日分子租界内ニ在ル現狀ニ於テハ帝國トシテハ列國ノ態度意思如何ヲ問ハス獨自ノ行動ヲ執ラサルヲ得ス

(ハ)現ニ日本ハ租界ニ於テ軍事行動ヲ執リ居リ共同租界ニ對シテモ問題ハナク軍事行動上ニハ蘇州河以南トカ以北ト

カ云フ區別ハ認メラレス以上自分ノ述ヘタ考ハ佛租界ニ
及フヤ否ヤト云フ問題ニ對シテモ然リト言フヘシ

英國側ニ於テハ同十一日在京「クレーギー」大使廣田大臣
ヲ來訪シ右會見ニ關シ斯ノ如キ言辭ハ最モ不幸ナル印象ヲ
與フルヤモ知レズ右ハ誤リ傳ヘラレタルモノニシテ同大將
ノ言ハ決シテ英國權益ヲ尊重スヘシトノ日本政府ノ約束ヲ
無效ナラシムルモノト解釋セラルヘキニ非サルコトヲ希望
ス

更ニ租界内ニ於ケル反日策動及支那政府ノ行動ニ關シ日本
官憲ニ於テ關心ヲ有セラルヘキ諸問題ニ付テハ平和的雰圍
氣ノ中ニ討議及處理スルコトヲ許容セラレ日本軍ノ燥急ナ
ル行動ニ因リテ問題ヲ複雑化シ其ノ結果關係者全部ノ不利
益トナルカ如キコトナキヲ希望スル旨申出タリ

工部局ニ於テモ「フェツセンデン」ハ十二日上海「タイム
ス」記者ニ對シ工部局ハ中立ノ態度ヲ持スル爲出來得ル限
リノコトヲ行ヒツツアリ抗日運動ノ取締ハ勿論必要ニ依リ
テハ新聞ノ取締ヲモ行フヘシ又避難民及軍兵ノ收容ニ依リ
租界ノ治安維持問題ハ重大トナリタルモ善處ノ自信アリ而
シテ租界當局ト日本側トノ關係カ圓滑ヲ缺キタルコト殆ト

ナク又何等カ問題生セハ工部局トシテハ胸襟ヲ披キ「タク
ト」ヲ以テ處理シ居レリ云々ト日本側ノ意嚮ニ副フ如キ態
度ヲ示シ來レリ

越エテ再ヒ同月十五日午前在京英國大使廣田大臣ヲ來訪シ
上海ニ於テハ蘇州河航行問題其ノ他ノ諸問題發生シ又最近
上海租界ノ將來ニ關スル松井司令官ノ言及等アリタルモ英
國ハ固ヨリ其ノ他ノ關係諸國官憲ニ於テハ若シ租界内ニ於
テ支那側カ策動スルカ如キ場合ニ於テハ日本ト關係當局間
ノ懇談ニ依リ日本側ノ不便困難ヲ除去シタキ考ナルニ付此
ノ際日本側ニ於テ餘リ高壓的態度ヲ執ラレサル様致度右陸
海軍中央ニモ御傳達ヲ希望スト述ヘタリ

仍テ陸海軍側ト打合セノ上十二月二日次官英國大使ニ對シ
十一月十一日ノ松井大將ノ「インターヴィュー」ニ付テハ
種々誤リテ報道セラレ居ル處同大將ハ右「インターヴィュー」
當時迄上海ニ於テ諸般ノ事情ニ基キ關係各國側ノ協調
必スシモ圓滑ナラサリシ事實ニ對シ強キ失望ヲ表明セラレ
タルモノニシテ故意ニ英國側ノ權益ヲ侵害シ若クハ租界ノ
將來ニ付高壓の行動ヲ執ルヘキコトヲ言明セラレタル次第
ニハ非ス右ハ同大將カ十一月十七日英國艦隊司令長官「リ

ツトル」提督竝ニ「スモートレット」少將ヲ答訪シタル際司令長官ニ對シ同大將ハ英國軍隊ニ災禍ノ及ハサルコトヲ希望シ豐田紡ヲ犠牲トシテ英兵ノ撤退ヲ申出テタル等出來得ル限り英國側利益ノ尊重ニ努メタル事實ヲ強調シ今後モ上海ニ於テ英國軍ト最モ密接ナル關係ヲ維持シ東洋平和ノ爲ニ努力シ度キ意向ヲ表明セラレタルニ徴シテモ明ニシテ尙英國大使ハ英國側力租界内ニ於ケル支那側ノ反日策動ニ付平和的懇談ニ依リ日本側ノ不便困難ヲ除去シ度キ考ナル旨ヲ述ヘラレタル處右ハ素ヨリ帝國政府ニ於テモ希望スル所ニシテ英國初メ關係列國ノ協力ニ依リ此ノ種支那側ノ行動ノ速ナル絶滅ヲ期待シ居ル次第ナリトノ趣旨ニテ説明シ置ケリ

1682

昭和12年11月27日

在英国吉田大使より
広田外務大臣宛(電報)

上海租界における中国側の反日活動を抑圧す
べしとの日本側要求に対する英国側反響報告

ロンドン 11月27日後発

本省 11月28日前着

第九二七號

「上海租界問題ニ付二十六日下院ニテ支那側活動ヲ抑壓スヘシトノ要求ニ租界當局ハ如何ニ答ヘタリヤ又租界ハ右要求ニ應スル權限アリヤノ質問ニ對シ「クランボン」ハ日本ハ右趣旨ノ申入ヲ以テ工部局ニ迫リ居ル如キモ自分ハ之ニ對シ回答ノ發セラレタルヲ聞カス又英政府ハ右ニ付相談ヲ受ケタル所ナシ工部局ノ權限ニ關シテハ同局ノ解釋ニ俟ツヘク目下ノ困難ナル情勢下ニ於テハ同局ニ先立ち自分カ右解釋ヲ云々スルハ不適當ト思考スト答ヘ更ニ政府ハ英人カ自己財産ニ接近ノ途ヲ與ヘラルル様日本ニ對シ昨日再ヒ申入レタリト述ヘタリ又二十七日新聞ハ日本租界郵便電信事務及無電局接收ヲ報シ「ガーデアイン」ハ日本ハ十二月一日ヲ期シ同租界占領ノ意嚮ナリトノ噂ヲ書キ立ツル等舉ケテ租界ノ前途ニ付異常ノ關心ヲ示シ居レリ

「テレグラフ」社說ハ二週間前ノ松井司令官聲明ニ對シ東京「スポークスマン」ハ巧ミニ之ヲ釋明シ去リタルモ日本ノ政策力戰地ノ意見ニ依リ指導セラレ居ル事實ハ今や暴露セラレ同司令官ハ上海ノ合法的支配者ニ益々壓力

ヲ加重セルニ至レリ目下ノ所如何ナル抗議モ之ヲ抑フルニ由ナキカ如シト雖先ツ既成事實ヲ造リ上ケ之ヲ維持スルコトニ依リ非常事態ヲ恆久化スル遣口カ日本ノ常套手段ナレハ吾人ニシテ強硬抗議ヲ續ケサル以上日本ノ上海占領ハ確固不動ノモノト爲ルニ至ルヘシ一八〇、〇〇〇、〇〇〇磅ノ英資本投下セラレ居ル上海ノ權益ヲ喪失スルコトハ土耳其、埃及ノ治外法權撤廢等トハ趣ヲ異ニシ歐洲ノ對支貿易全減ヲ結果スヘシ吾人ハ斯ル事態ノ本質ヲ正視セサルヘカラスト論シ

「ガーディアン」ハ上海租界ノ性質ヲ歴史的ニ解説シタル上右ハ結局ニ於テ支那ニ返還サルヘキ性質ノモノナルカ之ハ日本ノ手ヲ經テ實施サルヘキニアラス日本カ海關ヲ支配スルコトトモナラハ全收入ハ日本ノ利益ノ爲戰費捻出等ニ向ケラルルニ至リ又日本ノ租界接收ハ支那ノ門戸閉鎖ヲ結果スヘシ今や英ノ利益ハ正義及法ト一致シ居レハ不名譽ナル屈服ノ如キハ一切之ヲ爲スヘカラスト論シタリ

在歐各大使、壽府へ郵送セリ

1683

昭和12年12月(6)日

在英國吉田大使より
広田外務大臣宛(電報)

日本軍の上海租界通過問題に関する英國紙論

調報告

付記 東亜局作成「昭和十二年度執務報告 第一冊

(第一課關係)より抜粋

「日本軍ノ租界通過問題」

ロンドン 発

本省 12月6日前着

特情倫敦第七二號

三日夕刊ニ續キ四日各紙ハ日本軍ノ上海租界行進ヲ大々的ニ取扱ツテ居リ何レモ社説ヲ以テ日本攻撃ノ論陣ヲ張ツテ居ルカ其ノ主ナルモノ左ノ通り

「デイリー・テレグラフ」「紛争ノ挑發」

文明國間ノ關係カ國際禮讓及道德ニ立脚シテ居ル以上如何ナル日本鼻眞モ上海租界ノ日本軍行進ヲ見テハ日本カ之等美德ヲ行ツテ居ルトハ言ヒ得マイ日本ノ遣口ハ日本カ故意ニ諸國ノ反日感情ヲ煽ツテ居ルト思ハサルヲ得ナイ様ニ仕向ケツツアル右行進ハ工部局、列國領事館及列國駐屯軍司

令官一致ノ反對ヲ無視シ戰爭ノ直接被害者タル支那人及歐
米人ノ面前テ行ハレタノタカラ椿事ノ起ツタノハ當然デア
ノ程度テ濟シタノハ寧ロ不思議ナ位タ日本軍ハ忽チ租界ノ
占領軍ト化シタカ日本カヨリ大キナ事件ヲ目論シタノテハ
ナイカトノ疑問力起リ得ル租界ハ戰爭ノ當事者テナク從テ
被征服地域テナイ以上右行進ハ全ク不必要ナ挑發行爲タト
斷セサルヲ得ナイ日本ノ手ハ現ニ外國ニ迄延ヒ上海ノ税關
及運輸機關ハ其ノ支配下ニ置カレルニ至ツタカ此ノ事件ノ
結果日本ノ侵略力強化サレナケレハ意外ノ幸ト言フヘキタ
蓋シ從來日本ノ侵略ハ必ス何カ椿事ノ勃發ヲ合圖ニ遂行サ
レタカラタ日本ハ常ニ反日行動鎮壓ヲ云々スルカ今回ノ行
動程一般人ノ反日感情ヲ激化スルモノハナイ
軍國主義者ノ垂涎スル香港ニ於テモ日本領事ハ既ニ反日行
動取締ノ要求ヲ提出シタカ日本ノ傳播シタ此ノ風潮ハ容易
ニ收マルヘクモナカラウ

「タイムズ」「上海ノ自惚」

昨三日倫敦ニ達シタ南京路事件ノ報道ハ稍々誇張サレテ居
ルカ事實ハ日本人特有ノ熱中癖ト神經過敏ノ產物ニ過ギナ
イ然シ此ノ事件ヲ以テ軍ノ外國權益ニ對スル態度ヲ反映シ

タモノト觀察スル時初メテ意義カ生スル日本側カ何ヲ意圖
シタカハ明カテナイカ餘リ行過キタコトハ確カタ外國人ノ
權益ヲ彼等カ現地ノ情勢カラ見テ諦メ得ル程度以上ニ侵害
スルコトハ不得策タラウ目下日本ノ對列強反感就中對英反
感ハ頗ル熾烈ナモノカアリ輿論カ此ノ種行動ヲ支持スルノ
ハ不思議テナイカ事態ヲ荒立テナイ方カ有利ナ現在堂々
海租界ヲ行進シタコトハ日本軍當局カ偉大ナ帝國主義者ノ
有スヘカラサル弱點ヲ如實ニ示シタモノト解シ得ヨウ
「マンチエスター・ガーディアン」「上海ノ愚劣行爲」

冷靜公平ナ觀察者モ日本今回ノ行爲ヲ見テハ其ノ態度ヲ改
メサルヲ得マイ日本國旗ヲ侮辱シタ英國人モ愚劣タカ日本
ノ遣口モ之ニ劣ラス愚カタ列國ノ眼前テ斯カル「デモ」ヲ
敢行スル氣持ハ判ルトシテモ未タ他ニ遣方モアツタ筈テナ
イカ此ノ様ナ亂暴ヲサレテハ彼等カ事件ヲ起シテ野心ヲ
逞シクセントシタノテナイカトノ疑問力起ルノモ當然タ
「ニユース・クロニクル」

工部局警察ノ努力テ事件カ擴大シナカタノハ幸タカ此ノ
事件ヲ見テモ最早日本ノ野心ヲ否定スルコトハ不可能トナ
ツタ日本ノ政策ハ征服テアリ支那及列國ノ權益國際道德ノ

蹂躪ニ他ナラナイ

「デイリー・ヘラルド」「上海ノ教訓」

英國ノ權益カ危殆ニ陥ルコト現在ノ上海香港ノ如キハナイ
英國民ハ宜シク強硬手段ヲ取ルヨウ政府ニ要求スヘキタ

「デイリー・エクスプレス」

宣戰布告ヲ行ハヌ日本カ上海ノ外國人ニ命令スル權利ハナイ
伊等テ日本ノ上海支配ハ暴力の征服ニ他ナラヌ聯盟協會等
ハ宜シク反省スヘキタ

(付記)

日本軍ノ租界通過問題

第一、西部紡績工場地帯ヘノ派兵問題

一、租界内ノ秩序維持殊ニ邦人財産カ多大ニ存在シ居ル西部方面ノ治安狀況ニ關心ヲ有セル日本側ニ於テハ、十一月二十日岡本總領事及原田武官ヨリ夫々共同租界工部局及佛租界當局ヘ「軍ニ於テ必要ト認ムル時ハ租界通過ヲ爲シタキ意向アル」旨通告シ相當強硬ナル對租界態度ヲ示セリ

二、然ルニ同月二十三日開催セル非公式領事團會議ノ席上

米國總領事ヨリ本件通過問題ニ關シ「英、米、伊三國司令官ニ於テ協議中ナルモ斯ノ如キ重大問題ハ事態更ニ平靜ヲ見ル迄此ノ際見合サレ度」旨述べタルニ依リ岡本總領事ヨリ「現在ノ共同防備計畫ハ五年以前協定セルモノニ係リ此ノ際現狀ニ即シ各國司令官間ニ協議スルコト適當ニシテ日本側トシテハ特ニ西部紡績關係財産及日本人保護ノ爲軍ノ一部ヲ駐屯セシムルモ夫レニ因リ租界ノ平和ヲ攪亂スルコトハ思考セサル」旨岡本總領事ヨリ應酬シタリ

佛租界通過ニ付テモ二十二日日高參事官佛國大使ヲ訪問セル際同大使ハ「佛租界從來ノ建前トシテ武裝軍隊ノ通過ヲ認メサル」旨述べ居タリ

三、然ルニ其ノ後海軍側ニ於テハ前記西部紡績關係財産及日本人保護ノ爲十二月一日ヨリ西部日本側紡績工場ニ陸戰隊ヲ派遣シ度希望ヲ有シ、右區域ノ警備擔任者タル英、米、伊國及工部局ノ各責任者ノ意向ヲ確メタル處、米ハ文句ナク工部局義勇隊ニ於テハ工部局ノ命令アレハ差支ナキ旨回答越セリ

又英國軍側ニ於テハ「上海ノ秩序ハ未タ日本軍カ蘇州河

以南ニ來タルモ差支ナキ程度ニ改善セラレ居ラサルヲ以テ前記日本側ノ措置ハ見合サレ度」旨申出來レリ

一方在京米國大使館ニ於テモ參事官十一月三十日東亞局長ヲ來訪、「共同租界ハ一種ノ中立地帯ニシテ列國共同防備計畫ニ依レハ受持區域以外ノ部分ニ於ケル自國民保護ノ爲特別ノ措置ヲ執ラントスル場合ニハ該部分ノ守備軍司令官ノ同意ヲ得ルノ要アリ且下ノ狀態ニ於テ日本軍ヲ人口稠密ナル區域ニ入レルコトハ租界ノ安寧秩序ニ重大ナル危險ヲ及ホス次第ナルヲ以テ列國司令官ニ於テ斯カル同意ハ拒絕スルコトアリトスルモ無理ナラス又事實問題トシテモ避難民激増ノ折柄日本軍ノ蘇州河以南ニ入ルコトハ事端發生ノ因トナリ外國居留民ノ安全ヲ害スルカ如キ重大ナル事態ヲ發生セサルコトヲ保シ難キ次第ニシテ關係地域ニハ武裝支那軍隊存在シ居ラサルニモ鑑ミ此ノ際日本軍ニ於テ前記地域ニ進入セサル様訓令アリ度」ト申出アリタルニ對シ東亞局長ヨリ「本件ニ付テハ現地ノ實狀ニ應シ在上海總領事ニ於テ直接關係當局ト協議中ト思考セラルル處兎モ角御申越ノ次第ハ上海ニ問合スコトト致スヘシ」ト應酬セリ

又同日在京英國大使館參事官モ歐亞局長ヲ來訪シ「日本側ニ於テハ米國及伊國守備區域内ノ紡績工場及豐田紡ヘ派兵ノ趣ナル處列國守備區域周邊ニ位置スル日本側紡績工場ヲ日本軍ニテ再占據スルコトハ日本軍ト外國軍隊トヲ餘リニ接近セシメ危險ナルニ付外國軍隊力守備區域周邊地區ヨリ撤收スル迄ハ右措置ニ出テサルコトヲ希望ス」トノ趣旨ヲ申出テタリ

四、以上ノ如キ經緯ニモアリ、海軍側ニ於テハ本件不取敢見合スコトトナリタリ仍ツテ本件通過問題ハ一先ツ結著シタル次第ナリ

第二、租界示威行軍及南京路爆彈事件

一、陸軍司令部側ニ於テモ遇々時期ヲ同シウシテ上海周邊ノ新警備部隊ヲ配置ニ就カシムル際即チ十一月三十日及十二月二日ノ兩日佛租界「アベニユ、ホツシ」ヨリ共同租界ヲ通過シ行進セシメントノ議アリタルカ陸軍武官室側ニテ右ハ租界内現下ノ狀況ニ於テハ時期尙早ナリトノ見地ヨリ一應取止ノコトニ決定シタル趣ナリ

然ル十二月一日軍司令部ハ突如上海警備軍ノ一部ニ對シ三日豐田紡附近ヨリ途中共同及佛租界境界路及南京路

ヲ通り「ガーデン、ブリッチ」ニ至ル租界内通過行軍方
命令ヲ下セリ仍テ一日聯絡將校ハ右ノ趣通過地ノ警備擔
任者タル英佛軍側ニ通告シタルニ對シ先方ニ於テハ「右
カ前項十一月二十日申入ノ節原田武官ニ對シスルコトハ
時期尙早ナルヲ以テ當分見合セラレ度シト申述べ大體了
解ヲ得置キタル所ニ合セス依テ萬一事件發生スルモ責任
ヲ取得サルモ強行セラルルナラハ工部局ト協力シ警戒ハ
スルヘシ」トノ趣旨回答越シタリ

然レトモ軍ハ右ニ不拘實行ニ決シ居ルニ依リ二日岡本總
領事ヨリモ軍ノ要求ニ基キ工部局ニ對シ更メテ途中ノ警
戒ニ遺漏ナキ様申入レ置キタリ

二、次テ三日午前十一時（上海時間）豫定ノ如ク行軍ヲ開始
セルカ南京路新新公司前ニ後半部隊ノ先頭ノ歩兵部隊カ
差懸リタル際一支那人江西路ヨリ警戒線ヲ突破シ走り出
テ隊列ニ向ヒ手榴彈ヲ投シ爲二兵三名、工部局外人、支
那人、印度人巡查各一名及私服警戒中ノ總領事館吉岡巡
査等ノ七名ノ重輕傷者（何レモ生命ニ別條ナシ）ヲ出シ犯
人ハ其ノ場ニテ工部局支那人巡查ニ拳銃ニテ撃タレ（生
命危篤）タル事件發生セリ之カ爲軍ニ於テハ行軍ヲ暫時

停止シ工部局警察ト共ニ犯行調査及警戒ノ爲約一小隊ヲ
現場ニ留メシメタル後他ニ故障ナク行軍ヲ終了セリ

事件當初軍一部ニ於テ極メテ強硬ナル意見ヲ有シ容易ニ
撤兵ヲ肯セサリシモ現場ニ赴キタル楠本大佐及吉岡領事
ヨリ軍司令部ニ於テハ此ノ際本事件ヲ速ニ解決スル方針
ナルコトヲ告ケ警備部隊ヲ説得スルト共ニ、工部局「ゼ
ラード」監視總監ヲ招致シ左記條件承認方強硬ニ要求シ
「ゼ」總監遂ニ之ヲ諒トシ右ノ次第ヲ市參事會ニ通報ス
ヘク工部局警察ニ關スル限りハ此ノ種事件ノ再發ヲ防止
ノ爲凡ユル努力ヲ爲スヘキ旨文書ニ認メシメタル後我軍
撤兵ヲナシ漸ク午後八時頃（上海時間）ニ至リ了シタリ

記

- (一) 日本軍ハ今後必要ト認ムル場合無警告ニテ共同租界ヲ
自由ニ通行ス
- (二) 今後本日ノ如キ不祥事件絕對ニ起ラサル如ク工部局警
察ハ充分ナル努力ヲ行フコトヲ約ス
- (三) 今若シ本日ノ如キ不祥事件起リタル場合ハ日本軍ハ工
部局警察力治安維持ノ實力ナキモノト認メ適當ト認ム
ル獨自ノ行動ヲ執ル

(四)工部局警察ノ取締ニ關シ遺憾ノ點アリト認ムル時ハ日本軍ニ於テハ搜查、檢察等適當ト認ムル獨自ノ處置ヲ執ル

尙右進行竝ニ南京路事件ニ關シ外人トノ間ニ派生シタル事件大要左ノ如シ

(一)英國人ノ我國旗侮辱事件(本款末尾參照)^(省略)

(二)我軍隊ノ切レ目ヲ横切ラントシタル外國人カ強ク制止セラレタル事件二、三アリ

(三)爆彈事件發生後我軍カ警戒線ヲ張りタル南京路ト處治卿路ノ交叉點附近ニテ米國人「レイド」ナル者及國籍不詳ノ「マーフィ」ナル者警戒線ヲ無視セル爲我兵ノ爲排除ケラレ尙英國軍隊ノ「トラツク」數臺モ通過ヲ阻止セラレタリ

(四)午後四時頃軍カ警戒線ヲ擴大シ馬霍路ニ兵ヲ出シタル際米國陸戰隊側ヨリ自國守備區域ニ付撤去セラレ度シト申出テ我兵ハ之ニ應シ處治卿路ニ戻リタリ

三、一方在京英國大使館側ニ於テモ十二月三日「クレイギ」大使堀内次官ヲ來訪シ

「三日日本側ニテハ英國側ノ意向ニ反シ租界内通過ヲ

強行セラルルコトナリタルハ甚タ不幸ト云フヘク或ハ英國議會ニ於テモ相當問題トナルヘキニ付日英關係ノ惡化ヲ防止スル點ヨリスルモ日本側ニ於テ何故ニ強行通過ヲ必要トセラレタルヤノ理由ヲ承知致度」

ト述ヘ又同日附半公信ヲ以テ

「我軍通過道筋カ出來得ル限り米國守備區域ヲ避ケ英國守備區域内ニ限定セラレ居ルヤニ認メラルトテ此點ニ關スル説明ヲモ求ム」ナル趣旨ヲ申出來レリ

仍テ十二月八日左記ノ通回答セリ

記

拜啓陳者十二月三日上海ニ於ケル日本軍部隊ノ共同租界英國軍守備區域通過行進ニ關スル同日貴我會談竝ニ同日附貴信御申越ノ趣ニ關シ早速現地官憲ニ就キ事情照會致候處本件共同租界通過行進ハ全ク我方一部兵力移動ノ便宜ニ出テタルモノニ有之行軍部隊ハ楊樹浦以東地域ノ警備ヲ擔任致スヘキモノニシテ租界東部ヲ外國人ニ開放スヘキ時期相迫リタルヲ以テ速ニ配置ニ就カシムル必要アル處租界ヲ迂廻セハ遠路ナルノミナラス道路橋梁等破壞セラレタル箇所多々アリ移動ヲ遲延セシムル處多カリシ

事情ニ依リタル趣ニ有之候

尙行軍部隊カ稍屈曲セル經路ヲ通過セルハ同部隊ハ將來租界附近ノ警備ヲ全ウスヘキモノナルヲ以テ佛國租界及共同租界ノ現狀及警備狀況ヲ見セ參考ト爲サシメントノ趣旨ニ出テタルモノニ有之仍テ其ノ間成ルヘク佛國及共同兩租界境界道路ヲ通過セシメタル次第ニシテ殊更米國防備區域ヲ避ケ英國ノ區域ノミヲ通過セシメントノ意向ハ毫モナカリシ趣回報有之候條右ニ御了知相成度此段得貴意候

敬 具

四、工部局ニ於テハ南京路爆彈事件ノ際取交シタル文書ニ付相當苦心シ居ル旨四日岡崎總領事^(本カ)ニ話アリタルニ付楠本武官ニ諮リタル處楠本ヨリ事件ノ結末ヲ司令官ニ報告ノ爲文書トスルコト希望シタルモ軍トシテハ寧ロ行軍ハ満足ニ行ハレタルモノニシテ右事件ノ如キハ何等意ニ解スルモノニ非ス從ツテ將來右文書ヲ利用セントスル意ナク又事件自體ノ結果ニ付テモ昨日ノ話合ニテ一切解決シタルモノトナシ此ノ上何等ノ措置ヲ執ル意向ナシ尙若シ工部局首腦部ニテ危惧シ居ラハ適宜話置カレ度トノ本文書ニ對スル軍ノ態度ヲ闡明ニセリ更ニ十二月六日工部局

ヨリ領事團首席ニ對シ本件顛末ヲ覺書トナシ通報シ來レル結果領事團ニ於テハ七日岡本總領事ヲ除キ治外法權國領事ノ會合ヲ催シ審議ノ結果首席諸威總領事岡本總領事ヲ來訪シ一應ノ説明ヲ求ムルト共ニ八日朝右關係領事會合ノ席上ニテ岡本總領事ヨリ「日本軍通過ニ當リ工部局警察ニ於テ警戒ヲ嚴ニシ事端防止ニ努メタル努力ハ認ムルモ夫レニモ拘ラス不祥事ヲ防止シ得サリシハ遺憾ナリ軍ノ意向ハ本件發生ヲ見タルニ拘ラス之ヲ利用スル如キ意思ナク現場ニ殘セシ少數部隊ヲモ可級の速ニ引揚ケシメタル程ニシテ又所謂文書ニ付テハ日本側ニ於テ本事件ハ既ニ解決ヲ見タルモノトシ取扱ヒ此ノ上措置ヲ執ラサル意向ナリ」ト説明シ置キタリ

五、右ニ關シ在京米國大使ハ十一日口上書ヲ以テ「三日ノ軍租界內行進ニ際シ發生シタル事件ニ付八日關係領事會合ニ於テ岡本總領事ノ爲シタル聲明ニ關シ日本政府ニ於テ共同租界內ノ秩序維持破壞ノ虞アル事件再發ノ懸念ナカラシムヘキヲ確信ス」ル旨念ヲ押シ來レリ仍テ十五日「工部局ノ行政ト權威ヲ毀損セシムルカ如キ何等意圖ナキコトハ勿論共同租界ノ治安維持ニ關シ租界當局ト協力

スヘキコトハ其ノ一貫セル方針ナル」旨回答セリ

尙十二月九日在京英國大使廣田大臣ヲ來訪シ、左記書物ヲ手交シタル上

日本軍隊ノ上海租界行進中ノ出來事ニ關聯シ、日本側カ「ゼラード」ニ約セシメタル條件ハ其ノ後撤回シタル由ナルモ世間ニ於テハ未タ之ヲ知ラサルニ付、右ハ既ニ撤回セラレタリトノ趣旨ヲ聲明スル様取計ハレ度シ

ト述ヘタルヲ以テ、大臣ヨリ

右ハ當時日本軍隊カ事故ノ爲興奮シ居タル爲、之ヲ宥ムル爲ノ必要ヨリ取極メタルモノニシテ今之ヲ撤回セル旨公示セハ、軍隊ノ興奮ヲ新ニ却テ面白クナカルヘシ

ト答ヘタルニ對シ英國大使ハ

或ハ然ランモ、セメテ「右ハ修正セラレタリ」位公示出來サルヤ

ト述ヘタリ。右ニ對シ大臣ハ

右ハ軍ニ關係アルコト故、自分一存ニテ兎角ノ返事ヲ致シ難キニ付、研究シ置クヘシ

ト答ヘタリ

記

在上海日本陸軍當局ニ對シ、十二月三日上海ニ於ケル日本軍總司令官代理楠本大佐ヨリ上海工部局警視總監「ゼラード」少佐ニ提出セラレタル要求ヲ撤回シ、且工部局ノ同意ナクシテ共同租界ニ於テ搜查逮捕ヲ差控フル様訓令ヲ發セラルルコトヲ切望ス

工部局巡查ハ十二月三日日本軍隊ノ租界内行進中凡ソ人力ニテ爲シ得ル限りノ警戒ヲナシタルコト明白ニシテ又右行進ニ依リテ與ヘラレタル刺戟ヲ考慮セルトキハ此レ以上ノ事件ナカリシハ驚クヘキコトナリ

日本陸軍當局ノ干涉ハ租界内ノ法ト秩序トノ保全ニ努カシ居ル工部局ノ行政ト權威トヲ毀損スルニ似タリ
斯ル行動ニ依リ日本軍憲ハ何物ヲモ得サルノミナラス單ニ此ノ人口稠密ナル地域ニ混亂ヲ惹起シ日本人竝ニ外國人ノ多數價值アル利益ヲ危險ナラシムルニ成功スルノミナラン

佛租界通過ニ關シテハ十一月二十日及二十二日ノ會談ノ際交渉シタルモ佛側ハ外國軍隊ノ通過ハ一切許サストテ

容易ニ纏マラス其ノ間十二月一日在京佛國大使廣田大臣ヲ來訪シ「日本軍ハ上海租界ヲ通過シ南市方面ト交通セントシツツアリトノコトナルカ夫レハ佛租界ノ中立性ヲ侵害シ且又支那避難民カ多數入込ミ居ル際トテ事故發生ノ虞アリ南市トノ交通ナラハ浦東經由ノ方法モアルヘシトテ右通過見合セ方配慮アリ度」旨申出アリタリ其ノ後モ南市警備ノ任ニアル我軍隊ヘノ糧食補給ノ爲軍用「トラック」ノ「フレンチ、バンド」通過方交渉中ノ處佛國側ニテハ武裝セサル兵隊ヲ乗セ且通過ノ度毎ニ事前ニ佛國側ニ通告スルコトヲ條件トシテ二十八日之ヲ同意セリ仍テ右話合ニ基キ四日午前九時半頃佛國側ヘ豫告ノ上午前十時頃長谷部大尉指揮ノ下ニ「トラック」五臺（各「トラック」ニ兵四、五名分乗）「フレンチ・バンド」ヘ差懸リタル際突如佛兵及警官約五十名列ヲ作り（「タンク」三臺出動）行手ヲ塞キ通行ヲ肯セス双方對峙シ形勢險惡トナリシモ吉岡領事現場ニ赴キ事情聴取ノ上佛國總領事ニ面會右佛國ノ措置ノ兩國間話合ニ反スル點ヲ詰リ事態頗ル切迫シ居レルニ付至急通過セシムル様取計ハレ度キ旨述ヘタル處同總領事ハ日本側ノ通告カ餘リニ「シ

ョート・ノーチス」ナリシコトカ斯ル事態ヲ惹起セルモノナリ今後ハ少クトモ二十四時間前ニ通告アリ度シト述ヘタル上「トラック」通過方同意セル結果午前十一時頃佛國側ハ守備陣ヲ解キ我「トラック」ハ佛國警察官先導ノ下ニ無事南市ニ入りタリ

~~~~~

1684

昭和13年1月(8)日  
在英國吉田大使より  
広田外務大臣宛(電報)

### 上海共同租界工部局に対する日本の態度を非難する英國紙論調報告

ロンドン 発

本省 1月8日後着

特情倫敦第二號

七日ノ「タイムス」ハ上海ノ事態ニ付次ノ如キ社説ヲ掲ケテ居ル

日本ハ歐米諸國ノ在支權益尊重ヲ繰返シ誓約シタカ其ノ上海工部局ニ對スル態度殊ニ電信檢閲ノ如キハ右誓約ノ内容及精神ニ反スルコトカ明カテアル又日本ハ共同租界ニ於ケル商業ニ關與スル何等ノ法的根據無く租界ノ行政及警察ノ

方面ノ日本人増加ヲ企圖シ成功シナカツタカ之トテ何等正當ノ理由ハ無イ日本ハ事實上上海ヲ支配シテ居ルカ日本ノ侵略ニ依リ工部局及租界ノ地位ハ何等變更サルヘキモノテナク從テ日本ハ自ラ其ノ一員タル團體ニ對シテ交渉シテ居ルノテアルカ上海ノ事態ヲ變更スルニハ土地章程調印國ノ同意ヲ要スル今日不幸日本政府ハ軍部ニ對スル抑制力ヲ缺キ軍部モ亦青年將校ニ對スル制御ノ力ト意思トヲ持ツテ居ナイ其ノ上陸海軍ハ對立關係ニ在リ青年將校相互間ニハ政治的思想的不一致カアリ更ニ盲目的愛國ノ情ハ戰勝ニ依テ一層煽ラレ英國初メ歐米諸國及白色人種一般ニ對シテ絶エス宣傳ノ手ハ延ハサレテ居リ斯クテハ日本ノ外交政策ハ太平洋ニ利害關係ヲ有スル諸國ト衝突スルハ明カテアリ歐米トノ接觸點タル上海ノ事態力惡化スルノハ當然テアル要スルニ今後日本ノ資源、支那ノ抵抗力及列國ノ忍耐ノ多大ノ試練ヲ經ルコトナクシテハ時局ハ纏マラヌダラウ

1685

昭和13年1月19日

在上海岡本総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

上海共同租界内での中国側機関による一切の政

治活動を容認できない旨工部局へ通報について

上海 1月19日後発

本省 1月19日夜着

第一九一號

最近大道市政府側ヨリ租界内支那法院カ中央ノ命ニ依リ同市政府職員ニ對シ逮捕狀ヲ出スヤノ聞込アルヲ以テ何トカセラレ度キ旨申出アリタルニ付本官ヨリ「フランクリン」ニ對シ口頭ニテ注意ヲ喚起シ更ニ「コンフィデンシャル」ノ私信ヲ以テ右ノ趣ヲ指摘シ既ニ累次ノ申入ニ依リ明カナル通り我方ハ租界内ノ支那側機關カ如何ナル形式ニ依ルヲ問ハス一切政治的活動ヲ爲スコトハ容認出來サルニ付法院關係者ニ對シ斯カル行爲ヲ慎ム様然ルヘク説得アリ度シ尙大道市政府職員ト言ハス一般ニ我方ト協力シ當地ノ復興ニ努力シ居ル支那人ニシテ租界ニ居住來往スル者ノ保護ニ付テハ充分注意アリ度キ旨申入レ置キタル處「フ」ヨリ十八日附書面ヲ以テ能ク了承セル旨ノ返事アリタリ

尙大道市政府ニ於テハ軍側モ能ク知ラル中ニ既ニ「ケントウエル」ヲ特一區法院院長ニ任命シ同法院ヲ接收セシムヘキニ付此ノ旨領事團ニ通報シ且何分ノ協力ヲ與ヘラレ度

ク申シ來リ「ケ」ヨリ支持ヲ得度キ旨伺出テタルニ付輕舉  
ヲ戒メ置キタリ(關係文書郵送)

北平、天津ニ轉電セリ

~~~~~

1686

昭和13年2月21日
在本邦クレギー英國大使より
外務省宛

上海共同租界の日本軍占領地域に対し軍事占
領を終了し工部局警察による統制を完全に回
復するよう要求について

☆
上海日本軍占領地開放ニ關スル件

二月二十一日附英國大使覺書要領

(昭和二三、三、東亞一)

覺書

日本政府ニ於テ承知ノ如ク現在ニ於ケル上海共同租界ニ於
ケル事態ハ經濟活動ノ見地ヨリ見ルニ最モ不満足ニシテ去
ル一月十日(日本外務大臣宛)貨物置場ヘノ出入及貨物ノ搬
出ニ對シ日本陸海軍當局ノ附シ居ル制限力維持セラルルコ
トノ極メテ適當ナラサルヲ指摘シタル文書ヲ發出セリ英國
政府ハ平常狀態ノ恢復ハ日本政府ニ於テモ確保セラレ度キ

所ト思料シ居レルカ右ハ共同租界東北部ニ於ケル軍事占領
ヲ終止シ又ハ工部局警察ニヨル統制ヲ完全ニ回復シ得ル程
度ニ緩和スルニ非サレハ期待シ得サルモノト思料ス右ニ關
聯シ左記二點ニ付注意ヲ喚起スルコト時宜ニ適スト思料セ
ラル

一、本件地域ハ國際地域ナリ日本側軍事占領ハ外國人ニ對ス
ルト支那人ニ對スルトヲ問ハス通常ノ居住及營業ヲ制限
スルモノナル限り外國權益ニ對スル重大ナル侵犯ヲ構成
ス

二、客年十月四日附英國大使ノ口上書ニ對シ外務次官ハ口頭
ヲ以テ共同租界ハ防衛ノ必要上作戰基地ニ使用シ居レル
モノナル旨説明セリ然レトモ軍事行動ハ今や上海ヨリ遠
隔ノ地ニ移動シタルヲ以テ最早同地ヲ軍事基地トシテ使
用スル軍事上ノ必要ナシ

仍テ英國政府ハ遠カラス此ノ國際的地域ニ對スル軍事的
管理ノ緩和セラレンコトヲ熱心ニ希望ス

編注 本文書の原文は見当らない。

~~~~~

1687

昭和13年5月18日

在上海日高総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

維新政府による上海特区法院実力接收説と工

部局の對抗措置につき報告

上海 5月18日後発

本省 5月18日夜着

第一五六九號(極秘)

一、<sup>(1)</sup>英國租界内ニ在ル第一特區地方法院及高等法院第二分院ノ接收ニ付テハ客年末大道政府カ「ケントウエル」(英支混血ニシテ「チャイナ、アウトトルツク」編輯者)ヲ前者ノ院長ニ任シタルモ我方ニ於テ「ケ」ヲ相手トセサリシ爲一應立消トナリタルカ維新政府カ四月中旬凌啓鴻ヲ接收委員長ニ命シテ以來再ヒ問題トナリ最近漢字紙ニ盛ニ喧傳サレタルカ本月十六日英米側ハ警備區域ニ從ヒ各法院ニ派兵シ接收ニ對抗スル態度ヲ執ルニ至レリ當方ニ於テハ未タ慎重研究ノ範圍ヲ出テサル處十七日外人記者團ノ質問ニ對シテハ維新政府カ若シ法院ヲ平穩ニ接收スルモ回收章程ヲ遵守スル限り問題ナカルヘキ筋合ナル旨ヲ應酬セシメ置キタリ

二、右ニ關シ十七日「ロング」カ「フエツセンデン」ヨリ得タル極秘情報ニ依レハ數日前第二分院長徐維震カ凌ノ部下ヨリ近ク接收ノ企圖アルヲ聞キ之ヲ英國總領事ニ傳ヘ英ハ工部局ニ對シ接收ニ抵抗スルコト然ルヘキ旨ヲ述ヘタル爲工部局ハ直ニ警察官ヲ増員派遣シタルカ次テ十六日「フ」カ政府側ニ於テ強力接收手段ニ付討議アリタル旨ノ諜報ヲ得(虚報ナリ)之ヲ英米及首席領事ニ回付シ右ハ更ニ各自國守備軍側ニ廻サレタル結果英米内部ノ關係ハ判明セサルモ派兵保護トナリシ内情アル由

三、尙「フ」ハ曩ニ「ゴウス」在勤當時接收ノ際ノ對策トシテ革命當時ノ如ク領事團ニ於テ臨時ニ法院ヲ新設スヘキ案ヲ論議シタルモ「ゴ」ヨリ國民政府猶存在スルヲ以テ右先例ヲ踏襲シ得スト言ハレタル爲「ゴ」ハ領事團會議ノ際モ本件ニ言及シ法院ノ現狀ヲ變更セス裁判ノ滯滞ヲ來ササルコト必要ナル旨度々力説シタルコトアリ最近別案トシテ接收後ノ維新政府法院ニハ一切事件ヲ廻サス一九三〇年回收章程前ノ土地章程ニ依リ工部局ノ罰金ヲ課ス權限ヲ復活シ輕微ナル犯罪ニハ罰金ヲ取立テ供託保管シ重キモノニシテ確證アル場合ニハ判決ヲ爲サス監獄

ニ入レ置クコトトシ本件ノ根本解決ヲ待ツコト然ルヘシ  
トノ案ヲ起草シ英、米、佛及首席領事ニ見セタルニ何レ  
モ反對ヲセサリシ由ナリ

四、我方トシテハ前述ノ通り未タ本件研究中ニテ十七日三省  
側ニテ討議シタルニ止マルノミナラス極メテ慎重ナル態  
度ヲ以テ臨ム要アルコトニ意見合致シ居リ遽ニ不測ノ事  
件ヲ惹起スルコトナシ

五、前記三ノ工部局案ノ妥當性ニ付研究ノ結果同電アリタシ  
北京ヘ轉電セリ

1688

昭和13年5月27日 在上海日高總領事より  
宇垣外務大臣宛(電報)

上海特區法院の實力接收は困難であるため法  
院職員に維新政府が辞令を交付する形式での  
接收工作を軍側進行中について

上海 5月27日後発  
本省 5月27日夜着

第一六八八號(極秘)

往電第一五六九號ニ關シ

其ノ後凌啓鴻ハ法院接收問題ニ關シ英國總領事及首席領事  
ト非公式ニ意見ノ交換ヲ爲シタル處英國側ハ右ニ關シテハ  
領事團ニ諮ル外本國政府ニ請訓ノ要アル次第ヲ述ヘ首席領  
事モ領事團會議開催ノ要アル旨述ヘタル趣ナルカ(二十七  
日ノ領事團會議席上首席及英國領事ヨリ非公式ニ會見ノ模  
様ヲ披瀝シ凌ヨリ維新政府ハ法院ニ關スル協定ヲ尊重スル  
意思ナルト共ニ判事ハ多分其ノ儘留任スルナラント述ヘタ  
ルニ對シ兩總領事共本件ヲ議論スルコトハ出來サルモ法院  
カ圓滑ニ運用セラルルコトカ大切ナル旨ヲ答フルニ止メ置  
ケリト述ヘタリ)一方軍側ニ於テモ漸次問題ノ容易ナラサ  
ルコトヲ自覺シタル結果現法院ノ職員ヲ變更セス其ノ儘接  
收スル案(即チ維新政府ヨリ現判事等ニ對シ辭令ヲ交付ス  
ルモノナリ)ヲ樹テ行政院長梁鴻志カ第二分院院長徐維震ノ  
友人タルヲ利用シ同人ヲシテ右方面ニ工作ヲ進メツツアリ  
尙凌ヲ接收委員長トシ置クコトハ右工作ノ障礙トナルニ依  
リ同人ヲ司法行政部ノ次長位ニ任命シ接收委員長ノ資格ヲ  
取消スコトトスル内意ナリ  
事情右ノ如クナルヲ以テ此ノ際法院ノ急激ナル接收ハ困難  
ト認メラル

1689

昭和14年2月21日

在上海三浦総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

旧正月における対日テロ多数発生に対して上海

共同租界の治安維持方工部局へ要求につき請訓

上海 2月21日後発

本省 2月21日夜着

第(四二五)號(大至急)

往電第四二〇號末段ニ關シ

二十一日午後陸海外三省熟議ノ上明二十二日午後工部局議  
長宛左ノ如キ要求ヲ提出スルコトニ決定シタリ就テハ陸海  
軍側ト大至急聯絡ノ上右ニ御異存アルニ於テハ二十二日正  
午迄ニ御垂示アリタシ

一、犯人ノ逮捕及追放ニ關スル一九三八年七月十九日附工部  
局緊急條令ノ規定ヲ嚴重勵行スルコト

二、共同租界ニ於ケル治安維持ハ帝國モ其ノ責任竝ニ義務ヲ  
有スルモノナルニモ鑑ミ邦人保護竝ニ對日「テロ」ノ禁  
遏ノ爲

憲兵領事館警察官等我方警備機關力共同租界内ニ於テ右  
目的ノ爲ニ所要ニ應シ隨時必要ナル區域ニ其ノ警察權ヲ

行使シ以テ工部局警察機關ニ協力スルコト

三、日本官憲ハ工部局ト協力シテ所要ニ應シ黃浦江及蘇州河  
ヨリ租界ニ出入スル支那人及其ノ搬出入スル物品ヲ検査  
シ必要ニ應シ之ヲ日本官憲ニ於テ抑留スルコト

四、工部局警察ニ於ケル日本人警察官ノ増強

五、共同租界内要所ニ於ケル通行支那人ノ身體検査ノ即時勵  
行

在支各總領事及香港へ轉電セリ

1690

昭和14年2月22日

有田外務大臣より  
在上海三浦総領事宛(電報)

上海共同租界治安維持に關する工部局への要

求につき回訓

第(二七九)號(大至急)

貴電第四二五號ニ關シ

本省 2月22日発

本二十二日陸海外三省協議ノ結果左ノ通り意見一致ヲ見タ  
ルニ付テハ右ニ基キ御來示ノ措置ヲ講セラルルコトト致度  
貴電ノ第二項ヲ「共同租界ニ於ケル抗日「テロ」行爲橫行

ノ事實ニ鑑ミ邦人保護竝ニ對日「テロ」ノ禁遏ノ爲憲兵領事館警察等我方警備機關カ共同租界内ニ於テ右目的ノ爲ニ所要ニ應シ隨時必要ナル區域ニ於テ所要ノ措置ヲ執リ以テ工部局警察機關ニ協力スルコト」ト改ム

右ハ貴電ニ所謂「治安維持ハ帝國モ其ノ責任竝ニ義務ヲ有ス云々」トスル時ハ我方單獨ノ權力ヲ發動セントスルニ對シ理論上ノ妨ケトナルヘク又貴電ニ所謂「其ノ警察權ヲ行使シ」トスル時ハ工部局警察權トノ關係ニ於テ無用ノ法理的議論ニ踏込ム惧アルコトヲ考慮シタル爲ナリ

尙第二項及第三項實施ノ具体的方法ニ付テハ現地ニ於ケル折衝ニ俟ツコトトシ(例ヘハ憲兵及領警ノ活動スル場合ハ私服トスルヤ否ヤ等ノ點)且右要求貫徹ニ至ラサル場合ハ措置ニ付テハ改メテ審議スルコトト致度  
且又本件ハ今後ノ交渉上ノ都合モアリ要求ノ具体的内容ニ付テハ此ノ際公表セサルコト然ルヘシト認ム爲念  
在支各總領事、香港ニ轉電セリ

1691

昭和14年2月22日

在上海三浦總領事より  
フランクリン工部局參事會議長宛

## 上海共同租界治安維持に關するわが方要求事項について

付記一 昭和十四年二月二十五日付

右わが方要求への工部局回答

二 昭和十四年二月二十八日付

右工部局回答へのわが方返簡および同時に手交した諒解事項案

三 昭和十四年三月三日付

右諒解事項案に対する工部局回答

◎ 上海共同租界工部局參事會議長宛申入

昭和十四年二月二十二日

上海共同租界ニ於ケル反日不逞分子ノ暗躍ニ依ル治安ノ不安ヲ相協力シテ除去スルコトニ關シテハ貴方ニ對シ我方ヨリ數次要望シ最近舊正月ヲ前ニシテ帝國上海海軍特別陸戰隊司令官ノ要求ニ基キ二月十五日申入ヲ爲シタリ  
然ルニ貴方ハ每次誠意右ニ協力スルコトヲ約セラレタルモ租界蘇州河以南地區ニ於ケル對日「テロ」事件ハ其ノ跡ヲ絶タス特ニ舊正月ニ當ル二月十九日ニハ數件ノ「テロ」事件ノ發生ヲ見殊ニ日本陸軍ニ屬スルモノ及婦人カ其ノ對象



トナリタルコトハ我方ノ最モ遺憾トスルトコロナリ

舊正月前後ニ對日「テロ」事件ノ計畫アリタルノ情報ハ貴方ニ於テモ入手シ居ラレタルトコロナルヘク我方ノ要望ニモ鑑ミ舊正月前後ニ於ケル警戒ハ最モ嚴重ニセラルヘキトコロト信ス

然ルニ確實ナル情報ニ依レハ貴方ハ舊正月多數ノ警察官ヲ休養セシメ特ニ警戒ヲ嚴重ナラシムヘキトキニ當リ却ツテ警察力ヲ減少セシメラレタルハ我方ノ了解ニ苦シムトコロニシテ貴方誠意ヲ疑ハサルヲ得サル次第ナリ

而シテ我方陸軍ニ屬スルモノニ對シ行ハレタル南京路「テロ」事件ニ於テハ數名ノ日本人ニ非サル警官ハ犯行直後現場ニ到達シ犯人ヲ明カニ認メタルニ拘ハラス之ヲ逸シタルコトニ關シテハ我方トシテハ工部局警察官ノ能力ニ疑問ナキ能ハサルモノナリ

惟フニ上海ノ治安ハ我方トシテハ單ニ上海ノミノ問題ニ非スシテ我軍占據地域全般ノ治安竝ニ民心ノ安定ニ關スルモノニシテ右ニ重大ナル惡影響ヲ與フルモノナリトノ見解ヲ堅持スルモノニシテ又以テ東亞ニ於ケル新秩序ヲ建設セント努力シツツアル帝國ノ此ノ儘看過シ得サル重大事ニ屬ス

我方ハ今日迄工部局當局ノ誠意ニ信賴シテ其ノ處置ニ委任シ隱忍自重シツツアリシモ敍上ノ情勢ニ鑑ミ我方トシテ上海ノ治安維持ニ關シ有效適切ナル方法ヲ講スルノ必要ニ迫ラレタルモノニシテ茲ニ貴方ニ對シ次ノ要求ヲ提出スルコトヲ嚴肅ニ申入ルモノナリ

尙將來本件ニ關聯シ更ニ爲スコトアルヘキ一切ノ要求ニ付留保ス

### 要 求

一、犯人ノ逮捕及追放ニ關スル一九三八年七月十九日附工部局緊急條例ノ規定ヲ嚴重勵行スルコト

二、共同租界ニ於ケル抗日「テロ」行爲橫行ノ事實ニ鑑ミ本邦人保護竝ニ對日「テロ」ノ禁遏ノ爲憲兵領事館警察官等我方警備機關カ共同租界内ニ於テ右目的ノ爲ニ所要ニ應シ隨時必要ナル區域ニ於テ所要ノ措置ヲ採リ以テ工部局警察機關ニ協力スルコト

三、日本官憲ハ工部局ト協力シテ所要ニ應シ黃浦江及蘇州河ヨリ租界ニ出入スル支那人及其ノ搬出入スル物品ヲ検査シ必要ニ應シ之ヲ日本官憲ニ於テ抑留スルコト

四、工部局警察ニ於ケル日本人警察官ノ増強



又、共同租界内要所ニ於ケル通行支那人ノ身体検査ノ即時嚴行

(終)

(付記一)

上海共同租界工部局回答(要譯)

昭和十四年二月二十五日

本年二月二十二日手交セラレタル貴總領事ノ覺書ヲ閱悉セリ。申ス迄モ無ク工部局ハ舊正月ニ於ケル暴力行爲ノ再發ヲ深ク悲シムモノナリ。

工部局カ全力ヲ擧ケテ暴力行爲ノ再發ヲ防止シ且其ノ意思ヲ有スル旨繰返シ貴總領事ニ保障ヲ與ヘタルニ鑑ミ、貴總領事カ工部局ノ誠意ニ對シ疑ヲ抱カサルヲ得ストセラレタルコトハ余ノ遺憾トスルトコロナリ。

貴總領事ノ覺書ニ於テ舊正元旦當日多數ノ工部局警察官カ休暇ヲ與ヘラレタリトノ情報ヲ有スル旨述ヘラレタル處、警視總監ノ報告ニ依レハ(舊正月中支那人巡查ニ對シ常ニ與ヘラルル四時間ノ休暇ヲ除キ)室内事務ニ従事スル人員以外ニハ休暇ヲ與ヘラレタル警察官皆無ニシテ、又大多數

ノ者ハ實際上平素ヨリ以上ノ任務ニ服シ居リタリ。右ニ申述ヘタル四時間ノ休暇ヲ與フルニ當ツテハ重要ナラサル地點ノミニ付テ行フヘキ様手配セラレタルモノニシテ、南京路事件發生ノ場所ニ最モ近キ地點ヲ含ム幾多ノ地點ニハ實際上平素ノ二倍ノ人員ヲ配置シタルモノナリ。舊正元旦ニハ高級警察官ハ總テ午前五時四十五分勤務ニ就キ、警視總監自ラモ同様ニシテ、一切ノ警察官ハ特別ノ警戒ヲ實施シタリ。御承知ノ通り右特別警戒ノ若干ニ付テハ其ノ細目ヲ警察報告書寫ニ記載シ豫メ貴總領事ニ通報シタリ。御來示ノ南京路事件ニ關シテハ、現場ヲ去ル約八十碼ノ所ニ印度人巡查二名及支那人巡查二名居合セタリ。一名ノ印度人巡查ハ直隸路ヨリ九江路ニ向ツテ走リ是ニ併行セル路地ヨリ逃走セントスル犯人ヲ逮捕スルニ努メタリ。該巡查ハ發砲シタルモ不幸ニシテ犯人ニ命中セザリシカ、發砲當時該巡查ト犯人トノ間ニハ相當ノ距離アリシモノニシテ、犯人ハ平服ヲ着用シ居タル爲素早く群集ニ紛レ込ミタリ。他ノ一名ノ印度人巡查ト二名ノ支那人巡查トハ犯人カ逃走シツツアリシ路地ヲ追跡シタルモ及ハス、又二名ノ外人警察官及二名ノ露西亞人義勇隊員ハ事件發生ノ當時直隸路附近ニ停

車シタル乗合自動車ヨリ飛下リ追跡シタルモ時既ニ遅カリキ。

次ニ貴總領事覺書末段ノ五點ノ要請ニ付テ述ヘン。

工部局ハ反日「テロ」事件ニ關スル一九三八年七月十九日ノ緊急布告ヲ既ニ實施シ居リ今後共之ヲ續行スヘシ。

工部局トシテハ上海工部局警察以外ノ如何ナル警察機關タルヲ問ハスはカ共同租界内ニ於テ獨立ノ行動ヲ採ラントスルカ如キ考ヲ受諾シ得サルモノナルコトハ貴總領事ノ勿論了解セラルル所ナルヘシ。

然レ共工部局ハ今後共日本憲兵隊及領事館警察カ「テロ」行爲ノ檢索ニ付上海工部局警察ト協力スルヲ歡迎ス。此ノ種協力ノ方法ニ付テハ日本憲兵隊及領事館警察ト監視總監トノ間ニ直接打合ヲ行ハルヘキモノトス。又工部局警察ニ協力スル警官ハ平服トセラレ度。

既ニ申述ヘタル通り暴力行爲取締ノ方法ヲ講スル責任ハ工部局ニ在ルモノニシテ、現在ノ不安ナル狀況ノ下ニ於テハ水路ヨリ租界ニ入ル支那人ノ搜查ニ關スル現行ノ方法ヲ一層強化シツツアリ。御承知ノ通り工部局警察ハ此ノ種搜查ニ平服ノ日本人「オブザーバー」ノ立會ヲ求ムルモノナリ。

工部局警察ノ日本隊ハ現在豫算定員ヨリ三十三名缺員ナリ、今年度ニ於テ四十五名ノ新規採用ヲ爲シタルカ、候補者ヲ得次第日本隊ヲ豫算定員ニ達セシムル措置ヲ採リツツアリ。工部局ハ租界内ノ要所ニ於テ搜查ヲ行フコトノ必要ナルニハ同意見ニシテ、此ノ種搜查ヲ行フコトハ工部局警察ノ平常繼續シテ實施シ來レルトコロナルカ、現在之ヲ強化シ居レリ。

編 注 本文書の原文は見当らない。

(付記二)

工部局回答ニ對スル返翰

拜啓陳者二月二十二日附共同租界内治安維持ニ關スル我方申入ニ對スル二月二十五日附貴方回答ヲ受領候

貴回答ハ我方トシテ意ニ滿タサル點アルモ貴方カ我申入ニ對シ深甚ナル考慮ヲ加ヘラレ日本人ノ保護竝ニ「テロ」ノ禁遏ニ關シ我方ト協力セントスル意圖ヲ表明セラレタルハ本官ノ多トスルトコロニシテ究極ニ於テノ右目的ノ爲實效ヲ期シ得ル方法ヲ以テ我方カ工部局ニ協力スルコトヲ承認

セラレタルモノト了解致候

而シテ上海ニ於ケル治安ノ現狀ニ鑑ミ右了解ノ下ニ我方警察機關ハ工部局警察機關ヘノ協力ヲ實行ニ移スコトヲ通告致候

本官ハ此ノ機會ニ於テ本交渉ノ結果カ上海治安維持上有效ナル結果ヲ招來シ今後我方ニ於テ自衛手段ヲ講スルノ餘儀ナキニ至ルカ如キ望マシカラサル緊急事態ニ立到ルカ如キコト萬々無之ランコトヲ衷心切望致候 敬具

昭和十四年二月二十八日

在上海

總領事 三浦 義秋

上海共同租界工部局

市參事會議長 「シー、エス、フランクリン」 殿

上海共同租界治安維持ニ關シ

二月二十二日附日本側申入、二月二十五日附工部局回答、二月二十八日附日本側返翰ニ對スル諒解事項  
一九三九年二月二十二日附日本側申入中

一、第二號要求ニ關シ

日本側ハ其ノ警察機關カ日本人保護及「テロ」事件禁遏ノ爲所要ニ應シ共同租界内ニ於テ隨時必要ナル區域ニ所要ノ措置ヲ執リ以テ工部局警察機關ニ協力スルコトヲ要求シタルモノニシテ敢テ此ノ際一般ニ「テロ」事件禁遏ノ旨工部局警察機關ト全然獨立シテ警察權ヲ行使セントスルモノニ非サルモ其ノ協力ノ實行ニ當リテハ從來ヨリモ一層有效適切ナル手段ヲ執ラントスルモノナリ  
又日本側警察機關員ノ服裝ニ就テハ工部局警察ニ對シ協力ヲ圓滑ナラシムル見地ヨリ原則トシテ平服トスルニ異存ナシ

二、第三號第五號ノ要求ハ第二號要求中一部特別ナルモノヲ掲記セルモノニシテ當然第二號要求中ニ包含セラレアルモノナリ即チ第三號第五號實施ニ當リテハ必要ニ應シ日本側警察機關ハ工部局警察機關ニ實質的ニ協力スルモノトス

三、第四號要求ハ上海治安維持上日本側トシテ工部局警察ニ協力スル上ニ於テ有效且重要ナルモノト考ヘ居ルモノニシテ之カ爲ニハ單ニ工部局日本人警察官ノ缺員補充ハ勿論更ニ其ノ員數ヲ増加スルニ止ラス日高總領事ヨリ昭和

十三年十一月四日附書翰ヲ以テ申入レ且十二月十日附書翰ヲ以テ再應申入レタル諸項ヲ共同租界蘇州河以北ノ開放問題ト切り離シ此ノ際直ニ實行ニ向ヒ進ムト共ニ工部局警察日本人幹部ノ權限ヲ擴張シ就中一切ノ反日行爲ニ關スル事件ニ洩レナク關與シ且右ニ關シ必要ナル措置ヲ爲ス權限ヲ附與スルモノトス

(付記三)

一九三九年三月三日參事會議長ヨリ日本總領事ノ  
二月二十八日附覺書ニ對スル回答トシテ手交セラ

レタル覺書(假譯)

第一項

協力ヲ實現スル爲ノ日本總領事ノ要請ニ對シテハ參事會ハ既ニ一九三九年二月二十五日附書翰ヲ以テ回答セリ協力ヲ實現スル爲ノ即時且有效ナル協定ニ到達スル目的ヲ以テ工部局警察ト日本警察當局トノ間ニ於テ既ニ討議力行ハレ且三月二日日本總領事ヨリ議長ニ對シテ申述ヘラレタル如ク總テノ點ニ關シテ協定ニ到達スル見込ミニ見受ケラルルコトハ満足スル所ナリ唯共同租界内ニ於テハ上海工部局警察

以外ノ如何ナル警察機關ニ依ルト雖モ獨立ノ行動ハ參事會トシテ之ヲ容認シ得ザルコトヲ茲ニ強調スルコト必要ナリ參事會トシテハ一切ノ關係列國ノ承認無クシテハ土地章程ニ基キテ信任セラレタル警察權ト責任トヲ委託スル權限ヲ有セズ從テ一切ノ協力措置ハ警視總監ノ同意及總監トノ打合ニ基キ行ハルヘキモノナリ

第二項

此等ノ諸點ニ關シテハ前記二月二十五日附參事會回答中ニ包含セラレ居レリ

第三項

前記參事會回答中ニ掲ラレタル通日本隊ヲ定員ニ到達セシムル爲措置ハ既ニ執ラレツツアリ右措置ノ完了セラレタル時ニ於テ事態ハ再ヒ迅速ニ再檢討セラルヘシ但シ茲ニ留意スヘキハ工部局警察日本隊ノ人員ヲ必要且望マシキ程度ニ増強スルコトハ參事會カ蘇州河以北ノ地域ニ於テ其ノ統轉力ヲ有效ニ履行スル問題ト不可分のニ關連セラレ居ルコトナリ

工部局警察ノ日本人幹部ハ既ニ抗日行爲事件ノ處理ニ當リ肝腎且重要ナル役割ヲ果シ居レリ警視總監ハ其ノ指揮下ニ

在ル日本人幹部ヲシテ出來得ル限り其ノ機能ヲ發揮セシムルコトニ關シ最モ腐心シ居レリ

日高總領事ノ書翰中ニ含マレタル提案引用セラレ居ル所之二關シテハ別個ニ考慮スルコトヲ要シ且參事會ノ見解ニ於テハ是等ハ刻下ノ「テロ」事件ノ抑壓問題ト關聯セラレ得ヘキモノニ非ズ是等提案ヲ蘇州河以北租界地域ノ開放ニ對スル何等ノ措置トモ聯關セシムルコト無クシテ實行ニ移サントノ提案ヲ考慮センカ爲ニハ他ノ關係諸國領事トノ協議ヲ必要ナラシムルモノナリ

加之參事會トシテハE區ニ關スル參事會提案ニ對シ日本官憲ノ見解ヲ待望シツツアルモノナリ

(終)

編 注 本文書の原文は見当らない。

1692

昭和14年2月28日

在本邦クレギー英國大使より  
沢田外務次官宛

上海共同租界工部局へのわが方要求に對し租  
界行政権の一方的変更は黙過できないとの英

## 国政府覚書

◎ 上海共同租界工部局問題一件

(昭和十四年二月二十八日在京英國大使澤田次官ニ提出)

最近上海ニ於ケル政治的暗殺事件ノ結果同地日本官憲ハ二月二十二日共同租界工部局ニ對シ通牒ヲ發シテ一定ノ要求ヲ爲シタルカ右要求ハ所謂嚴格ニ之ヲ解釋スレバ共同租界内ニ於ケル工部局ノ權限ヲ甚シク剝奪スルモノト認メラル工部局ハ二月二十五日ノ回答ニ於テ此ノ種暗殺事件ニ對シテハ一層嚴重ナル禁遏ノ手段ヲ執ル必要アルコトヲ認メ且日本官憲カ租界ノ安全ノ爲必要トナシ共同租界ノ地域ニ於テ之ヲ實行スル權利ヲ要求セル措置ヲ工部局自ラ實行センコトヲ申出タリ

工部局當局ハ租界内ニ於ケル治安維持ノ爲其ノ最善ヲ盡シ常ニ欣ンデ日本官憲ト協力スルノ用意ヲ示シ來レリ(右ハ二月十日工部局參事會議長ヨリ在上海日本總領事ニ説明セル通りナリ)而シテ工部局ノ嘗メタル困難ノ多クハ「テロ」團カ工部局道路ヲ去ル市政府地域即チ工部局ノ管轄區域外ニ其ノ巢窟ヲ有シタル事實ニ基キタルモノナリ工部局ハ是等「テロ」團取締ノ爲日本側ノ協力ヲ要求シ且實際上凶惡

ナル一「テロ」團ノ首魁ヲ日本官憲ニ引渡シタルガ日本側ノ協力ハ政治的「バーゲン」ノ手段タリシモノノ如ク該首魁ハ逃走ヲ許サレタリ

右ニ鑑ミ二月二十一日衆議院ニ於テ陸軍大臣カ工部局ハ治安維持ノ能力ヨリモ寧ロ「誠意」ヲ欠キ現在ノ状態ニ於テハ工部局警察當局ニ信賴スルコト不可能ニシテ此ノ如キ状態ノ存續スル限り有効適切ナル自衛ノ手段ヲ講セラレ得サル旨述ヘラレタルハ了解ニ苦シム所ナリ二月二十三日外務大臣ハ貴族院豫算總會ニ於テ上海ニ於ケル狀況ハ遺憾至極ニシテ或意味ニ於テ工部局ハ治安ヲ維持スル能力ナク誠意ニ欠クルモノト認メラレ從テ日本トシテハ工部局ヲ促シテ更ニ誠意ヲ示シ且其ノ警察組織ニ不滿ノ點アラバ之ヲ匡正スルニ努ムベク當面ノ措置ト恆久的手段トアルモ之ヲ公表スルコト能ハサル旨述ヘタル由報道セラレタリ

在上海日本官憲ノ態度ハ右ノ兩大臣ノ陳述ト照合スルトキハ日本當局ノ意向ガ強力手段ニ依リ共同租界ノ行政ニ對シ更ニ大ナル發言權ヲ獲得セントスルニアリトスル日本ノ新聞記事ヲ裏書スルモノナリ英國政府ハ從來常ニ租界ノ行政又ハ工部局參事會ニ於ケル各國別代表ハ只一切ノ利害關係

者間ノ交渉及其ノ同意ヲ得テ實現シ得ヘキモノナルコトヲ主張シ來レリ英國政府トシテハ租界ノ地位ヲ強力ニ依リ變更スルヲ日本政府カ默許スルカ如キコトヲ信セサラントスルモノニシテ特ニ犯罪防止ノ爲ノ日本側協力ヲ工部局當局カ要求シ而モ協力ヲ與ヘラレサル狀況ニ於テ然リ日本政府ノ熟知スルカ如ク英國政府ハ日本側カ前記ノ如キ措置ヲ取ルニ於テハ之ヲ重大視スルモノナリ

(終)

編注 本文書の原文は見当らない。

1693

昭和14年3月9日 在上海三浦總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

上海仏租界当局に対し治安維持協力の即時実行および青天白日旗の掲揚禁止を要求すべき旨現地陸海外三省會議で決定について

付記 昭和十四年三月一日付

「工部局警察機關ニ對スル日本警察機關協力方法ニ關スル諒解事項覺書」

上海 3月9日後発  
本省 3月9日夜着

第五九二號(極秘)

九日午前陸海外主腦部會議ヲ開催シ佛租界ニ對スル「テロ」取締要求申入方ニ關シ意見ヲ交換シタルカ其ノ結果共同租界トノ間ニ協力ヲ行フコトニ付諒解ノ成立シタル今日佛租界ニ對シテモ成ルヘク速ニ何等カノ方法ニ依リ同様ノ協力量要求スルコト可然トノ意見ニ一致シタリ依テ本官ヨリ往電第五八八號ノ次第ヲ披露シタル結果九日午後佛總領事ニ對シ

(一)共同租界ト我方トノ警察機關ノ間ニ成立シタル協力方法

ニ關スル諒解事項(往電第五七〇號參照)ノ即時實行

(二)青天白日旗ノ掲揚禁止

方要求シ更ニ相手方ノ空氣ヲ觀察シタル上若シ素直ニ受諾スルノ氣配看取セラルルニ於テハ「テロ」行爲防遏及取締ノ一方法トシテ我方ニ於テ招商局碼頭ヲ接收スル旨通告スルコトニ決定シタリ

尙青天白日旗ノ掲揚禁止方ニ關シテハ十日共同租界工部局ニ對シテモ申入ヲ爲スコトトセリ不取敢

在支各總領事へ轉電セリ

香港へ轉電アリタシ

(付記)

工部局警察機關ニ對スル日本警察機關協力方法

ニ關スル諒解事項覺書

(14—3—1)

共同租界ニ於ケル日本人保護竝ニ反日「テロ」事件禁壓ニ關シ工部局警察ト日本側憲兵及領事館警察トノ間ノ協力ヲ有效適切ナラシムル爲相互左記事項ヲ實行スルコトヲ諒解ス

一、黃浦江及蘇州河ヨリ租界ニ出入ノ支那人及搬出入物品ノ検査ニ際シテハ必要ニ應シ日本憲兵及領事館警察ハ工部局警察ニ協力シテ行フ

工部局警察ハ前項ノ検査ノ實施ヲ容易ナラシムル爲揚降場所及時間等ヲ制限スルモノトス

二、通行者ノ携行品検査ヲ確實ナラシムル爲日本側ノ申入レアリタル時ハ工部局警察ハ所要ノ交通制限ヲ行フ

特ニ佛租界境界線ニ於ケル取締ニ留意ス

三、工部局ト日本憲兵及領事館警察トノ間ノ協力ヲ緊密敏活ナラシムル爲工部局警察ニ於テ有力ナル實行力ヲ有スル特別ノ係ヲ設クル等適宜ノ處置ヲ講ズ

四、工部局警察ハ反日「テロ」事件等ノ檢舉ヲ確實敏活ナラシムル爲警察隊員ノ監督獎勵等ニ就キ有效適切ナル處置ヲ講ズ

五、日本憲兵又ハ領事館警察ノ干與シテ檢舉シタル犯人又ハ容疑者ハ一應日本側ニ於テ之ヲ取調フルヲ原則トシ特ニ困難ナル事情アル時ハ兩者協議ス

但如何ナル場合ニ於テモ日本側ノ了解ナクシテ犯人又ハ容疑者ヲ釋放スルコトナシ

工部局警察ニ於テ檢舉シタル反日の行爲ニ關スル犯人及ヒ容疑者モ亦同ジ

六、工部局警察トノ協力ノ爲日本憲兵及領事館警察ノ必要トスル諸施設ニ對シ工部局警察ハ諸般ノ便宜ヲ供與ス

七、工部局警察ニ協力スル日本憲兵及領事館警察官ノ服裝ハ私服ヲ原則トスルモ特別ノ場合ハ制服ヲ用フルコトアリ制服ヲ用フル場合ハ工部局警察ニ通知スルモノトス

(終)

編 注 本覚書は、三月一日の工部局警察と日本側憲兵および

領事館警察との協議において日本側が提出し合意成立。

~~~~~

1694

昭和14年3月9日

在上海三浦総領事より
有田外務大臣宛(電報)

上海仏租界における治安維持協力および青天
白日旗の掲揚禁止に関する仏国総領事との会
談内容報告

上海 3月9日後発
本省 3月9日夜着

◎ 第五九八號(大至急、極秘)

⁽¹⁾ 往電第五九二號ニ關シ

九日午後佛總領事ヲ往訪

一、先般我方ト共同租界工部局トノ間ニ「テロ」行爲防遏ノ爲ノ協力方法ニ關シ協定ニ到達シタル次第ヲ説明シ工部局ニ對スル我方ノ現要求中佛租界ニモ關係アル部分及警察當局間ニ成立シタル了解事項ヲ示シ右共同租界トノ協力ヲ一層有效ナラシムル爲佛租界當局ニ於テモ右ト同様

ノ「ライン」ニテ我方ニ對シ協力ヲ得度キ旨申入レタル處「ボーデス」ハ鮮カラス興奮シツツ共同租界ニ於テハ日本モ其ノ一員ナルヲ以テ右ノ如キ協力モ可能ナルヘキカ佛租界ハ右ト全ク建前ヲ異ニシ居リ佛租界内ノ治安維持ニ付テハ佛租界ノミカ責任ヲ有スルモノナルヲ以テ右ト同様ノ協力ヲ行ハントスル申出ハ之ヲ應諾スルコトヲ得ス又之ヲ本國政府ニ請訓スルモ其ノ承諾ヲ得ラレサルヘキコト明白ナリ且佛側トシテハ事變勃發以來佛租界ノ「テロ」行爲取締ニ出來得ル限りノ努力ヲ盡シ來リ居リ又今後トモ必要ナル具體的御指示ヲ得ハ直ニ必要ナル措置ヲ執リ以テ充分ノ結果ヲ舉クルニ努ムヘキモ貴官御申出ノ如キ一般的要求ニハ應スルコトヲ得ストノ態度ヲ明白ニ表示セリ

二、⁽²⁾依テ本官ハ素ヨリ佛租界獨自ノ建前ハ充分之ヲ承知シ居リ從テ共同租界當局トノ協定モ參考迄ニ御示シタル次第ニシテ勿論之ト同様ノコトヲ佛租界ニ對シテ要請スル次第ニハアラス唯「テロ」行爲取締ニ關シ從來佛側ノ努力ニ拘ラス遺憾乍ラ殆ト實效ヲ舉ケ居ラサルニ付今少シク有效ナル結果ヲ舉ケンカ爲ニ我方ニ於テ協力ヲ「オフワ

ー」セントスルモノニシテ我方警察當局カ獨自ノ行動ヲ爲サントスルモノニハアラス且漢口ニ於テハ佛租界當局モ進ンテ日本側ト協力シ居ル狀況ナルヲ以テ善意ニ基キテ之ヲ受入レテハ如何ト誘ヒタルニ「ボ」ハ佛警察當局ハ從來トモ日本側ニ對シ出來得ル限りノ協力ヲ爲シ來リタルモノニシテ具體的問題ニ付協力ヲ求メラレタル場合ニハ直ニ之ヲ實行シ居ル次第ナリ最近反日放送ヲ爲シタル「ラデオ」局ヲ貴方御申入ニ依リ閉鎖シタルカ如キ（本件郵報濟）其ノ一例ニシテ今後此ノ種協調「コラボラシオン」ハ有效ニ致スヘキモ直接日本官憲カ參加スル如キ「コオペラシオン」ハ佛租界ノ建前上受諾ハ不可能ナリ從來トモ外國警察ニ對シ當該國人ノ逮捕ニ付キテノミハ共同行動ヲ認メ來リタルカ夫レ以外ノ場合ニハ總テ佛租界警察獨立シテ行動シ居リ外國警察ニハ單ニ現場ヘノ案内ニ止メ來リタル次第ナリ又漢口ト上海トハ多少事態ヲ異ニスルヲ以テ同様ニ行キ兼ねル次第ナリト述ヘタリ三、⁽³⁾次テ本官ヨリ我方ノ有スル情報ニ依レハ佛租界ニハ反日「テロ」行爲ノ根據アルコト確實ナルヲ以テ佛側ニ於テ從來ニモ増シ我方ト協力スルノ態度ニ出テサル限り折角

共同租界トノ間ニ成立シタル協力ノ協定モ實效ヲ擧ケ得サルヘキコトヲ指摘シタルニ對シ「ボ」ハ日本側ニシテ斯ル情報ヲ有セラルルナラハ之ヲ佛側ニ通報アリタク其ノ上ハ佛租界警察ニ於テ充分協力スヘシト述ヘタルヲ以テ本官ハ從來ノ經驗ニ徴シ此ノ種情報ヲ佛側ニ通報スルニ於テハ直ニ相手方ニ筒拔ケトナリ何等實效ヲ收メ得サル次第ナリト應酬シタル處「ボ」ハ佛側警察特別隊ハ出動命令後一分ヲ要セスシテ出動シ得ル狀態ニ在ルヲ以テ斯ル情報ノ漏洩スルコト絕對ニ之ナシト信ス又佛租界自身トシテ情報ニ依リテ活動シタル結果何等ノ收穫ナキコトモアリ日本側ハ佛租界ニ對シ從來以上ノ協力ヲ要求セラルルモ何等情報ヲ提供セス又情報ヲ提供スルニ於テハ直ニ相手方ニ筒拔ケトナルカ如ク考ヘラレ居ルモ右ハ全ク佛租界警察ヲ信賴セサル態度ニシテ日本側ニ於テ斯ル對策ヲ持スル以上議論ヲ重ヌルハ無益ナリト述ヘタリ

四、依テ本官ヨリ今日ノ折衝ヲ貴總領事トノ間ニ行ヒタルコトハ或ハ多少「フオーマル」ニ過キタルヤニモ感セラルルニ付貴我兩警察官ノ打合ニ讓リテハ如何ト切出シタル處「ボ」ハ佛租界警察ハ共同租界警察ト異リ工部局ニ所

屬セス佛總領事ニ直屬スルモノナルヲ以テ日本側ノ態度ニシテ以上ノ如キモノトセハ警察機關間ノ打合ニ移スモ結果ハ同一ナルヘシト答ヘタリ

五、⁽⁴⁾要スルニ「ボ」ハ本件會談ニ際シ終始佛租界ノ從來爲シ來レル取締ノ充分ナルコトヲ繰返シ述ヘ日本側ニ於テ佛租界ノ協力ヲ希望スル具體の問題ヲ指摘セサル限り直ニ以上ノ協力ヲ行フノ途ナシトノ態度ナリシニ付本官トシテモ此ノ上一般の議論ヲ重ヌルモ無益ト認メタルヲ以テ何レ佛租界ニ對シ協力ヲ仰度キ個々ノ具體の問題ヲ申入ルヘキコトヲ述ヘ一般的議論ヲ一應打切りタリ

六、次テ本官ヨリ租界内青天白日旗ノ掲揚ハ抗日思想ヲ煽リ不祥事ノ因トモナルモノナルヲ以テ右掲揚禁止方要求シタル處「ボ」ハ本件ニ關シテハ既ニ佛當局トシテ研究ナルヲ以テ研究終了次第早速實行致度ク思考シ居ル旨ヲ述ヘタルヲ以テ本官ヨリ三月十二日孫文紀念日迄ニ研究終了スヘキヤヲ問ヒタルニ對シ多分間ニ合フヘシト答ヘ協力ノ方法ニ關シ斯クノ如ク具體の二指摘セラルルニ於テハ出來得ル限りノ協力ヲ行フヘシト述ヘタリ

七、會談要旨概略以上ノ通りニシテ招商局碼頭接收ノ問題ヲ

持出スモ其ノ結果ハ明瞭ナリシヲ以テ今日ノ會談ニ於テ
ハ此ノ問題ニ觸レスシテ辭去シタリ

在支各總領事ハ轉電セリ



1695

昭和14年3月11日
在上海三浦總領事より
有田外務大臣宛(電報)

上海共同租界内での青天白日旗の掲揚禁止を
工部局へ要請について

上海 3月11日後発
本省 3月11日夜着

第六〇七號(至急)

往電第五九二號末段ニ關シ
十日午後「フランクリン」往訪本日ハ極氣輕ニ友好的ノ氣
持ニテ參上シタルモノニシテ決シテ無理押セントスルモノ
ニアラサルカ共同租界内ニ支那祝日又ハ紀念日毎ニ國民政
府ノ旗ノ掲揚セラルルハ抗日意識ヲ煽リ租界ノ治安紊亂ヲ
使喚スルニ等シキモノナリトテ之カ掲揚禁止取計方考慮ヲ
求メタル處「フ」ハ本件ニ付テハ既ニ考慮シタルコトアル
モ純理上ヨリスレハ各國人カ各自國ノ旗ヲ立ツルコトハ之

ヲ禁シ難ク又實際の見地ヨリスレハ支那青年層ニ對シ青天
白日旗ノ掲揚ヲ以テ一應愛國心ヲ満足セシメタリトノ感觸
ヲ與ヘ一種ノ安全辨ノ作用ヲ爲スモノニシテ若シ之ヲモ禁
止スルニ於テハ他ニ何等カ愛國心ヲ満足セシムルノ方法ヲ
求ムルヤモ測ラレスト考ヘ居ル次第ナリト應酬シタルヲ以
テ本官ヨリ一應ノ理窟トシテ斯ク考ヘラルルヤモ知レサレ
トモ實際問題トシテ數多キ祝日乃至各種ノ紀念日毎ニ戸毎
ニ青天白日旗ノ「デイスクレ」ヲ爲スハ租界ノ治安ヲ維
持スル所以ニアラサルモノト信スル旨ヲ敷衍説示シタルニ
「フ」ハ貴意ノ存スル所ハ能ク了解シタルヲ以テ今後モ十
分研究ノ上善處スヘシト答ヘタリ依テ本官ヨリ支那國旗ノ
大部分ハ佛租界ニ掲ケラレ居ルニ鑑ミ昨日モ佛總領事ニ對
シ同様ノ申出ヲ爲シタルカ同總領事ハ十二日迄二合フ
様考究措置スヘキ旨約シタルコトヲ告ケタルニ「フ」ハ佛
總領事ハ租界ノ總元締ニシテ何人トモ相談スルコトナク措
置スルコトヲ得ルヲ以テ若シ佛租界力率先本件禁止ヲ爲ス
ニ於テハ共同租界トシテモ措置シ易カルヘシ何レニスルモ
成ルヘク結果ヲ收ムル様盡力致スヘク殊ニ此ノ種問題ニ付
テハ健全ナル判斷ト常識トヲ以テ租界當局ト協力シ租界ノ

治安維持ニ貢獻ス少カラサル支那參事會員ニ篤ト相談シ其ノ善處ヲ求ムル積リナリト答ヘタリ
香港ヘ轉電アリタシ
在支各總領事ヘ轉電セリ

1696

昭和14年3月13日
在上海三浦總領事より
有田外務大臣宛(電報)

上海特別市長より共同租界および仏租界兩当局へ要求事項提出について

上海 3月13日後発
本省 3月13日夜着

第六三九號

「テロ」事件ニ關シ上海特別市長ヨリ共同租界及佛租界兩當局ニ對シ三月九日附ヲ以テ夫々抗議ヲ爲スト共ニ共同租界ニ對シテハ

(一)租界内暴徒ノ嚴重取締及市政府警察官ノ工部局警察ヘノ協力

(二)市政府所屬大西路警察出張所ノ即時原狀回復^(復カ)

(三)上海第一特區法院ノ接收

(四)工部局保管中ノ舊上海市政府土地臺帳ノ即時返還
(五)青天白日旗ノ掲揚禁止及五色旗ノ掲揚
ノ五項ノ要求事項ヲ提出シ又佛租界當局ニ對シテハ
(一)租界内暴徒ノ嚴重取締

(二)上海第二特區法院ノ接收

(三)(對共同租界要求ノ(五)ト同文)

ノ三項ノ要求ヲ爲シタリ(公文寫郵送ス)

在支各總領事ヘ轉電セリ

1697

昭和14年3月24日
在上海三浦總領事より
有田外務大臣宛(電報)

上海共同租界内での青天白日旗掲揚問題に關する工部局の措置振り報告

第七七三號

上海 3月24日後発
本省 3月24日夜着

往電第六〇七號ニ關シ

其ノ後「フランクリン」ハ青天白日旗問題ニ付支那側參事會員ヲ各別説得ニ努メ居タル模様ナル處(往電第七四九號

參照)廿三日岡本ノ内報スル所ニ依レハ同日參事會開催ニ
先立チ「フ」ハ支那側參事會員五名ヲ招致シ租界ノ平和及
秩序確保ノ爲租界内ノ支那人ニ青天白日旗ヲ掲揚セシメサ
ル様盡力アリタキ旨依頼シタル處支那側參事會員一同ハ篤
ト之ヲ了承シ右ノ趣旨ニ副フ様協力ヲ約セル趣ナリ
在支各總領事ヘ轉電セリ
香港ヘ轉電アリタシ

1698

昭和14年3月28日

在上海三浦總領事より
有田外務大臣宛(電報)

上海租界内に青天白日旗は見られない旨報告

第[◎]八二三號

廿八日ハ黃興等カ廣州ニテ事ヲ舉ケタル七二烈士記念日ニ
テ工部局ハ特別警戒ヲ行ヒタルカ例年ナレハ青天白日旗ノ
掲揚ヲ見ルヘキ所ナルカ本日ハ共同租界ニテハ一本モ見當
ラス赤木ヨリノ内報ニ依レハ右ハ往電第七七三號ノ結果ナ
リト尙佛租界ニモ掲揚無シ

北京、天津、南京、漢口ヘ轉電セリ

1699

昭和14年4月7日

在上海三浦總領事より
有田外務大臣宛(電報)

上海特區法院問題に関する現地三省會議の協

議内容報告

別電

昭和十四年四月五日發在上海三浦總領事より

有田外務大臣宛第九〇八号

上海特別市政府による特區法院接收容認方領
事団への勧告案

上海 4月7日前發
(備注)

本省 4月7日前着

第九〇六號(至急、極祕)

第四日⁽¹⁾午後租界對策ニ關シ現地三省會議ヲ開催セル處(當館
ヨリ佐藤、寺崎ヲ連レ本官出席、陸軍側ヨリ中支司令部參
謀副長鈴木少將、上海特務機關長竹下少將、廣田大佐、宇
都宮中佐、海軍側ヨリ德永大佐、光延中佐、谷井少佐出
席)陸軍側ヨリ本官ニ對シ傳宗耀^(備考)ノ工部局竝ニ領事團ニ關
スル五箇條ノ要求(往電第六三九號)特ニ法院問題ニ關シ貴

總領事ヨリ別電第九〇八號ノ趣旨ニ公文ヲ以テ至急兩租界工部局竝ニ領事團ニ申入レラレタシ右ハ市長ノ要求ヲ現地軍側ニ於テ支持シ居リ且重大ナル關心ヲ有スルコトヲ表明スル意味合トシテ喫緊事ト思考スル旨述ヘタルニ付本官ヨリ右ニ關シテハ客月二十四日以來貴方代表者タル廣田大佐竝ニ海軍光延中佐ト協議中ノモノナリシ處租界問題特ニ本問題ノ促進ヲ計ルニハ或程度ノ摩擦ヲ覺悟スルヲ要スヘキカ其ノ時機如何ハ歐洲ノ政局、帝國ノ國際的地位、新中央政府樹立工作等ニモ關聯考察スヘキ問題ナリト思考ス就テハ相手側カ當方申入ヲ承認セサル場合如何ナル程度ノ決意ヲ有セラルルヤ承知シタシト述ヘタルニ鈴木少將ハ武力行使ト言フカ如キコトハ考ヘ居ラサルモ新タル法院ノ設立新シキ土地臺帳ノ作成(從來ノ無效ヲ宣言)竝ニ或程度ノ謀略等ヲ考慮シ得ヘシ極秘ノ含ヲ以テ打明ケレハ中支派遣軍ニ於テハ漢口陷落後ノ二大方針トシテ南昌攻略ト租界工作ヲ目標トシテ進ミ來リタル次第ナル處後者特ニ法院問題ニ關シ停頓狀態ニ在ルハ寔ニ遺憾ト言フヘク租界問題ノ解決ニハ相當程度ノ摩擦モ已ムヲ得スト考ヘ居ル旨述ヘタリ

依ツテ本官ヨリ右軍ノ方針ナルモノハ初耳ナル處(中央ニ

請訓シ居ラストノ説明ナリ)斯ル意味ニ於テ此ノ際摩擦ヲ覺悟ノ上ニテ租界工作ヲ推進セントスル以上軍ノ如ク廣汎ナル權限ヲ賦與シ居ラレサル本官トシテハ一應本省ニ請訓スル必要アリト述ヘ會議ヲ終了セリ就テハ陸海軍側トモ御連絡ノ上何分ノ儀至急御回電アリタシ

尙前記廣田、光延兩代表トノ協議ノ際ハ

一、相當ノ決意ヲ以テ臨ムナラハ兎モ角然ラサル限り先方ニ於テ我方要求ニ聽從セサル場合軍トシテ引込ミ付カス又其ノ儘引込メハ却テ軍ノ威信ヲ害スヘキコト

二、新政府竝ニ市政府ノ行動ヲ全面的且表面ヨリ支持スルコトハ將來同政府ニ關スル一切ノ行動ニ付日本カ責任ヲ取ルコトトナリ却テ面白カラス矢張滿洲國ニ於テ然リシカ如ク別個ノ建前ニテ相呼應シテ進ムヲ得策トスヘキコト

三、五箇條ノ要求中法院問題以外ハ本官ニ於テ既ニ總領事トシテ取上ケ交渉ヲ進メ來リタル次第第二モアリ旁將來共ニ總領事ノ地位ニ權威アラシムル爲ニハ引續キ交渉ヲ繼續スル方然ルヘシ外國側ヨリ日本總領事ハ自ラ持出シタル問題ヲ自ラ推進スルノ信念ナク之ヲ別ニ市政府側ヨリ持出サシメ之ヲ再ヒ總領事トシテ支持スト言フカ如キ變ナ

(遺カ)
遺口ヲ爲シ居レリト言フカ如キ觀察ヲ下サルルハ大局上
不得策ナルコト

四、法院問題ヲ實質的ニ推進セントスルニハ寧ロ英國總領事
邊リヲ目標ニ政治的ニ持出スコト得策ナルヘキコト
等ノ「ライン」ニテ相談ヲ進メ來リシモノニシテ鈴木少將
ノ考トハ大分喰違ヒ居タルヲ發見セラレタル次第ナリ御參
考迄

編 注 本電報は何らかの理由で發電が遅れたものと思われる。

(別電)

上海 4月5日後発
本省 4月5日夜着

第九〇八號(極秘)

⁽¹⁾上海總領事ハ日本陸海軍當局ノ要請ニ基キ左記覺書ヲ交付
ス

上海ニ於ケル平和及治安ノ攪亂ハ日本占領區域全般ニ影響
スルコト甚大ナルヲ以テ新東亞建設ニ努力中ナル日本官憲
ハ無關心ニ見過スコト能ハサル旨ハ二月二十二日附工部局

ニ對スル申入ニ於テ申述ヘタル所ナルカ去ル三月十日上海
特別市長ヨリ工部局竝ニ領事團ニ對シ申入レタル五箇條ノ
要求ハ上海ニ於ケル平和及治安ノ回復上有效適切ナル方法
手段ノ一部トシテ現地ニ於ケル日本陸海軍當局ハ共ニ重大
ナル關心ヲ以テ本要求ノ貫徹センコトヲ希望シアリ特ニ要
求ノ第三項ノ上海特區法院ニ關シテハ租界内日本軍占據區
内ニ於ケル支那人間ノ民事刑事兩事件支那人ヲ被告トシテ
提訴スルコトアルヘキ日本人原告ノ民事事件力重慶政府
ノ管轄スル上海特區法院ニ於テ取扱ハルコトハ我方ノ默
過シ得サル所ナルカ元來上海特區法院ニ屬スル法權ハ租界
當局ニナクシテ現重慶政府ニ在リタル以上當然上海租界ノ
一部ヲ含ム一帯ノ地區ヲ完全ニ占領シタル日本軍ニ於テ接
收スヘキコトハ國際法上當然ノ措置ナルモ日本軍ハ右接收
ノ圓滑ヲ期シ且租界内外在任支那人ニ對スル刺戟ヲ局限ス
ルノ慎重ナル考慮ニ基キ

⁽²⁾特ニ租界隣接地區ノ事實上ノ行政權行使者タル市政府ノ接
收ヲ要望スルモノニシテ換言セハ法院協定ノ一方ノ當事國
タル支那國政府トシテノ重慶政府ニ代フルニ新政權ヲ以テ
セントスルモノニシテ法理上何等ノ無理ナク公正妥當ナル

措置ト言ハサルヘカラス而シテ重慶政府ノ權力カ上海周邊ヨリ完全ニ驅逐セラレテヨリ既二十五箇月ヲ經過シ此ノ間新政權ハ順調ナル發展ヲ遂ケ充分ニ新政權トシテノ機能ヲ發揮シツツアルヲ以テ新政權カ特區法院ヲ接收スルコトカ過早ナリトスル論ハ當ラス

尙一九二六年蔣介石政權カ列國ノ承認ヲ受クル以前ニ事前ノ豫告ナク且租界當局ノ異議ヲ受クルコトナク接收セル事實ヲ回想セラレンコトヲ希望ス

其ノ他ノ要求事項モ亦市長ノ主張ハ公正妥當ト認メラルルモノニシテ日本軍ハ租界當局及領事團ニ於テ上海ノ平和及治安ノ回復ノ爲是等實現ニ關シ有效適切ナル措置ヲ執ラレシコトヲ要望ス



1700

昭和14年4月12日
在上海三浦総領事より
有田外務大臣宛(電報)

共同租界内の反日言論取締に関し工部局へ要求について

別電 昭和十四年四月十二日發在上海三浦総領事より

有田外務大臣宛第九六五号

右要求に関するわが方覚書

上海 4月12日後發

本省 4月12日夜着

第九六四號

共同租界内反日新聞雜誌取締ハ「テロ」行爲防遏ノ一手段トシテ緊喫ナリト認メ當地陸海軍側ト數次協議ノ結果成案ヲ得タル矢先十一日往電第九五一號「テロ」事件發生セルヲ以テ十二日午後工部局市參事會議長「フランクリン」ヲ往訪別電第九六五號ノ如キ覺書ヲ手交ノ上累次ノ「テロ」事件ニ言及然ルヘク説明ヲ加ヘタル處「フ」ハ本件ニ關シテハ從來モ努力シ來レルモ將來一層努力スヘシ自分(「フ」ハ公然タル戰爭ハ別トシ暗殺ニハ反對ニシテ從テ暗殺犯人ヲ愛國者扱スルコトニモ反對ナリト述ヘタリ次テ本官ヨリ反日言論ニ關スル取締ニハ工部局警察ト日本側警察機關トヲ一層緊密ナラシムル爲其ノ具體的方法ニ付關係者間ニ於テ討議スル必要アル旨竝ニ反日記事資料ハ當方ニ於テ用意シアルヲ以テ隨時之ヲ提示スヘキ旨申入レタル處「フ」ハ之ヲ了承セリ最後ニ本官ヨリ往電第九五一號「テロ」事件ニ言及シ右ハ言フ迄モナク甚タ遺憾ナル出來事ナルカ事件

ノ調査ヲ俟チ再ヒ申入ヲ爲スヘキ旨ヲ述ヘ會談ヲ終レリ
本電別電ト共ニ北京、南京、漢口、天津ヘ轉電セリ

(別電)

上海 4月12日後発

本省 4月12日夜着

第九六五號

先般⁽¹⁾共同租界内「テロ」行爲防遏ニ關シ工部局當局ト日本
側官憲トノ間ニ成立セル諒解ハ租界内治安維持ナル共通ノ
目的ト双方ノ協調的精神ヲ具体化セルモノト思考セラルル
處本官ハ貴方ニ於テ左ノ申入ニ對シ積極的協力ヲ與ヘラレ
ンコトヲ期待スルモノナリ

共同租界内ノ多數漢字新聞雜誌竝ニ圖書ハ恰モ重慶ニ存在
スル新聞雜誌竝ニ圖書ト同様過激ナル反日記事論說ヲ掲ケ
租界内民衆ノ抗戰の熱意ヲ煽動シ反日の意識ヲ鼓舞シ租界
内治安維持ニ對シ根本的障害ヲ與ヘ來レルハ御承知ノ通り
ニシテ旁皇軍ヲ誹謗シ日本ノ名譽ヲ毀損シ又ハ日本ノ政治
經濟狀況ニ關シ故意虛構ノ記事ヲ掲ケ居ルハ我々ノ最モ遺
憾トスル所ナリ

斯ル租界内言論機關ニ依ル反日行爲ヲ工部局當局カ嚴重取
締ルヘキコトハ貴方ニ於ケル租界内治安維持ヲ目的トスル
協力的精神ニ鑑ミ當然ノコトト思考サルル處之カ友好的の實
施ナキ限り目下貴方ト協力彈壓シツツアル政治的「テロ」
行爲ノ根柢モ重大ナル困難ニ逢着スルニ至ルヘシ而シテ右
ハ單ニ租界内ノミニ止マラス延イテハ租界外ノ占領區域ニ
於ケル支那民衆ニ惡影響ヲ及ホスヲ以テ之カ治安維持ニ當
リ日本軍ニ取りテハ重大關心事タリ

租界内諸新聞雜誌竝ニ圖書カ反日記事乃至論說ヲ掲載セル
實例ハ枚舉ノ遑ナキモ吾人ノ特ニ重視シ居ルハ「テロ」事
件ニ付犯人ヲ「愛國分子」ナリトカ或ハ「壯士」ナリトカ
稱シ「テロ」行爲ヲ使噓シ又遊撃隊活動ニ付テハ誇大ノ報
道ヲ爲シ非占領地域ニ於ケル支那民衆ノ抗戰ヲ煽動シ居ル
コト

竝ニ舊正月或ハ七二烈士殉國記念日ノ如キ場合市黨部ノ發
スル指令ヲ掲載シ既ニ上海陷落後當地ニ於ケル活動ヲ停止
スヘカリシ重慶政府側機關紙ヲシテ支那民衆ニ對スル指令
指導ヲ可能ナラシメ居ルコト等ナリ

工部局警察ニ於テハ從來我軍管理下ニ在ル新聞檢査處ト協

(力)セラレ治安ニ害アルカ如キ反日新聞ノ彈壓ニ盡力セラレタルハ本官ノ多トスル所ナルモ右協力ヲ更ニ擴大シ租界ニ於ケル反日新聞雜誌ノ發行竝ニ販賣ヲ一切根絶シ以テ明朗ナル租界ノ實現ノ爲一層ノ御努力ヲ要望スル次第ニシテ當方トシテモ右目的ノ爲貴方ト密接ナル協力ヲ爲スノ用意アルヲ確言スルモノナリ

尙租界内ニ於ケル反日新聞雜誌ニシテ外國籍殊ニ英米兩國籍ノモノ多數存在スルヲ以テ右取締ニ付本官ヨリ英米兩總領事ニ對シ夫々注意ヲ喚起スル筈ナリ

北京、天津、南京、漢口へ轉電セリ



1701

昭和14年4月20日
在上海三浦総領事より
有田外務大臣宛(電報)

仏租界内の青天白日旗掲揚や政治的示威運動の
禁止に関する仏国側当局の措置振りについて

上海 4月20日後発
本省 4月20日夜着

第一〇三〇號

十九日當地國民精神總動員宣傳週(十七日乃至二十三)日中

農工商宣傳日ニ際シ蘇州河以南ノ共同及佛租界共各工場商店等ハ大半青天白日旗ヲ掲揚セルカ佛租界當局ハ早朝ヨリ警官ヲ派シ各家ニ對シ之カ引降シヲ命シタルモ中ニハ反抗的態度ヲ示ス者モアリテ多數支那人檢束者ヲ出シ支那人巡捕一名負傷シタル程ナルカ當局ハ正午頃迄ニハ漸ク佛租界内ニ掲揚セラレタル國旗全部ノ引降シニ成功シタルモノ一部商店ハ國旗掲揚許可アル迄開門セストテ休業セルモノアリ一時各所ニ於テ緊張セル場面ヲ現出セルカ夜ニ入ルヤ當局ハ更ニ多數ノ警官ヲ巡邏セシメテ萬一ノ警戒ニ努ムル所アリタリ尙佛當局ハ當日同租界内ニ於テハ如何ナル政治的示威運動モ之ヲ嚴禁シ此ノ種運動ハ事端ヲ開キ易ク公共ノ秩序及安全ヲ阻害スル「テロ」分子ノ煽動ニ便スルコト明カナルヲ以テ當局ハ一面各個ノ意思ヲ尊重スルト共ニ他面必要ノ措置ヲ講シ以テ租界内ノ絕對中立ト住民ノ安寧保持ノ責任ヲ全ウセル所以ナリ若シ必要ノ際ニハ當然「テロ」分子ヲ驅逐スヘシ集團的國旗掲揚ニ關シテハ國際日ヲ除ク外政治上ノ示威的性質ヲ帶ヒルモノハ一切禁止スヘシトノ佈告ヲ出タシタルカAM情報ニ依レハ佛租界當局ハ既ニ同租界内ニ於ケル市黨部ノ活動停止方命シタル趣ニモアリ佛租

界當局カ相當我方ニ協力的態度ヲ示シ來レルハ注目ニ値ス
本件ニ關シ二十日各漢字紙ハ一齊ニ論說ヲ掲ケ何レモ關係
複雜ナル公共租界内ニ於テ國旗ヲ掲ケ何等事端ノ發生ナキ
ニ治安維持ニ藉口シテ單一租界タル佛租界ニ於テ國旗掲揚
ヲ阻止セルハ不可解ナリ國旗ハ國民ノ國家愛護ノ熱誠ヲ表
示スルモノニテ過去ノ例ニ徴スルモ右ハ租界ノ警察規則ニ
反スルモノニアラストテ佛當局ノ再考ヲ促スト共ニ中央ヲ
シテ外交交渉ニ依リ佛政府ニ抗議セシメ以テ將來此ノ種事
件ノ再發防止ヲ要求スル要アルヘシト論シ居レルカ對佛關
係ヲ慮リ論調極メテ控目ナリ

北京、天津、漢口、南京、香港へ轉電セリ

1702 昭和14年4月21日 在上海三浦總領事より
有田外務大臣宛(電報)

上海市各界の国民精神總動員運動につき共同 租界内での取締方工部局へ要求について

上海 4月21日後発
本省 4月21日夜着

第一〇四三號

長期抗戰ニ於ケル支那民衆ノ抗戰的熱意ヲ昂揚セシメンカ
爲重慶政府カ國民精神總動員週間ヲ規定シ反日宣傳ニ躍起
トナリ居ルコトハ累次往電ニ依リ御承知ノ通りナル處當地
ニ於テモ上海市黨部ハ重慶ノ指示ニ基キ上海市各界國民精
神總動員協會ヲ組織シ同協會ヲシテ宣傳辦法及告同胞書ヲ
發表當地各漢字紙ヘ掲載セシメタルカ右運動ハ本質的二反
日運動ナルノミナラス當方ノ入手セル右協會役員中ニハ多
數ノ抗日分子特ニ共產黨員ヲ含ミ居レルヲ以テ抗日團體タ
ルハ疑無キ所ナルニ付斯ル排日政治運動ハ租界内治安維持
上特ニ重大ナル障害ヲ與フルニ鑑ミ二十一日附書翰ヲ以テ
「フランクリン」市參事會議長ニ對シ右趣旨ヲ述フルト共
ニ(一)國民精神總動員運動ノ禁止(二)上海市各界國民精神總動
員協會ノ解散(三)本件運動ニ關スル支那側機關ノ發スル指令
ノ新聞掲載禁止竝ニ右指令ヲ掲載セル新聞ノ販賣禁止及沒
收(四)租界内青天白日旗ノ掲揚禁止等ニ關シ速カナル措置ヲ
執ルヘキ旨ヲ要求セリ(委細郵報)

北京、天津、南京、漢口、香港へ轉電セリ

1703

昭和14年5月1日 在上海三浦総領事より
有田外務大臣宛(電報)

共同租界内における政治的宣伝を目的とする

結社および運動禁止に関し工部局参事会議長

が告示公布を表明について

別電 昭和十四年五月一日発在上海三浦総領事より

有田外務大臣宛第一一四九号

右工部局告示

上海 5月1日後発

本省 5月1日夜着

第一一四八號

往電第一〇四三號(租界内ニ於ケル政治運動禁止方ニ關スル我方申入)ニ關シ

一日(四月二十九日附)「フランクリン」市參事會議長ヨリ

(一)租界内政治運動ヲ禁止スヘシトノ日本側見解ニ對シ工部局ハ同感ナルヲ以テ近ク本件ニ關シ告示ヲ發スル意嚮ナルコト(二)工部局警察ハ政治的結社ノ所在地判明次第之ヲ解散スル用意アルニ付右ニ關スル如何ナル情報モ歡迎スルコト(三)政治 (四字不明) (一字不明) 禁スル (一字不明) 止ニ付テモ同

感ナリ工部局ハ新聞ノ取締及政治的宣傳ノ彈壓ハ治外法權ノ關係上困難ニ遭遇シツツアル事情ハ有之モ出來得ル限りノ努力ヲ爲シツツアルモノニシテ工部局トシテ租界内治安維持ニ害アル發刊物ノ取締ニ付最善ノ措置ヲ執ルヘキ旨ヲ茲ニ保障スヘキコト(四)租界内ニテ絶對ニ國旗ノ掲揚ヲ禁止スルコトハ工部局ノ權限外ナルノミナラス却テ擾亂ヲ惹起シ治安維持ノ目的ニ反スルニ到ルヘキヲ以テ工部局ニ於テ眞ニ國慶日ト認メラル祭日ヲ除キ政治的運動乃至宣傳ノ目的ヲ以テ國旗ヲ掲揚スルヲ禁スヘキコトノ趣旨ヲ以テ回答シ來レリ

尙一日工部局ハ別電第一一四九號ノ通り政治的宣傳ヲ目的トスル結社及運動ノ禁止ニ關スル告示ヲ公布セリ
本電別電ト共ニ北京、天津、南京、漢口、香港へ轉電セリ

(別電)

上海 5月1日後発

本省 5月1日夜着

第一一四九號

從來一部ノ間ニ於テ政治的宣傳ノ普及ヲ目的トスル諸結社

ヲ組織シ諸運動ヲ行ハントスル計畫アリ又現ニ計畫ノ行ハ
レツツアルハ工部局ノ重大關心事トスル所ナリ斯ル結社及
運動ハ工部局ノ觀ル所ニ依レハ秩序ヲ紊亂スルノ惧アリ且
又共同租界ノ治安及安全ヲ脅威ス依テ工部局ハ其ノ一般警
察權ヲ發動シテ此ノ種ノ結社ヲ禁止シ其ノ解散ヲ命シ竝ニ
此ノ種ノ運動ヲ禁止シ之ヲ防止スヘキコトヲ布告ス
尙右告示ハ邦字及英字ノ各紙ニ掲載セラレタルモ漢字紙ニ
ハ全然掲載セラレ居ラス

北京、天津、南京、漢口、香港へ轉電セリ

1704 昭和14年5月1日 在上海三浦総領事より
有田外務大臣宛(電報)

上海共同租界内の反日言論取締に関するわが
方要求に対し工部局回答について

上海 5月1日後発
本省 5月1日夜着

第一一五一號

往電第九六四號及第一〇九一號(租界内新聞取締申入)ニ關
シ

一日午前「フ」市參事會議長來訪左ノ要旨ノ覺書ヲ持參セ
リ

工部局ハ治安維持ニ害アル出版物取締ニ關スル日本側要望
ニ對シ同感スルモノナルカ右取締ハ工部局警察ノ義務ニシ
テ從來共努力シ來レルモ更ニ嚴重取締ヲ實行スヘシ既ニ各
新聞社ニ對シ直接警告ヲ發シタルニ付本件ニ關スル告示ノ
發表ノ要ナカルヘシ工部局警察ハ租界内政治結社ノ彈壓ノ
用意アルト共ニ治安ニ害アル出版物ノ發刊及搬出入ノ防止
ニ付出來得ル限りノ措置ヲ爲ス意嚮アリ新聞取締ヲ專掌ス
ル係ハ既ニ特高課内ニ存在スルヲ以テ之ニ對スル情報ノ提
供ハ歡迎ス尙外國領事ニ對シテ既ニ工部局ヨリ協力ヲ求メ
タル結果外國籍新聞ニ對シ夫々警告發セラレタルヲ以テ其
ノ結果ヲ眞ニ期待シ居ル次第ナリ

北京、天津、南京、漢口へ轉電セリ

1705 昭和14年5月3日

上海共同租界の機構および制度の改訂に関する
沢田外務次官の在本邦英米兩國大使への申入れ

付記 昭和十四年五月二十三日付

有田外務大臣内奏資料中の「上海共同租界問題」

題」

上海共同租界問題ニ關スル澤田次官ノ對英米大使

申入要旨(五月三日)

(イ)舊キ歴史ヲ有スル上海共同租界ノ機構及諸制度カ今日ノ新シキ事態ニ適應セサル幾多ノ缺陷ヲ有スルコトハ一般ニ認メラルル所テアル共同租界ノ基本法タル土地章程ヲ見ルニ現行章程ノ規定ハ僅少ノ些細ナル點ヲ除ケハ一八六六年納稅者會議ニ於テ通過シ一八六九年北京外交團ニ依リ承認セラレタル章程ノ規定ノ儘ノモノテアル即チ共同租界ハ今日ニ於テモ依然一八六六年ニ定メラレタル組織法ニ依リ支配セラレテ居ルノテアルカ當時ニ於ケル共同租界ハ其ノ面積現在ノ區域ノ三分ノ一二足ラス外國人居住者數ハ僅ニ二千二百人テアリ支那人居住者數ハ約九萬人ニ過キナカッタ、共同租界ノ現在ノ機構及諸制度ハ其ノ後七十有餘年間ニ發展シ來ツタモノテアルカ輓近著シク變化シ來リタル新ナル事態ノ下ニ事ヲ處理スルニ適當ナラサルモノアルコトハ蓋シ怪シムニ足リナイ。

(ロ)東亞ニ於テ現ニ展開シツツアル新情勢ニ鑑ミ租界ノ將來

ニ關スル根本問題カ如何ニ取扱ハルヘキヤハ暫ク之ヲ別ニスルトスルモ共同租界カ今日ノ現實ノ事態ニ適應シ眞ニ健全ナル機能ヲ發揮シ得ルカ爲ニハ其ノ機構及運用上ニ於テ改善ヲ加フルヲ要スル點ハ尠ナクナイト認メラレル數年前上海ノ諸新聞ニ於テ共同租界工部局改革問題カ盛ニ論議セラレタル際ニモ共同租界參事會員ノ選舉制度カ舊態依然トシテ非「デモクラチック」テアルコト、工部局主要職員ノ地位ハ殆ント英人ニ依リテ壟斷セラレ英人職員カ餘リニ壓倒的多數ヲ占メ且其ノ施政力寡頭政治ニ流レテ居ルコト、行政費カ餘リニ高ク殊ニ俸給力割高テアツテ義勇隊、教育、音樂隊其ノ他ニ於テ大ニ經費節減ヲ要スルモノアルコト、工部局豫算殊ニ教育費カ各國人ノ「コムミュニチー」ニ公平ニ配分セラレテ居ラナイコト等ノ諸點ハ一般ニ理由アルモノトシテ取扱ハレ就中土地章程ヲ新時代ノ要求ニ適スルヤウ改訂スル必要アリトノ意見ハ一般輿論ノ強キ支持ヲ受ケタノテアル。

(ハ)共同租界行政ノ運用ヲ圓滑ナラシムルカ爲ニハ工部局ノ機構ヲ新時代ノ要求ニ適應スルヤウ改組スル必要ノアル

外利害關係國人ノ發言權カ工部局行政ノ上ニ公平ニ表現セラルルコトカ必要テアルカ日本人ノ「コムミュニティ」ノ發言權ハ其ノ利害關係ノ大ナルニ比シ種々ノ點ニ於テ租界行政ノ上ニ十分公平ニ表現セラレテ居ラナイ憾ノアルノハ事實テアル例ヘバ日本人參事會員ノ數ニ付テ見ルモ又工部局警察部ニ於ケル日本人警察官ノ地位ニ付テ見ルモ將又工部局一般行政部ニ於ケル日本人職員ノ現狀ニ付テ見ルモ其ノ間ノ消息ハ明瞭テアル右ノ如キ諸點ニ付テノ不満足ナル現狀ヲ合理的ニ調整スルコトハ共同租界行政ニ對スル日本側ノ積極的協力ヲ可能ナラシメ租界行政ノ圓滿ナル運行ヲ計ルカ爲ニ絶對ニ必要テアル。

(二) 今日共同租界ノ地位及其ノ施設ヲ論スルニ當テ看過スルコトノ出來ナイ重要ナル事實ハ日支事變發生以來ノ支那ニ於ケル一般情勢ノ變化殊ニ上海方面ニ於ケル現實ノ事態ノ激變テアル上海乃至中支方面ニ於テハ蔣介石政權トハ別個ノ新シキ政權タル上海特別市政府及維新政府カ既ニ成立シテ居リ殊ニ上海特別市政府ハ租界外周邊ニ於ケル上海ノ現實ノ統治體トシテ實際上施政ノ責ニ任シツツアツテ上海方面一般ノ治安維持其ノ他一般公共ノ福祉擁

護ノ爲ニハ共同租界當局カ特ニ上海特別市政府ト緊密ナル協力ヲ爲スコトカ最モ望マシキコトト認メラレルノテアル此ノ見地カラ論スレハ例ヘハ共同租界内支那法院ノ地位ノ如キニ付テモ新事態ニ即シ實際的考慮カ拂ハレナクテハナラス又工部局ニ於テ保管シテ居ル舊市政府ノ土地臺帳ノ返還問題ノ如キモ速ニ解決セラルヘキモノト認メル。

(ホ) 現下ノ事態ノ下ニ看過シ得サル他ノ重大ナル事實ハ反日乃至反新政權分子カ租界ノ特別ナ地位ヲ利用シテ跳梁シツツアルコトテアル此ノ種分子ノ跳梁ヲ放任スルカ如キコトハ租界自體ノ存在及安寧ノ爲ニモ取ラサル所テアツテ右分子ノ「テロ」行爲及排日言論其他一切ノ有害行爲ニ對スル徹底的取締ニ付テハ租界當局及利害關係國ニ於テ切實ナル考慮ヲ拂ヒ善處スル必要カアルノテアツテ帝國政府ハ租界カ此ノ種分子ノ利用基地トナルコトニ對シテハ常ニ最大ノ關心ヲ以テ注視シツツアルモノテアル。

ORAL REPRESENTATION MADE BY VICE MINISTER
FOR FOREIGN AFFAIRS, MR. RENZO SAWADA, TO

THE BRITISH AND AMERICAN AMBASSADORS AT
TOKYO REGARDING THE QUESTION OF THE
SETTLEMENT IN SHANGHAI

May 3, 1939.

(a) The administrative structure and systems of the Settlement are defective in many respects rendering them wholly unsuitable to the present situation, including the Land Regulations, on which the administration of the Settlement is based. The provisions of the Land Regulations now in force, save on a few minor points, remain exactly the same as those of the Land Regulations of 1866. In other words, the Settlement is still governed by a set of basic regulations enacted seventy-three years ago when the Settlement was less than one-third of its present areas, and foreigners residing there numbered no more than 2,200 and there were only about 90,000 Chinese residents. Unquestionably the existing administrative structure and systems of the Settlement are in many respects inadequate to meet the new situation which has

developed in the ensuing 70 odd years.

(b) To enable the Settlement to adapt itself to the actual conditions now obtaining and to discharge properly its functions, not a few improvements and innovations should be introduced into its administrative machinery and its operation. Several years ago the question of the reform of the Municipal Council was eagerly discussed in the presses of Shanghai. It was then pointed out that the system of election for the Municipal Council was undemocratic; that the British monopolized important offices in the Municipal Council, held an overwhelming majority in its other offices and tended to be oligarchical in administering its affairs. It further asserted that administrative expenses were excessive, and therefore, a considerable retrenchment of expenditure was required in regard to the Volunteer Corps, the Orchestra and education, and in other respects; and that the budgetary expenditure of the Municipal Council, especially that relating to education, was not fairly distributed among the

different national communities. All those assertions were generally justified.

(c) To make smooth the working of the administrative machinery of the Settlement, it is imperative that the structure of the Municipal Council should be remodelled with a view to meeting the requirements of the present day. It is also necessary that the nationals of all the countries interested should have a fair and just voice in the affairs of the Municipal Council. The voice of the Japanese community, despite the enormous Japanese interests there, is not given a due and fair expression in the administration of the Settlement. This is evident from the small number of the Japanese Councillors, from the position of Japanese officers in the Municipal Police Department, or from how Japanese officials stand in the other departments of general administration. A reasonable adjustment of the present conditions, which are so unfair and unsatisfactory, is therefore, imperatively necessary.

(d) In considering the status and administration of the Settlement it should be borne in mind that a radical change has come over the general situation in China since the outbreak of the China Affair. Especially in Shanghai and its neighbourhood, the situation has completely changed. New régimes, distinct and separate from the Chiang Kaishek Régime have come into existence and are functioning—the Special City Government in Shanghai and the Weihsin (new) Government in Central China. It is most desirable, therefore, that the Settlement authorities should closely cooperate with the Special City Government for the maintenance of peace and order, and for the safeguarding of general public welfare, in Shanghai and its vicinity. For that purpose some measures must be immediately taken. For instance, practical consideration should be given to the position of the Chinese Court of Justice existing within the Settlement and the question of restitution of the old City Government's Land Registers held in custody by the Municipal Council must be speedily

settled.

(e) Japanese Government cannot pass unnoticed the rampancy of anti-Japanese elements or those elements hostile to the new régimes in China, who are taking advantage of the special status of the Settlement in carry on their lawless activities. It is incumbent upon the Settlement authorities and upon all the interested countries to accord serious consideration to the necessity of effecting a thorough control of the terrorism, anti-Japanese propaganda and all other malignant acts of these elements, and to take the requisite steps accordingly.

編注 本文書は、昭和十四年十二月、情報部作成「支那事變

關係公表集(第四號)」から抜粋。

(付記)

上海共同租界問題

一昨年十一月上海地方陥落シ其ノ後蔣政權カ漢口、更ニハ重慶ニ逃避シマシタ後モ上海ノ共同租界ニ於キマシテハ

抗日分子ノ暗殺行爲竝ニ反日運動カ引續キ行ハレ、一方共同租界ノ行政機構及其ノ運用カ事變後ノ新事態殊ニ維新政府及上海特別市カ相當確乎タル地方的政權トシテ存立致シマスル事態ニ適合セサルモノ多々アリマシタ爲我現地各機關ニ於キマシテハ緊密ナル協力ノ下ニ昨年一月以來工部局當局及英米兩國トノ間ニ共同租界内ノ抗日取締竝ニ工部局行政機構及其ノ運用ノ改善ニ付テ引續キ複雑多岐ナル折衝ヲ續ケテ參ツタノデアリマス。

即チ我カ現地當局ニ於キマシテハ機會アル毎ニ共同租界内ノ抗日取締ニ付キマシテ工部局當局ト折衝シ相當ノ效果ヲ擧ケテ參リマシタル一方、工部局ノ行政機構殊ニ其ノ警察ニ於ケル日本人警察官ノ地位ノ向上、權限ノ擴大等我カ勢力ノ擴充ニ努力シテ參リマシテ、此ノ點ニ付キマシテモ近ク一定ノ話合ニ達スル段階ニ進ンテ參ツタノテコサイマス。東京ニ於キマシテモ英米兩國ニ向ヒマシテ帝國政府ノ見解ト主張トヲ隨時闡明シテ參ツタノテコサイマスカ、去ル五月三日更ニ從來ノ主張ヲ一括シ我方ノ根本的ナル見解ヲモ交ヘマシテ英米兩國大使ニ對シ申入ヲナシタノテコサイマス。(中略)

右申入ニ對シマシテ米國側ヨリハ本月十七日、又英國側ヨリハ同十九日夫々其ノ見解ヲ回示シテ參リマシタ。兩者多少用語ヲ異ニスルノミデ其ノ趣旨ニ於テ全然同一デゴザイマスガ、要點ハ左ノ通りデゴザイマス。

一、英米政府ハ租界ノ土地章程ニ必要ナルベキ改正ニ付テハ友好的ナル交渉ニ參加スルニ吝デハアリマセヌガ、現在ノ上海ノ事態ハ決シテ平常ノモノデナク、複雑ナル諸問題ヲ論議シテ公正ナル解決ニ到達スルニ適シマセヌ。

租界内ノ支那法院モ、多數國家間ノ協定ニ基クモノデアリマスカラ、其ノ地位ヲ改ムル爲話合ヲ爲スコトハ土地章程ノ改正ト同様現在其ノ時機テハアリマセヌ。

二、租界行政ニ對スル參政權ニ付テハ各國人ノ間ニ何等差別待遇ハナク、日本人ハ寧ロ其ノ納付スル税金ニ比較シテ過大ナル投票權ヲ有シテ居ルノデアリマス。

三、行政機構ノ改善ニ付テハ租界當局者ハ事態ノ變轉ニ應シ善處シテ參ツタノデアリマシテ、今後モ日本側ノ公正ニシテ合理的ナル希望ニ應シ全力ヲ盡スモノト信スルノデアリマス。

四、租界當局ト新政權側トノ連絡協調ニ付テハ、租界當局側トシテハ其ノ隣接區域ニ承認セラレタル政府ナキ此ノ際、洵ニ困難ナル事態ノ現實ニ處シテ一切ノ努力ヲナシテ參ツタモノデアリマス。之ニ關シ注意スヘキ點ハ、租界ハ其ノ創始以來隣接區域ニ擾亂アル場合ニハ外部ヨリスル一切ノ紛爭ニ關ハラサルコトヲ其ノ政策トシテ參ツタコトデアリマス。

五、租界當局ハ上海ニ於ケル困難且緊張セル事態ニ拘ハラヌ、治安維持ニ付能ク有效ナル努力ヲ續ケテ來タノデアリマス。カ、租界隣接地域ニ於ケル治安ノ惡化ト日本軍力租界北部地域ヲ今猶租界當局ノ管理ニ復歸セシメサルコトハ、工部局側ノ努力ヲ困難ナラシメテ居ルノデアリマスカラ、日本側ニ於テ速ニ租界北部地域ノ返還ヲ圖ラレタイノデアリマス。

尙最近租界當局ニ於キマシテハ、一切ノ政治運動ヲ禁止シ、又從來外國籍ナルコトヲ盾ニ自由ナ抗日的言論ヲ弄シテ居リマシタ漢字新聞ニ對シテモ峻嚴ナル取締ヲ實施スル等、相當抗日分子ノ取締ニ努力シツツアル如クテコサイマス。カ、政府ト致シマシテハ今後モ從來ノ方針通り租界當局及關係

國トノ間ニ折衝ヲ續ケ共同租界ヲシテ眞ニ新事態ニ適合シタルモノトナサシムル様努力スル考テコサイマス。

~~~~~

1706

昭和14年5月4日

在上海三浦總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

上海共同租界の機構および制度の改訂に關連  
して英米兩國總領事に上海特區法院問題への  
協力を要望について

上海 5月4日後発

本省 5月4日夜着

第一一九三號<sup>(編注)</sup>

貴電第五八八號及第五八九號ニ關シ(上海租界問題ニ關スル件)

(一)租界問題ニ關スル二日ノ現地陸海軍ノ共同聲明(聲明文ノ作成ニ當方モ參與セリ)三日ノ澤田次官ノ英米兩大使ニ對スル申入ニ呼應シ四日本官ハ「フイリツプス」英國總領事竝ニ「ゴース」米國總領事ヲ歴訪シ右御申入ノ趣旨ヲ敷衍説明スルト共ニ共同租界内支那法院問題ヲ「ポイントアウト」シテ兩總領事ノ協力ヲ要望セルカ其ノ要

旨左ノ如シ

一、租界ノ安寧ヲ保障シ且其ノ繁榮ヲ増進スル爲ニハ土地章程ノ徹底的改訂カ緊喫ニシテ同時ニ租界ノ行政機構竝ニ諸制度ヲ革新スルコトヲ要ス

一、租界ノ安寧ハ何人モ欲スル所ナルカ租界内支那法院ヲ現在ノ事態ニ適應シテ改變スルニアラサレハ租界ノ安寧ハ危殆ニ瀕スヘシ蔣介石政權ノ使噉ニ係ル抗日「テロ」カ行ハレタル場合之ヲ審理スル者ハ蔣介石政權ノ任命及指令ニ係ル裁判官ナルコトハ不合理モ甚タシト  
言フヘク此ノ不合理ハ是正セシムル決意ヲ有ス

(二)右ニ對シ「フイリツプス」總領事ハ土地章程ハ骨董の存在ニシテ自分ニ於テモ豫々完全ナルモノトハ思考シ居ラサルモノナルカ本件御申入ハ重大問題ナレハ篤ト研究ノ上大使及倫敦ニ電報ヲ以テ請訓スヘシト述ヘ「ゴース」總領事モ同様何等「コムミット」スル所ナク華府ニ請訓スヘシト答ヘタリ

(三)尙英米總領事歴訪後引續キ「フランクリン」市參事會議長ヲ往訪英米側ニ對スル申入ト同様ノ點ニ付我方ノ要求ヲ強ク印象セシメ置キタリ

北京、天津、漢口、南京、香港へ轉電セリ

編 注 本文書は電報番号が欠落しているが、他の史料から第

一一九三号と推測し補った。

1707

昭和14年5月11日

在上海佐藤総領事代理より  
有田外務大臣宛(電報)

工部局参事會議長が租界内外国籍漢字紙の関  
係者を招致し各紙に自重方要請について

上海 5月11日後発

本省 5月11日夜着

第一二八二號

十日「フランクリン」市参事會議長ハ外国籍漢字紙發行者  
及編輯人ヲ工部局ニ招致シタル事實アル處情報ニ依レハ席  
上「フ」ハ現下當地方情勢下ニ於ケル工部局側ノ苦衷ノ存  
スル所ニ對シ諒解ヲ求ムルト共ニ差當リ各紙ニ壓力ヲ加フ  
ル意ナキモ若シ租界内外國籍漢字紙ニテ何等事端ヲ發セシ  
ムルカ如キコトアラハ工部局トシテハ將來之カ保護ノ責ニ  
任セストテ各紙ノ自重ヲ促ス所アリタルカ其ノ後各社ハ之

カ對策ニ付協議ノ結果工部局側ノ記事検査等(往電第一二  
一六號參照)ニハ飽迄反對ナルカ工部局側ノ立場モアリ各  
自自肅自戒方申合セタル趣ナリ  
北京、天津、南京、漢口、香港へ轉電セリ

1708

昭和14年5月13日

在上海佐藤総領事代理より  
有田外務大臣宛(電報)

仏租界における抗日犯人検挙に際し邦人警察  
官の立会いを仏国側容認について

上海 5月13日夜発

本省 5月13日夜着

第一三〇二號(極祕)

佛租界内抗日支那人ノ檢舉ハ從來共同租界警察ヲ通シ佛側  
ニ要求スルノ外ナク佛側ニ於テハ當方警察官ノ立合ヲ正面  
ヨリ拒否シ來レルノミナラス最近ハ政治的犯人ニ付テハ共  
同租界警察ノ立會ヲスラ拒否シ(日本人警察官アル爲ナル  
カ如シ)事實上佛租界ノ手人不可能ニ近キ有様ナリシヲ以  
テ十日坂警察部長ヲシテ橋爪帶同佛總監「フアール」ニ  
會見セシメ警察官ノ立場トシテ租界ノ治安維持上相互協力

ノ必要アルヲ力説シ最近ニ於ケル佛側ノ舉措ヲ難詰シテ日本側警官ノ立會ヲ要求セシメタル處「フ」ハ初メ法規ヲ楯ニ肯セサリシモ最後ニ一應佛總領事トモ相談ノ上支那人檢舉ノ際ハ日本側警察ヨリ一名共同租界側ヨリ一名ヲ援助ノ意味ニテ立會方承認スヘキ旨答ヘタル趣ナルカ十二日正式ニ之ヲ確認スル旨回答アリタリ但シ右ハ友誼上非公式ニ協力スル意味ナルヲ以テ公表差控ヘラレタキ旨附言シ來レルニ付御含置キヲ請フ

天津、北京、漢口、南京へ轉電セリ

1709

昭和14年5月19日 在上海佐藤總領事代理より  
有田外務大臣宛(電報)

上海共同租界および仏租界の両当局が共同で  
夜間通行禁止措置の随時発令を決定について

第一三三六號

上海 5月19日後発  
本省 5月19日夜着

共同佛兩租界當局ニ於テハ租界内ニ於テ政治的策動カ行ハレ警察命令(往電第二二八三號)ノ遵奉セラレサル場合ノ對

策トシテ必要アラハ時間外通行禁止ニ關シ共同租界工部局及佛總領事ノ緊急共同布告ヲ公布スルコトニ決定シタル趣ナリ

右決定ニ基キ共同租界ニ於テハ十八日附警視總監同章ヲ以テ必要ノ場合ニハ左ノ趣旨ニ依ル緊急時間外通行禁止ヲ發令スヘキ旨通告ヲ發シ且右時間外通行禁止ニ關スル「ポスター」ヲ印刷シ外國警備軍及義勇隊ト聯絡ノ上何時ニテモ實施シ得ル準備ヲ了シ度キ趣ナリ

一、通行禁止ハ當初ハ二日乃至四日トス

二、時間ハ午後八時ヨリ翌朝五時ニ至ル迄トス

三、通行禁止ハ自動車搭乗者ニモ及フモノトス

四、外國人ニハ適用ナシ

五、浮浪者ハ之ヲ拘引シ釋放セス

六、街路ノ取締ヲ嚴ニシ命令ニ違反シタル者ハ外國人ヲ除キ

檢束セラルヘシ

尙佛租界ニ於テモ同様ノ措置ヲ講スヘキ豫定ナル由

北京、天津、南京、漢口へ轉電セリ

1710

昭和14年5月19日 在上海佐藤總領事代理より  
有田外務大臣宛(電報)

上海共同租界の機構・制度改訂に関する日本  
側要求を米國政府が全面拒否したことなど列  
國の対日強硬姿勢を歓迎する漢字紙論調報告

上海 5月19日午後  
本省 5月19日夜着

第一三八二號

十九日當地漢字紙ハ何レモ土地章程修正ニ關スル日本側要  
求ニ對スル米國政府ノ全面的拒否、蘇州河以北地區ノ工部  
局返還要求又ハ英米佛三國海軍ノ鼓浪嶼上陸ニ依リ日本軍  
ノ大部分ハ撤退シ人心初メテ安定セリ等ノ大見出ノ下ニ華  
府及香港電等ヲ掲ケ列強ノ強硬態度ニ依リ日本ハ遂ニ屈服  
スルモノナリヤノ印象ヲ一般ニ植付ケンストスルカ如キ宣傳  
的書振リヲナシタルカ十八日重慶發路透電モ同地ニ於テハ  
特ニ英米佛海軍ノ鼓浪嶼上陸ヲ歡迎シ右ハ列強ノ強硬態度  
トシテ今後ノ對日交渉上ニモ一進歩ヲ劃スヘシト論シ極メ  
テ好印象ヲ與ヘ居ル旨報シ居レリ

北京、天津、南京、漢口、厦門、香港へ轉電セリ

1711

昭和14年8月8日 在上海三浦總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

上海租界内の重慶側機關の接收に関する対策  
要綱を現地三省會議で決定について

上海 8月8日午後  
本省 8月8日夜着

第二二〇五號(極祕)

往電第一八八七號及第二〇三五號ニ關シ

(一)上海獨自ノ立場ヨリ推進中ナル租界問題解決ノ二方針中  
特ニ租界内重慶政府機關ノ接收工作ニ付テハ租界三省幹  
事會ニ於テ篤ト研究中ナリシ處偶原則問題ニ關スル東京  
會談成立シタルヲ以テ右ヲ合併セテ考慮ノ上一案ヲ得タ  
ルニ付八月七日租界三省委員會(三委員、三幹事出席)ニ  
附議ノ結果東京會談開始後ニ於ケル上海租界對策要綱<sup>綱</sup>ト  
シテ左ノ通可決決定セリ

一、共同租界、佛租界ニ存在スル重慶政府機關ヲ接收ス右  
ニ對シテハ先ツ外交交渉ニ依リ特區法院ノ接收ヲ圖ル  
モ之ニ依リ速ナル實現ヲ期シ得サルトキハ佛租界ニ在  
ル第二特區法院次テ其ノ他重要ナル重慶政府機關ヲ接

收ス

ニ、右接收ノ側面工作トシテ特區法院官ノ懷柔等ヲ行フ

三、租界當局竝ニ第三國人ニ對シ重慶政府機關ノ接收力當

然ノ措置ナルコトヲ認識セシムル如ク宣傳竝ニ裏面工

作ヲ行フ

四、右ト竝行シ共同租界工部局ヲ終局ノ目的トシテ市參事

會選舉 vote 増加工作ヲ行フ

(二)右對策要綱ハ先ツ以テ外交交渉ト懷柔工作ニ重キヲ置ク

次第二シテ實力行使ハ最後ノ手段トシテ行フヘク尙其ノ

必要アル場合ハ豫メ中央エ請訓シ許可ヲ取付ケタル上ニ

テ行フコトニ話合濟ナリ

本官ハ九日法院問題ニ關シ佛總領事ト會談佛側ノ回答ヲ督

促スル(往電第二〇四二號御參照)豫定ナル處右會談ニ關聯

シ佛側ニ或程度ノ壓力ヲ加フル爲陸軍ハ佛租界周圍附近ノ

警備軍ヲ増強シ又海軍ハ黃浦江上ニ示威ヲ行ヒツツアリ爲

念

天津、北京、漢口、南京、廣東へ轉電セリ

1712

昭和14年9月30日

在上海三浦總領事より  
野村外務大臣宛(電報)

上海共同租界工部局參事會議長と汪兆銘との

意見交換について

上海 9月30日前発

本省 9月30日後着

第二八〇三號(館長符號扱)

二十五日夜市參事會議長「フランクリン」ハ竹内ト會見セ

ルカ其ノ内容ニ關シ竹内カ清水ニ内話セル所左ノ通り

「フ」ハ汪ノ和平運動ノ速カナル成功ヲ希望スル旨ノ挨拶

ヲ述ヘタル後滬西越界路問題ニ言及シ新中央政府成立ノ上

ハ同地警察權ヲ新政府ニ移行スルコトハ問題ナキモ同地區

ニ對シテハ工部局ノ投資モ相當多額ニ上リ居ルヲ以テ收稅

問題ハ別途ニ之ヲ考慮スル必要アリト思考ス而シテ米國側

ハ當方面ノ狀態ヲ充分了解シ居ルヲ以テ特ニ日本側ヲ不

要ニ刺戟セシメサル爲既ニ米國駐屯兵ノ滬西行ヲ内密禁止

シタル程ナルカ英國側ハ新中央政府ノ成立ニ餘リ期待シ居

ラス特ニ工部局カ英人ノ實權下ニ在ル爲貴方ニ對シテモ

種々不満足ノ點アルヘキモ何等意見アラハ遠慮ナク申出テ



ラレタク出來得ル限り善處スヘシト語リタルニ對シ竹内ハ其ノ好意ヲ謝スルト共ニ工部局側カ滬西方面ニ裝甲自動車等ヲ持出シ示威運動ヲ爲スノ愚ナルコトヲ指摘シ置キタル趣ナリ

北京、南京、漢口へ轉電シ香港へ暗送セリ

~~~~~

1713

昭和15年1月20日
在上海三浦總領事より
有田外務大臣宛(電報)

工部局警察の蘇州河以北地域への復歸に関する海軍側試案について

上海 1月20日午後
本省 1月20日夜着

第一二〇號

工部局警察ノ蘇州河以北地域ヘノ復歸ニ關シ⁽¹⁾

(一)二十日租界對策委員幹事會ニ海軍側ヨリ別電第一二一號⁽²⁾

ノ試案提出セラレタルカ其ノ理由左ノ通りナル趣ナリ

一、海軍側ニ於テハ工部局警察ノ蘇州河以北地域ヘノ復歸

ヲ至急實現スルコトニ付テハ主義上全然異存ナキモE

區中越界路地域ニ關シテハ將來滬西ト同様特殊ノ考慮

ヲ加フルノ必要アルニ至ルヤモ計ラレサルヲ以テ此ノ際同地域ノ警察權迄モ工部局ニ返還スルニ於テハ將來右必要發生ノ場合支障アリ唯市政府警察ノ不満足ナル現狀ニ於テ邦人ノ多數居住スル同地域ヲ滬西同様ノ特殊警察區トスルコト不可能ナルヲ以テ同地域ノ警察權ニ付テハ此ノ際何等ノ決定モナサス當分ノ間從前通り陸戰隊ニ於テ擔當シ將來必要ナル措置ハ執リ得ル餘地ヲ殘シ置カントスルニ在リ唯海軍ニ於テモ實際上ハ工部局警察ニ相當廣範圍ノ活動ヲ認メ差支ナシトノ考ニテ交通警察ハ當然工部局ヲシテ行ハシムル外犯罪ノ搜查犯人ノ逮捕等モ陸戰隊ノ承認ヲ得テ行ハシムルモ差支ナキ趣ニテ(別電ノ一但書ハ此ノ意味ナル由)唯將來ニ對スル留保ヲ目的トスルモノナル趣ナリ

二、工部局警察カ蘇州河以北地區ニ復歸スルモ同地區ニ於テ逮捕セラレタル犯人カ重慶政府ノ機關タル第一特區法院ニ於テ裁判セラレ又同地區ニ於ケル支那人間ノ民事事件及日本人カ原告タル民事事件カ同法院ニ於テ裁判セラルルハ不合理ナルヲ以テ蘇州河以北地域ニ於ケル民事刑事事件ハ重慶政府ノ機關タル法院以外ノ法院

- ニ依り裁判セラレサルヘカラス之カ爲ニハ現特區法院ヲ新政權ニ接收スルコト最モ適當ナルカ(別電二ノイ)右ニハ相當ノ時日ヲ要スヘキヲ以テ不取敢別ニ日本軍管理特區法院又ハ重慶政府ト絶縁シタル第一特區法院分院(名目ノミハ重慶政府機關トスルモ裁判官ノ任命其ノ他ノ實質ハ總テ日本側又ハ維新機關ノ定ムル所ニ依ル)ヲ設立セントスルニ在リ右ノ點ニ付テハ法理上種々ノ疑問アルヘキモ右主張ノ根據ハ同地區カ日本軍ノ支配下ニ在ルノ事實ヲ以テ説明スヘキモノトス
- (二)⁽³⁾右ニ對シ當館幹事ヨリ二付テハサシタル問題ナカルヘキモ三ハ法理上種々議論ノ餘地アルヘク工部局及領事團ニ於テモ ^(二字アキ) 二贊成セサルヘキヲ以テ同案實現ノ必要性ハ充分之ヲ認ムルモ之カ實現ニハ相當ノ困難アルヘキ旨述ヘタルニ對シ陸海軍側幹事ヨリ右ノ困難ナル事情ハ充分承知シ居ルモ右カ實現セサルニ於テハ工部局警察ノ復歸ヲ認ムル眞ノ目的ヲ達シ得サル次第ニ付形ハ何レニテモ結構ナルカ前記事件カ重慶政府ノ機關以外ノモノニ依り裁判セラルル様極力努力アリタキ旨要請シタル趣ナリ
- (三)本案ハ二十四日ノ最高連絡會議ニ於テ更ニ審議セラルル

豫定ナル趣ナルカ其ノ際ハ本官トシテ左ノ通り意見ヲ開陳シタキ所存ナリ

兩件共主義上異存ナキモ之ヲ交換公文ニ記載シ又ハ之ヲ條件トシテ工部局警察ノ復歸ヲ認ムルコトトスルニ於テハ問題全體ヲ不成立ニ終ラシムル惧アルヲ以テ工部局警察復歸ニ關スル公文交換ノ際口頭ニテ「フランクリン」議長宛申入レ(場合ニ依リテハ簡單ナル覺書ヲ交付スルコトアルヘシ)詳細ニ付テハ復歸ノ順序方法等ニ付更ニ決定ノ爲設置セラルヘキ刑務連絡會議ニ於テ研究シ實現方取計ハシムルコト適當ナルヘシ

1714

昭和15年2月19日 在上海三浦総領事より
有田外務大臣宛(電報)

工部局警察の蘇州河以北地域への復歸に關連した措置案を租界幹事会で決定について

別電 昭和十五年二月十九日發在上海三浦総領事より
有田外務大臣宛第三二五号

右措置案

上海 2月19日後発
本省 2月19日夜着

第三二四號

往電第三三一號ニ關シ

租界幹事會ニ於テ研究ノ結果十九日ノ同幹事會ニ於テ別電
第三二五號ノ通り決定ヲ見タルカ二十一日ノ最高首腦部會
議ニ附議ノ上正式決定ノ答

(別電)

上海 2月19日後発
本省 2月19日夜着

第三二五號

一、工部局警察ノ蘇州河以北共同租界地域ヘノ復歸ニ關スル
件

工部局警察ノ蘇州河以北共同租界地域ヘノ復歸ハ漸進的
ニ之ヲ行フモノトス之カ爲工部局警察ヲ不取敢C、D兩
區及租界外道路ヲ除キタルE區ニ復歸セシム但シE區内
租界外道路ニ於テモ交通警察及陸戰隊ノ承認ヲ得タル事
項ニ關スル警察ハ之ヲ行フコトヲ認ム

二、蘇州河以北共同租界地域ニ於ケル民事事件ノ繫屬裁判所
ニ關スル件

特區法院ノ接收ヲ最終ノ目標トシテ進ムヘキモ之カ實現
ノ爲差當リ左ノ方法ニ依ル

(一)上海地區一帶ハ日本軍ノ占據スル所ニシテ重慶機關
カ同地區内ニ存在活動スルコトハ日本側トシテ承認
シ得ス

(ロ)日本ノ勢力下ニ在ル支那人ノ民事事件及日本人カ
原告タル民事事件カ重慶政府管理ノ法院ニ於テ取
扱ハルルハ不合理ナリ

トノ二點ヲ理由トシテ共同租界工部局ニ對シ現實ノ事
態ニ即應スル方途ヲ考慮方要求ス

(二)右ニ對シ工部局カ我方ノ腹案ヲ要求シ來ル場合ニハ
(イ)法院ノ接收

(ロ)日本軍管理法院ノ新設

(ハ)重慶ト絶縁シタル第一特區法院分院ノ新設

(ニ)二枚鑑札

等ヲ提案ス

(註、我方ノ考ヘ居ル法院ヲ我方ノ要求トシテ提出ス

ルコトナク工部局側ノ要求ニ依リ我方ニ於テ智慧ヲ貸シ以テ其ノ何レカヲ實行セサルヲ得サルカ如キ工作スルヲ主眼トス)

1715

昭和15年4月10日

在上海三浦総領事より
有田外務大臣宛(電報)

租界回収を強く求める南京国民政府系新聞の

論説について

上海 4月10日後発

本省 4月10日夜着

第六九一號

九日中華日報ハ租界回収運動ト題スル社説ヲ掲ケ國民政府ハ既ニ改組還都セルカ租界ノ存在ハ支那ノ領土主權ノ完整ヲ毀損シ第三國ヲシテ支那ノ内政外交ニ干渉セシメ且全面的和平建國運動ノ障害タル重慶側抗戰ノ根源ヲ爲ス旨強調シ吾人ハ支那カ永年ニ亘リ第三國ニ對シ遵守スヘキ義務ハ之ヲ嚴守セル旨闡明セルカ更ニ吾人ハ支那カ第三國ニ對シ文明國家トシテ當然享有スヘキ權利ヲ確保スヘキ旨聲明スル要アル處問題トナルハ現在租界ヲ回收スヘキ時機ナリヤ

又其ノ力量アリヤ否ヤニ在ルモ前者ニ關シテハ第三國ニ其ノ裁決權無ク國際關係ノ現狀ニ依リ決定スヘキモノナリト爲シ歐洲戰ノ現狀ニ顧ミル時英佛兩國ノ極東ニ於ケル地位縮減シ米國ハ對蘇關係ノ未決定ニ基因シ更ニ對日關係ノ不調整ニ依リ現在支那ニ對シ具體的行動ニ出ツルコト不可能ナル立場ニ在ル等目下租界回収ノ阻害力ハ最モ小ナル現狀ニ在リト斷シ後者ニ關シテハ吾人カ統一國家建設ノ固キ決意ノ下ニ全面的和平ヲ招來スル爲ニハ淪陷區同様租界回收カ現下ノ最モ緊密ナル任務ナルコトヲ力説シ置レリ(全文郵送ス)

支、天津、南京、漢口へ轉電シ香港へ暗送セリ

1716

昭和15年4月11日

在上海三浦総領事より
有田外務大臣宛(電報)

租界の實力回収も辞せずとの南京国民政府系

新聞の論説について

上海 4月11日後発

本省 4月11日夜着

第七〇〇號

十一日中華日報ハ社説ヲ掲ケテ租界回收ノ方法順序ニ關シ言及シ其ノ方法ハ先ツ談判ノ様式ヲ執ルモ更ニ強行措置ニ出ツヘキヤ否ヤハ其ノ結果ニ依リ決定スヘシト爲シ其ノ順序トシテハ當初尠クトモ租界内ノ支那人金融機關及宣傳機關ヲ直接政府ノ統治管理下ニ置クト共ニ租界カ元來外人ノ商業經營ノ爲設立セラレタル以上租界自身ノ行政機構維持ノ外ハ其ノ如何ナル政治的活動モ政府ニ於テ干涉スル權利アルコトヲ主張スヘキモノナリト爲シ要ハ先ツ租界ノ政治特權ヲ消滅セシメ然ル後其ノ商業特權ヲ消滅セシムルニ在ル旨強調シ更ニ市參事會員選舉問題ニ論及シ租界ノ英米獨占ハ租界回收ノ甚大ナル阻害力ナルヲ以テ支那ノ租界回收ニ協力スル日本ノ地位ヲ向上セシメ租界回收ヲ容易ナラシムル爲支那ハ日本側ノ勝利ヲ希望スルモノナルカ外國人モ今後租界ノ福利ヲ保障スル者ハ英米ニアラスシテ支那ニ在ル事實ヲ認識シ支那側ノ此ノ種希望ヲ重視スヘキナリト論シ居レリ

北京、天津、南京、漢口へ轉電シ香港へ暗送セリ

1717

昭和15年5月13日
阿部中国派遣大使より
有田外務大臣宛(電報)

上海特區法院問題をめぐる南京国民政府周隆

庠外交部次長との意見交換について

南京 5月13日後発

本省 5月13日夜着

第八〇號

特第八號

十一日外交部周隆庠日高參事官來訪上海特區法院問題ニ付テハ維新政府時代委員會ヲ設ケ研究中ナリシカ新政府ニ於テモ外交部ヲ中心トスル委員會ヲ設クルコトトシ研究中ナルカ最近徐次長ヨリ當地英國領事ニ當リ見タル處裁判官自身市政府ニ寢返ルナラハ差支ナシト思ハルモ米國側ノ意向ヲ確ムル必要アリ返答ハ三週間許待タレタシト答ヘ其ノ後赴滬セル模様ナリ最近上海ニテ法院裁判官ニ對スル護衛嚴重トナリタルハ右ニ基ク心配ノ爲カトモ思ハル本件ニ對スル日本側ノ主義上ノ御意見承リタシト述ヘタルニ付日高ヨリ日本ハ勿論法院接收ニハ賛成ニシテ從來トモ維新政府、上海市政府等ト協力シ來レリ只問題ノ要點ハ現在ノ法院ノ

機能ヲ停止スルコトカ目的ニアラス新政府ノ命ニ從フ裁判官カ裁判ヲ爲ス如ク實效ヲ收ムル點ニアルヲ以テ之カ實行ニ當リテハ法律上充分考究ヲ要スル旨注意シタルニ周ハ若手ノ中ニハ實力接收論強キモ首腦部ハ先ツ現裁判官ヲ新政權ニ寢返ラシムルコトニ依リ目的ヲ達スルコト然ルヘク且佛租界ヨリ着手スルコト各般ノ關係上容易ニアラスヤト考ヘ居ル旨内話シタリ尙十三日楮民誼モ同様ノコトヲ内話シタルニ依リ本件ニ付テハ上海市政府ト步調ヲ合ハス要アルニ付我方ト密接ニ聯絡スルコト必要ナリト注意シ楮之ヲ了承セリ

上海總領事ヨリ興亞院華中連絡部ニ轉交アリタシ
上海ヘ轉電セリ

1718 昭和15年5月20日 在上海三浦總領事より
有田外務大臣宛(電報)

仏租界当局が欧州情勢緊迫に当たり万一の場
合は租界の管理を米國に委任するなど対応方
針を決定したとの情報について

第九六七號

上海 5月20日後発
本省 5月20日夜着

興建運動本部入手ノ情報ニ依レハ當地佛租界側ニ於テハ歐洲情勢ノ緊迫ニ對處スル爲十七日「コスム」大使「オウジエ」總領事「エサンティア」警備司令官公董局要路者等十四名同局内ニ參集會議ノ結果左記要旨ノ決議ヲ爲シタル趣ナリ

- 一、駐屯軍ノ駐屯繼續ト佛租界ノ現狀維持
- 二、萬一ノ場合ハ佛租界ノ管理ヲ米國ニ委任ス
- 三、婦女子ノ佛印ヘノ避難準備ノ爲登記開始
- 四、其ノ他租界内獨逸人ニ關スル取^(續カ)方法租界^(撤カ)收方法等

□□
(二字不明)

北京、天津、南京大使、漢口、香港ヘ轉電セリ

1719 昭和15年5月21日 阿部中国派遣大使より
有田外務大臣宛(電報)

上海特區法院接收のための秘密委員会設立を
決定した旨周隆庠内話について

南京 5月21日後発
本省 5月21日夜着

第一〇九號(至急、極秘)

特第一四號

往電特第八號二關シ

二十日周外交部次長日高ヲ來訪左ノ通り内話セリ

一、本日上海特區法院接收問題ニ關シ關係各部長ノ會議ヲ開キタル結果法院接收ハ從來ノ經緯ヨリスルモ尋常ノ外交的手段ノミニテハ到底目的ヲ達シ難キニ付政府ハ表面ニ立タス上海市政府ヲ表ニ立テ一方特務工作竝ニ民衆運動ニ依リ所期ノ效果ヲ收ムルヲ可トスルニ意見一致シ差當リ行政院ノ祕密命令ヲ以テ「上海特區法院接收行動委員會」ヲ設ケ實行ニ移ルコトニ決定セリ

二、右委員會ハ上海ヲ本據トシ汪翰章(司法行政部次長)ヲ委員長李士群(警政部次長)顧繼武(社會部次長)傅上海市長等ヲ常務委員ニ任命スル豫定ニテ不日傅市長ヲ南京ニ召致シ汪主席ヨリ親シク命令スル手筈ナリ

三、實行方法ハ先ツ相談ニ依リ場合ニ依リテハ民衆運動等多少威嚇的手段ニ訴フルコトアルモ強力ノ使用ハ避クル方

針ナリ尙佛租界ヨリ始ムヘシトノ意見アリタルカ本件最強硬ノ相手ハ米國ナルヲ以テ共同租界ニ於テモ同時ニ實行ニ移ルコトニ決セリ尙本件ニ付テハ日本側トモ常ニ密接ナル聯絡ヲ保チ萬遺憾ナキヲ期シタキ意嚮ナリ

右ニ對シ日高ヨリ本件ハ再三申上ケタル通り實效ヲ舉クルヲ主眼トシ慎重事ニ當ル要アリ又租界内ノ運動ハ租界外支那法院ノ完備等ト相俟ツテ始メテ效果アル次第ナルニ付上海市長竝ニ現地日本側ト密接ナル聯絡ヲ保チ着實ナル手段ニ依リ徐ニ目的ヲ達スル様施策セラレタキ旨強調シ置ケリ上海總領事ヨリ興亞院華中連絡部ニ轉交アリタシ上海ヘ轉電セリ

1720 昭和15年5月22日 阿部中国派遣大使より
有田外務大臣宛(電報)

上海特區法院問題に関する汪兆銘との意見交換について

南京 5月22日後発
本省 5月22日夜着

第一一八號(至急、極秘)

特第一五號

往電特第一四號ニ關シ

二十一日日高汪主席ト懇談ノ際本件ニ言及シタル處汪ハ言下ニ我々ノ考ハ簡明ナリ本件解決ニハ外交ハ無力ニテ武力モ亦效果ヲ擧ゲ得サルニ付民衆運動ノ力ニテ我々ト協力セサレハ斯々ノ不便アリト言フコトヲ如實ニ示ス積リナリト述ヘ日高ヨリ上海市政府カ日本側ト充分連絡シ從來ノ經驗ヲ活用シ其ノ協力ヲ得ルコト必要ナリト言ヒタルニ汪ハ其ノ點ハ充分了解シ居ル積リナリ從テ傳市長ニ對シテモ特ニ人ヲ派シ今般來寧ヲ求メタル趣旨ヲ充分説明シ本人竝ニ世間ノ疑惑ヲ一掃スルニ意ヲ用ヒ居レリト述ヘタリ

上海總領事ヨリ華中連絡部ニ轉交アリタシ

上海ヘ轉電セリ

1721

昭和15年6月7日

在上海三浦總領事より
有田外務大臣宛(電報)

上海仏租界の対米移管に関する報道を仏米双方が事実無根と回答した旨報告

第一一一四號

貴電⁽¹⁾第五九二號ニ關シ(上海佛租界問題)

「七日朝佛國總領事「オージエ」ヲ往訪シ本件情報ノ眞疑ヲ確カメタル處「オ」ハ右ハ全然形跡ノナキ風説ニシテスル報道ヲ生セシムルカ如キ「スライテストインデケーシヨン」モ無之コトヲ茲ニ率直ニ言明ス自分ハ上海總領事タルト同時ニ佛租界工部局次長ナルカ此ノ双方ノ資格及責任ニ於テ斯ク申上クル次第ナリ寧ロ自分トシテハ同盟通信カ如何ナル經路ニ於テ斯クノ如キ「ニユース」ヲ入手シタルカニ付疑義ナキ能ハサル次第ナリト述ヘタルニ付本官ヨリ現在ハ勿論將來ニ於テモアリ得ヘカラサルモノト了解シ其ノ旨本國政府ニ電報シ差支ヘナキヤト念ヲ押シタルニ「オ」ハ差支ナキコト勿論ナリ佛蘭西トシテハ租界ノ現狀ヨリ更ニ一步ヲ進メントスルカ如キハ夢想タモセサルト同時ニ一步タリトモ退カントスルカ如キハ全然考慮シ居ラサル次第ナリト答ヘタリ依テ本官ヨリ只今率直ナル言明ヲ得テ深く多トスル次第ナルカ御承知

上海 6月7日後發
本省 6月7日夜着

ノ通り上海附近一帯ヲ占領シ其ノ治安維持ニ重大ナル關心ヲ有スル日本側ニ對シ事前ニ何等ノ聯絡ナク他ノ第三國ト斯ル重大ナル話合ヲ進ムルカ如キコトアラハ日本政府トシテ看過シ得サル次第ナリト附言シタルニ「オ」ハ右ニ關スル日本政府ノ立場ハ自分ノ良ク了解シ得ル所ナリ寧ロ常識ノ問題ニシテ極メテ當然ノコトニ屬スト答ヘタリ

二、⁽²⁾次テ米國總領事代理「パトリック」ヲ往訪シ同様ノ質問ヲナシタル處自分ノ關スル限り全然根據ナキ風説ナリ尙本件ニ關シ「ハート」大將ニハ今日迄問合ヲナササリシモ自分トシテハ問合ス必要モ値打モナシトサヘ考ヘ居ル次第ナリ然ルニ同盟通信ハ最モ信スヘキ筋ヨリ得タル情報トシテ「ニユース」ヲ「キヤリー」シ居ルコトコソ寧ロ不思議ニシテ日本總領事トシテハ其ノ出所ヲ突止ムルコト必要ナルヘシト述ヘタリ依テ本官ヨリ右出所ハ目下取調中ナルカ日本政府トシテハ此ノ種ノ報道ニ重大關心ヲ有セサルヲ得サル次第ナリトテ前記ノ趣旨ヲ繰返シタルニ「パ」ハ其ノ點ハ自分モ良ク了解シ得ル所ニシテ極メテ當然ナリト答ヘ更ニ語ヲ轉シ數日前ヨリ日本ハ伊太

利ノ參戰ヲ切掛けニ獨伊ト聯絡シ共同及佛蘭西兩租界ヲ乗取ルヘシトノ風説行ハレ居ル處其ノ眞偽如何ト訊ネタルニ付本官ヨリ右ハ全然根據ナキ流説ニ過キサルトヲ茲ニ率直ニ言明ス尙今朝ノ各英字紙ハ斯ル流説ヲ眞シヤカニ報道セル重慶發路透電ヲ揭示シ居ル處(往電第一一一三號參照)右ハ何レノ方面ヨリ來リタルモノト考ヘラルルヤト反問シタルニ「パ」ハ上海ニハ流説ヲ製造スル各種ノ「エーゼント」アリ恐ラク日本ト米國及佛蘭西トノ間ニ不愉快ナル感情ヲ激成シ以テ之ヲ離間セシメントスルモノノ仕業ナリト思考スト述ヘタリ

北京、天津、南京、漢口、廣東、香港へ轉電セリ



1722 昭和15年6月8日 在上海三浦總領事より
有田外務大臣宛(電報)

蘇州河以北の租界内刑事事件を処理するため
臨時警察裁判所の設置を工部局提議について

上海 6月8日後発
本省 6月8日夜着

第一一三八號

往電第三九七號蘇州以北ノ法院問題ニ關シ⁽¹⁾

「ケジツク」カ「フランクリン」ニ代リ工部局議長ニ就任シテ以來ノ遺口ハ從前ト稍趣ヲ異ニシ我方ニ好マシカラサルモノアリ現ニ滬西ニ於ケル武裝團體問題ニ關シ執リタル極メテ非妥協的態度(往電第九六三號)又本件法院問題ニ關シ極メテブツキラ棒ナル回答ヲ爲シ來リタルカ如キ將又之ニ關聯シ日本側ヨリ明白ナル受諾ノ回答ナキ限り古屋領事ノ工部局入りノ手續ヲ公式ニ「テークアツプ」シ能ハサル旨申越シタルカ如キ(此ノ點未報告)之ニシテ斯ノ如キ調子ニテ進マシムルコトハ甚タ面白カラサルヲ以テ「上海ニ於ケル各種ノ問題ハ極メテ重要且困難ナルモノノミニ付之カ處理ハ慎重且巧ナルヲ要ス然ルニ「ケ」ハ年若ク且金持ノ坊チヤシナル爲カ租界問題ノ重要且困難性ヲ認識セサルモノノ如シ同人ハ商賣ニハ經驗アルモ政治問題ヲ處理シタル經驗皆無ナルニ鑑ミ右ニ已ムヲ得サルコトカト思ハルルモ今後工部局ト日本側ト從來ノ如ク「ゲツト、オン」シ得ルヤ否ヤ疑問ナキ能ハス」トノ趣旨ヲ折ニ觸レ自然ノ形ニテ之ヲ洩シ又最近岡本ハ本官ノ趣旨ヲ帶シ「フイリツプス」事務總長ニ對

シ相當強ク「インプレス」シタリ

二、右ノ結果七日「ケ」ハ「フイ」總長ヲ同道本官ヲ來訪シ日本側ニ於テハ自分カ議長ニ就任以來工部局ノ政策ニ變化ヲ來タシタリトノ印象ヲ有ストノ噂ヲ一再ナラス耳ニスル處右ハ全然事實ニ反スルモノナルコトヲ諒解願度シ自分トシテハ蘇州河以北復歸協定ハ一日モ早ク實行ニ移シ度希望ナルカ何分ニモ法院問題ニ關シ英米側ニ「フエボラブル、リアクシヨ」ナキ爲困リ居ルモノナルカ唯此ノ問題ニ關スル日本側ノ立場ハ充分諒解シ居レリト述ヘタリ

三、次イテ「フイ」ヨリ未タ他ニ相談シタル次第ニハアラサルモ自分一個ノ思付トシテ蘇州河以北ノ刑事事件ヲ處理スル爲新ニ「テンポラリ、ポリス、コウト」(臨時警察裁判所)ヲ設ケ日本側ノ同意スル裁判官ヲ工部局ニ於テ任命スルコトトシテハ如何「ポリス、コウト」ハ英國ニ於ケル「ポリス、マジストレイト」ニ相當スルモノナルカ當分事態ノ安定スル迄此ノ辦法ニ依リ切抜クルコト出來間敷ヤト述ヘタリ

四、依テ本官ヨリ從來日本政府ハ工部局カ司法權ヲモ獲得ス

ルコトニハ根本的ニ反對ナルカ警察裁判所ノコトニモアルニ付現下ノ難關ヲ突破スル一辦法トシテ一應研究ヲ試ムヘキ處裁判官ハ何レノ國籍ノモノヲ任命セントスルモノナルヤト尋ネタルニ「フイ」ハ其ノ點ハ具體的ニハ考慮シ居ラス日本側ノ希望ニ依リ如何様ニモ考慮シ得ヘシト存スルモ若シ支那人、日本人及外國人（例ヘハ日本人ヲ原告トスル民事事件ハ日本人裁判官ニ又白系露人其ノ他非治外法權國人ノ刑事事件ハ外國人裁判官ニ執筆セシムルカ如キ一案ナルヘシ）ヲ併セ任用スルコトトセハ一層通り良カルヘシト答ヘタリ

五、右ニ對シ本官ヨリ早速研究ヲ進ムヘキモ其ノ間ニ於テ問題ノ英、米總領事ニモ充分地均ヲ爲シ置クコト可然キ旨說示シタルニ兩人ヨリ此ノ案ニ就テハ未タ相談セサルモ本問題ニ就テハ最近二回ニ亘リ兩總領事ト協議シタル次第第二付兩總領事ハ問題解決促進ノ必要ハ充分痛感シ居ル次第ナリト説明セリ

六、次テ試ミニ本官ヨリ曩ニ日本側ヨリ「サゼスト」シタル方法ノ一トシテ蘇州河以北ニ特區法院ノ分院ヲ作り本院ヨリ裁判官ヲ派遣シ其ノ裁判官ニ二枚鑑札ヲ持タシムル

案アリタルハ御承知ノ通りナル處合議機關タル工部局ニ公然二枚鑑札ヲ認メシムルコトハ或ハ困難ナランモ工部局トシテハ單ニ分院ヲ蘇州河以北ニ開設シ之ニ裁判官ヲシテ檢察ニ止メ此ノ裁判官カ二枚鑑札ヲ受クルヤ否ヤノ問題ハ全然眼及耳ヲ蔽フコトトスルモ一案ナラスヤト述ヘタルニ兩人共英米總領事力同意スルニ於テハ工部局トシテハ異存ナシト答ヘタリ

七、最近租界幹事會ニ於テ研究ヲ進メツツアルコトハ累報ノ通りナル處前記ノ解決案モ相當考慮ノ餘地アリト認メラルルニ付之ヲ幹事會ノ議ニ計ルコトト致度キ所存ナルカ中央ニ於テモ至急御研究ノ上何分ノ御意見アラハ折返シ御回示相煩度シ

北京、南京、天津、漢口ヘ轉電セリ



1723

昭和15年6月22日
在上海三浦總領事より
有田外務大臣宛（電報）

南京国民政府が上海租界の実力回収を行な
らば米国軍は仏国軍と共同で防衛に当たると
の米国総領事代理の内話情報報告

上海 6月22日後発
本省 6月22日後着

第一二五五號

南京政府ノ内意ヲ受ケ先般來當地ニ在リテ個人的ニ英米側ト聯絡ニ努メ居ル外交部無任所公使張國輝カ租界問題ニ關スル米總領事代理「パトリック」ノ内話トシテ館員ニ内話セル所御參考迄(張ハ古キ外交畑ノ出身ニシテ「パ」トハ舊知ノ間柄ナル由)

一、最近中華日報ハ租界回收論ヲ盛ニ掲ケ居ル處南京政府ハ各國ノ承認ヲ經居ラス又未タ獨立ノ形態ヲ具ヘ居ラス租界回收談判ノ如キ絶對不可能ナリ若シ又南京政府カ武力ヲ以テ租界回收ノ舉ニ出ツルカ如キ場合ハ米國軍ハ共同租界ニ付テハ佛軍ヲ援助シ防衛ニ當ルヘク上海ノ現狀維持ニ努ムルカ米國ノ政策ナリ

二、參戰國カ上海ヨリ撤兵スルヤ否ヤハ勿論各國獨自ノ權限ニ屬スルコトナルカ自分個人トシテ知ル所ニ依レハ英佛共撤兵ノ意無キモ(英國大使館情報部員「テレル」モ最近張ニ對シ英國ハ上海ニ重大ナル權益アリ撤兵不可能ナリ伊太利ト同日ニ論スヘカラスト言ヘル由)

將來萬一兩國軍撤兵シ上海租界ノ防備空虚ナルニ至レハ米國ハ上海ニ増兵シテ租界ノ安全ヲ保持スヘシト云ヒ張ヨリ若シ伊太利カ撤兵セハ各參戰國ハ當然同様措置スヘキモノト思料スト云ヘルニ對シ「パ」ハ伊ノ撤兵ニ對シ吾人ハ勿論干涉ノ意ナシ但シ租界治安維持ニ付テハ既ニ便法アリト述ヘタリ

三、佛租界ノ米國移管「ニユース」ハ自分ハ同盟ノ放送ニ依リ始メテ之ヲ知レルカ右ハ明カニ日本人ノ爲ニセントスル策謀ナルヘシトテ之ヲ否認セルカ「パ」ノ言ニ依レハ佛租界ノ米國移管ハ事實ニ非サルモ米國ハ其ノ防衛ニ付佛側ニ對シ密ニ協力ヲ許シ居リ共ニ目下移管ノ必要ヲ認メ居ラスト云フカ實情ナルヤノ印象ヲ得タリ

四、租界内ノ法院ハ英米等カ承認セル中國政府ト締結セル條約ニ依リ設立セラレタルモノナレハ米國ハ協定尊重上未承認ノ南京政府ノ接管ヲ認ムル能ハス又日本ノ軍事占領ハ行政機關ニ對シテハ爲シ得ヘキモ之ヲ司法機關ニ迄及ホスハ不可ナリ法院問題ハ南京政府カ獨立自由ノ形態ヲ備ヘ其ノ國際的地位確立後始メテ談判スヘキ問題ナリ云々

南京大使、北京ニ轉電セリ

1724

昭和15年6月25日
在上海三浦總領事より
有田外務大臣宛(電報)

工部局提案の臨時警察裁判所設置案を採用す
べき旨意見具申

上海 6月25日前発
本省 6月25日前着

第一二七二號

往電合第一一八號ニ關シ

- (一)六月四日ノ租界幹事會ニ於テ一應決定シタル案ハ十一日ノ幹事會ニ於テ正式決定ヲ見タルモ工部局ヨリ往電第一一三八號ノ「ポリスコート」案提示セラレタルニ依リ同案ヲモ考慮ニ容レ今一應研究ヲ行フノ必要アリタルヲ以テ未タ租界委員會ニハ附議シ居ラサル處特區法院設立案ト「ポリスコート」案トヲ比較スルニ
- (二)「ポリスコート」案ヲ適當トスル事由左ノ通り
- ハ、特區法院分院設立案ハ法院ノ裁判官カ新政權ノ任命ヲモ受クルコトヲ肯セサル場合ニハ實現性ナク又現情勢

ニ於テハ重慶側ノ壓迫ヲ恐レ右ニ應スル見込甚タ鮮キコト

二、津師公會ニ於テ新政權側ノ裁判所ニハ協力セサルヘキ旨決議シ居ルニ鑑ミ特區法院分院ヲ設立スルモ其ノ實際的ノ效果ヲ期待シ難キコト

三、本工作ノ目的ハ重慶ノ機關ト絶縁スルニ在ルヲ以テ特區法院ノ分院ヲ新設スルヨリモ「ポリスコート」ヲ新設シ以テ重慶機關ニ特區法院ヲ正式否認ノ態度ヲ明瞭ニスル方政治的ニ意義大ナルヘキコト

四、「ポリスコート」ノ裁判官ハ日本側ノ推薦スル者ヲ工部局カ任命スルコトナルヲ以テ日本側ノ希望スル裁判ヲ行ヒ得ルコト

五、佛國側モ「ポリスコート」ニ相當スル裁判所ノ新設ニハ異存ナキヲ以テ(客年往電第二二三號)將來佛租界法院ニ付同前ノ工作ヲ行ヒ得ヘキコト

六、「ケジツク」「フイリツプス」兩人カ公式ニ提案シ來レルニ徴シ英米側トハ二十二日前ニ何等カノ聯絡アルモノト推定セラレ從テ英米兩國領事モ承諾スヘキコト右ニ對シ「ポリスコート」案ヲ不可トスル理由左ノ通り

一、工部局カ支那人ニ對シ事實上司法權ヲ持ツコトヲ認ム
ルコトトナリ從來我方ノ執リ來リタル態度ト實質のニ
背馳スルコト

二、右ノ結果新政權側ニ對シ我方カ同政權ノ國權回復工作
ト反對ノ態度ヲ執リ居ルヤノ印象ヲ與ヘ同政權側ヲシ
テ我方ヲ出シ拔キ實力ヲ以テ法院延イテハ租界ノ回復
ヲ圖ラントスルカ如キ空氣ヲ醸成スルノ惧アルコト

(四)前記二項ノ利害ヲ比較考慮シ本官トシテハ主義上ノ問題
ハ此ノ際暫ク措キ事變中ノ過渡的便法トシテ「ポリスコ
ート」案ヲ採用スルコト然ルヘシト認メ居リ近ク領事館
側意見トシテ之ヲ租界幹事會ニ披露致度キ所存ナルニ付
テハ陸海軍側トモ協議ノ上何分ノ儀大至急御電示ヲ請フ
北大、天津、南大、漢口、厦門ヘ轉電セリ

1725

昭和15年6月26日 在上海三浦總領事より
有田外務大臣宛(電報)

上海租界対策に関する方針および実施要領
を租界幹事会決定について

第一二八四號

上海 6月26日後発
本省 6月26日後着

佛租界對策ニ關シ二十六日ノ租界委員會幹事會ニ於テ領事
館側ノ提案ニ基キ方針及實施要領左ノ通り決定シタリ不取
敢

一、方針

佛租界ノ敵性ヲ解除シ同租界ニ日本ノ實力ヲ扶植スルヲ
目標トシ施策ス

二、實施要領

右方針實行ノ爲三浦總領事ヨリ佛國總領事ニ對シ左ノ諸
項ヲ要求スルモノトス

イ、「テロ」行爲取締ニ對スル協力

三浦憲兵隊長ヨリノ六月二十一日附申入ヲ實行シ就中
客年三月共同租界工部局ノ同意シタル左ノ諸點ヲ勵行
スルコト

A、日本及南京政府側ニ對シ「テロ」行爲ヲ行ヒ又ハ
行ハントスル者ニシテ佛租界當局ニ逮捕セラレタル
者ハ直ニ日本側ニ引渡スヘキコト

B、佛租界内ニ於ケル對日「テロ」禁遏ノ爲憲兵領事館警察官等我警備機關カ佛租界内ニ於テ所要ニ應シ隨時必要ナル區域ニ於テ所要ノ措置ヲ執リ以テ佛租界警察機關ニ協力スルコト

C、日本官憲ハ佛租界工部局ト協力シテ黃浦江ヨリ租界ニ出入スル支那人及其ノ搬出入スル物品ヲ検査シ必要ニ應シ之ヲ日本官憲ニ於テ留保スルコト

D、佛租界内要所ニ於ケル通行支那人ノ身體検査ヲ即時勵行スルコト

口、法院ノ重慶側トノ絶縁

ハ、敵性不動産ノ日本側ヘノ引渡

ニ、重慶側ト關係ヲ有スル支那人董事會員ノ更迭

ホ、排日新聞雜誌記事ノ取締

ヘ、排日放送ノ取締

ト、排日映画ノ取締

チ、排日教科書ノ取締

北京、南京大使、天津、漢口、厦門、廣東、香港ヘ轉電セリ

編 注 本文書は電報番号が欠落しているが、他の史料から第

一二八四号と推測し補った。

~~~~~

1726

昭和15年6月28日

阿部中国派遣大使より  
有田外務大臣宛(電報)

日本軍の軍事上の立場を認め上海においても  
日本側と協力する旨を在本邦仏国大使表明に

ついて

南京 6月28日後発

本省 6月28日夜着

第二〇七號

特第三七號

二十五日上海ニ於テ佛國大使ニ面會ノ節日高參事官ヨリ租界問題ニ付テハ租界ヲ支那ニ返還スヘシトノ支那側及日本側ノ主張ノ外汪政權ヲ助ケ重慶ヲ潰滅シツツアル日本側トシテ當面解決ヲ要スル要求アリ之ニ満足ヲ與ヘサレハ日本及汪側ヲ憤激セシメ前記主義上ノ主張トカラ見テ不測ノ事態起ラストモ限ラスト言ヘルニ同大使ハ東京ニ於テ佛國大使カ正式ニ戰鬪行爲ノ行ハレ居ル事實及日本軍ノ立場ヲ認

メ且天津佛租界當局カ治安問題等ニ關シ日本側ト協力スル取極ヲ爲シタル以上上海ニ於テモ右ト同趣旨ノ取極ヲ爲スハ毫モ差支ナキ儀ト思考シ既ニ徐家滙地區ノ警備ヲ日本軍ニ引渡シタルノミナラス犯人引渡及犯人搜索逮捕ノ協力等ニ關スル日本側ノ要求(上海發貴大臣宛第一二六六號)ニ付テモ適當協議決定スヘキ旨租界警察當局ニ訓令セリ自分ハ出來ル丈現實ニ即シ日本政府ノ聰明ニ信賴シ佛國旗ヲ辱カシメサル限り之等ノ問題ニ付日本側ノ道理アル要求ニ應シ不測ノ事態勃發セサル様努力シ居ル次第ナレハ日本側ニ於テモ諒トセラレタシト述ヘ上海發貴大臣宛第一一八八號記事ハ事實無根ナリト頻リニ辯解セリ

尙歐洲政局ニ關聯シ佛植民地(佛印ヲ含ム)ハ「ボルドー」政府ノ命ヲ聞カス獨逸ニ降ラサルヘキニ付獨英兩國トノ關係ハ何レモ極メテ困難トナルヘシト憂色ヲ示シ上海總領事及重慶駐在參事官ノ任命アリタル趣ノ新聞報道ニ付テハ本國政府ヨリ何等通知ナク多分人事上ノ必要ニ基ク假任地ナルヘシト答ヘタリ

上海ヨリ華中連絡部ヘ轉報アリタシ

北京、天津、上海、廣東、漢口、香港ヘ轉電セリ

1727

昭和15年6月28日

阿部中国派遣大使より  
有田外務大臣宛(電報)

臨時警察裁判所設置案の採用は新政府の指導

上問題があり絶対反対の旨意見具申

南京 6月28日後発

本省 6月28日夜着

第二〇九號

上海發大臣宛電報第一二七二號「ポリスコート」案ノ思想ハ事變當初ヨリ工部局乃至英米佛側ニ於テ着想シ居リタルモノナルモ右ハ我事變處理ノ根本方針ニ背馳スルモノナルヲ以テ頭カラ問題トナラストノ態度ヲ以テ臨ミ來リタルコト御承知ノ通りナル處新中央政府ノ實現及歐洲情勢ノ激變ノ今日ニ於テ主義上ノ問題ハ暫ク別問題トスルモ從前ニ比シ一層前記態度ヲ堅持スヘキ實質的事由アリト認メサルヲ得ス蓋シ新政府側ニ於テハ成立當初ヨリ特區法院問題ニ對シテハ特別ノ關心ヲ有シ我方ノ盡力ニ期待ヲ寄セ居ル矢先若シ我方ニ於テ本作「ポリスコート」案ノ如キ新政府側ノ面子ヲ犠牲ニスル法案ヲ以テ外國側ト妥協センカ新政府側ハ我方ノ態度ニ對シ鮮カラサル失望ヲ感シ聽テ我方ノ根本



政策ノ眞意ノ奈邊ニ存スルヤニ付疑義ヲ抱クニ至リ我方ノ  
新政府ニ對スル威信ハ著シク傷ケラレ新政府指導上由々シ  
キ事態ヲ招來スルノ惧アリ斯クテ本件ノ影響スル處單二一  
時的ニ限ラルル問題ニアラス加之歐洲情勢ノ急轉ニ基ク四  
圍ノ狀況ハ租界問題處理上ニモ新ナル構想ヲ加フルヲ要ス  
ル狀況トナリツツアリ旁主義上ノ問題トシテ見ル時ハ本件  
「ポリスコート」案ノ如キハ正シク新秩序建設ノ方向ニ逆  
行スルモノナルコト言フ俟タサルモノナルニ付假令一時的  
ノ便法ニセヨ本案採用ニ對シテハ我方トシテ同意シ能ハサ  
ルモノト思料セラル右ノ外本案ヲ不可トスル理由多々存ス  
ト認メラルルモノ不取敢簡單ニ右私見申進ム尙法院問題其ノ  
他租界問題ニ關スル當方意見等ニ關シテハ主トシテ杉原ヲ  
シテ上海ニ聯絡セシムヘシ  
北京、上海、天津、漢口、厦門ヘ轉電セリ

1728

昭和15年7月1日

阿部中国派遣大使より  
有田外務大臣宛(電報)

臨時警察裁判所設置案の採用を不可とする理

由について

第二一四號(至急)

貴電第一二六號ニ關シ(上海租界法院問題ニ關スル件)

南京 7月1日後発  
本省 7月1日夜着

一、上海發閣下宛電報第一一三八號「フイ」ノ申出テタル  
「ポリスコート」案ナルモノハ專ラ蘇州以北ノ部分ノミ  
ニ關スルモノニシテ蘇州河以南ニ關シテハ依然重慶側機  
關タル從來ノ法院ヲ其ノ儘認メントスルモノナリ從テ右  
案ノ受諾採用ハ貴電ノ如ク「租界當局ヲシテ重慶側機關  
タル現在ノ特區法院ト絶縁セシメ以テ重慶ニ與フヘキ政  
治的效果ヲ狙フ」目的ヲ達スルコトトハナラス却テ日本  
側乃至新政府側ハ重慶機關タル特區法院ノ本體ニハ齒カ  
立タス之ニ手ヲ染ムルコトヲ遂ニ斷念シテ僅ニ蘇州河以  
北ノ一小地區ニ退却シタリトノ觀ヲ與ヘ政治的ニハ寧口  
逆ノ效果ヲ與フルニ至ル

二、一度蘇州河以北ニ關シ我方ニテ妥協センカ蘇州河以南特  
區法院自體ニ對スル今後ノ施策ノ途ハ却テ塞ルコトトナ  
リ問題ノ全面的解決ニ對シ自ラ障礙ヲ作ルコトトナルニ  
至ルヘシ

三、本件「コート」ハ「テンポラリー」ノモノナリト言フモ

一度本案ノ如キ制度採用サルルニ至ラハ之ヲ本筋ニ返スハ實際上容易ナラス(「テンポラリー」ナリトノ建前ニテ實際ハ恆久的の制度ヲ作ルコト英國式ノ遣口ナルコト御承知ノ通り)又本筋ニ返スニ付テハ種々面白カラサル條件ノ附随スヘキハ租界内法院問題ニ關スル過去ノ事例ニ徴スルモ明瞭ナリ

四、<sup>(2)</sup>所謂上海シヤユーシ案ノ如キ思想ハ現實ニ上海歐米人ノ

間ニ在リ殊ニ現下ノ歐洲情勢ノ急轉ニ伴ヒ上海ノ現狀維持ニ對スル不安カ高マルト共ニ右ノ如キ思想カ暗々裡ニ強クナリツツアルハ想像ニ難カラス斯ル際本件「ポリスコート」案ノ如キモノカ採用實施セラレンカ右ノ如キ空氣ノ情勢ニ油ヲ注クコトナリ斯クテ我方乃至新政權側ノ今後ノ租界對策ヲ遂行スルコト不利ナル一般の空氣ヲ作ルニ至ルヘシ

五、佛租界ニ對シテハ法院ノ重慶側トノ絶縁ヲ要求シ其ノ他ニ關シテモ從來ニ比シ一層積極的ナル要求ヲ爲スコトヲ決意シ更ニ佛印緬甸「ルート」等ノ問題ニ關シテモ重慶壓迫ノ爲相當手強キ要求ヲ提出スルノ態度ニ出テ乍ラ上

海共同租界ニ於テノミ本件ノ如キモノヲ以テ妥協セントスルハ跛行的ノ行キ方ニシテ政策ノ一貫性ヲ缺クノ憾アルノミナラス折角今日迄頑張り來リタルモノヲ今日ニ至テ而モ我方ニ有利ニ展開シツツアル情勢ノ下ニ於テ斯ノ如キ案ヲ以テ妥協ヲ急クノ要ナカルヘシ

就テハ往電第二〇九號ノ外以上ノ諸點ヲモ併セ御勘考ノ上冒頭貴電ノ考方ニ付テハ篤ト御再考ヲ得度シ

北京、上海、天津、漢口、濟南ハ轉電セリ

~~~~~

1729

昭和15年7月4日

在上海三浦總領事より
有田外務大臣宛(電報)

臨時警察裁判所案が実施不適当ならば特區法院問題の急速解決は不可能であり当分は欧州情勢の推移を静観すべき旨意見具申

上海 7月4日後発

本省 7月4日夜着

第一三四九號(極秘)

往電⁽¹⁾第一二七二號ニ關シ

「ポリスコート」案ニ付南京大使發貴大臣宛電報第二〇

九號及第二一四號ノ如ク考慮ヲ拂フノ必要アルコトハ勿論ノ次第二シテ本官トシテモ充分考慮ニ入レ居リタル所ナルカ現ニ日本スラ承認シ居ラサル新政府ノ法院ヲ租界ニ新設セシムルコトハ工部局側ヲ納得セシムルニハ多大ノ時日ヲ要スヘク又現在ノ狀態ニ於テ特區法院裁判官ニ二枚鑑札ヲ受諾セシムルコトニ付テモ相當困難アリ仍而事變繼續中ノ權宜ノ措置トシテ冒頭往電ノ通り「ポリスコート」案ノ採用ヲ適當ト認ムル旨申シタル次第ナリ

二、工部局側ニ於テハ本件法院問題ノ解決ヲ見サル限り工部局警察ノ蘇州河以北ヘノ復歸ヲ實行スルノ意思ナキコトヲ言明シ居リ從テ前記特區ノ設定等モ實現ノ見込ナキ次第ナルカ我方トシテモ法院問題解決前ニ工部局警察ヲ復歸セシムルコトハ適當ニアラスト認メ居レリ

三、我方カ工部局警察ノ蘇州河以北ヘノ復歸促進ヲ圖リ本年三月一日基本的協定ヲ成立セシメタル所以ハ事變以來不正常ノ狀態ニアリタル上海ノ狀態ヲ出來得ル限り速ニ正常化シ以テ英米側ノ日本ニ對スル「プレツシユア」ヲ幾分ニテモ緩和セントスルニ在リタルコト御承知ノ通ナルカ現在ノ歐洲ノ狀態ニ鑑ミ我方トシテ其ノ當時トハ異

リタル方針ヲ取ルコト必スシモ不合理ニハアラス又工部局警察ハ蘇州河以北ニハ正式ニ復歸シ居ラスト雖現ニ相當數ノ警察官ヲ入レ或程度ノ警察權ヲ行使シ居ル現狀ナルヲ以テ

法院問題⁽²⁾ニ付無理ナル解決ヲシテ迄我方ヨリ進ンテ正式ニ其ノ復歸ヲ促進スル要アリヤ否ヤハ再考ノ餘地ナキニアラス但シ之カ爲メE區ノ設定遲延シ其ノ結果既ニ提案シ居ル古屋領事ノ工部局入りノ問題カ當分解決セサルコトトナルヘキモ右ニ對シテハ工部局ト折衝ノ上何等カノ臨時的措置ヲ講シ得ヘシト存ス

四、前記一ノ如キ情勢ニテ若シ「ポリスコート」案ノ實施不適當ナリトセハ法院問題ノ速急解決ハ不可能ノ狀態ナルカ刻々ニ變化スル現在ノ歐洲情勢ニ鑑ミ當分之力推移ヲ見テ或時期ニ根本的解決ヲ計ルコトモ一方法ナルヘシト認メラレ現ニ三日ノ最高首腦部會議ニ於テモ本官ヨリ右ノ如キ趣旨ノ考案ヲ披露シ且右ニ付テハ即座ニ各方面ノ意嚮ノ開陳ヲ求ムル次第ニアラサルモ篤ト考慮ヲ加ヘラレタキ旨述ヘ置キタリ(其ノ際イワカラ海軍武官長ヨリ當分時局ノ推移觀望方可然ヤニ思ハルル旨「リマーク」

アリタリ)

五、本件ハ現下ノ變局ニ對處スヘキ我國策ノ根本問題ト睨合ハセ決定スヘキモノナルヤニ存セラルルニ付若シ貴大臣ニ於テ工部局警察ノ復歸ヲ當分延期スルモ支障ナシトノ見込ナルニ於テハ法院問題ヲ當分現狀ノ儘ニ放置シ置クモ一策ナラスヤト存ス右不取敢

北京、天津、支、漢口、厦門へ轉電セリ

~~~~~

1730

昭和15年7月18日  
在上海三浦總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

上海租界当局へ対日協力に関する要求事項  
申入れについて

上海 7月18日後発  
本省 7月19日前着

第一四九二號(極秘)

往電第一二八四號ニ關シ

十八日ノ租界幹事會ニ於テ佛國總領事宛覺書案陸海軍側ノ主義上ノ同意ヲ得タルニ付準備整ヒ次第佛國總領事宛申入ルル豫定ナリ

右覺書ノ内容ハ租界ノ敵性ヲ排除スルノ必要及佛租界ノ我方ト協力スルノ必要ヲ述ヘ左ノ諸項ヲ要求スルニアリ  
一、「テロ」策謀ノ取締

六月二十一日附三浦憲兵隊長申入ノ諸項ノ嚴重勵行及領事館警察ニ對スル同様ノ協力

二、法院ノ重慶側トノ絶縁

第二特區法院ノ閉鎖新政府法院ノ新設

三、敵性不動産ノ日本側ヘノ引渡

四、重慶側ト關係ヲ有スル支那人董事ノ更迭

五、排日宣傳ノ取締

六、佛租界公董局及同警察ニ日本人幹部職員ノ採用

(以上各項トモ簡單ナル理由ヲ附ス)

北京、天津、南大、漢口、厦門、廣東、香港へ轉電セリ

~~~~~

1731

昭和15年7月29日
在上海三浦總領事より
松岡外務大臣宛(電報)

上海第一特區法院主席判事への襲撃事件発生
について

第一六〇五號

上海 7月29日後発
本省 7月29日夜着

二十九日正午頃佛租界ニ於テ第一特區法院主席判事錢鴻業
ハ二名ノ支那人ヨリ兇彈四發ヲ見舞ハレ左胸部竝ニ腹部ニ
重傷ヲ負ヒタルカ犯人ハ何レモ逃走セル趣ナリ
北京、南大、漢口、天津、香港ヘ轉電セリ

~~~~~

1732

昭和15年 7月31日  
在上海三浦総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

上海第一特區法院主席判事殺害事件の背景に  
関する情報報告

上海 7月31日後発  
本省 7月31日夜着

第一六二五號(極秘)

往電第一六〇五號ニ關シ

錢鴻業ハ遂ニ絶命セルカ本件ニ關シ三十日李士群ハ鶴見ニ  
對シ豫テ錢ヲ汪側ニ引入ルヘク試ミタルコトアルモ同人ハ  
法院内ニ於ケル反汪排日ノ巨頭ニシテ到底轉向ノ見込ナキ

コト判明セルヲ以テ斯ル敵人ヲ其ノ儘放任スルコトヲ得サ  
ルニ至レリトテ李一派ノ所爲ナルコトヲ仄カセル趣ナリ  
北京、南京大使ヘ轉電シ香港ニ暗送セリ

~~~~~

1733

昭和15年 9月12日
在上海三浦総領事より
松岡外務大臣宛(電報)

南京国民政府の外部機関が上海特區法院の判
事および職員へ帰順を強要する脅迫状發出
について

上海 9月12日後発
本省 9月12日夜着

第一九九七號

國民政府ノ別働隊タル「ゼスファイルド」路七六號防共救國
國民黨特別勞働本部ヨリ八日附ヲ以テ第一、第二特區法院
判事及職員ニ對シ東亞ノ現狀ヲ訴ヘ汪精衛ノ國民政府モ南
京ニ復歸シタル今日徒ニ形勢ヲ觀望スルコトハ國ヲ救フ所
以ニアラス國ヲ救ヒ己ヲ救フ爲ニ本信受領後七日以内ニ同
本部ニ自身出頭又ハ書信ニ依ツテ態度ヲ明ニスヘシ若シ右
舉ニ出テサルニ於テハ自發的ニ現職ヲ辭職スヘシ然ラスン

ハ貴下ノ態度ニ疑ヲ抱ク他ノ一派ノ連中ニ依リ貴下ニ對シテ直接行動ノ加ヘラルコトアルヘシトノ趣旨ノ脅迫狀ヲ送リタリトノ趣ニテ十日工部局事務總長ハ右譯文ヲ兩法院協定ノ當事國タル英、米、佛、蘭、諾威、伯刺西爾各總領事ヘ送付シ工部局ハ法院協定ノ當事者ニハ非ス又判事及職員ノ政治的動向ニ關シ何等關心ヲ有スルモノニアラサルモ租界内ニ法院ノ現存シ公正ノ保タルヘキコトニ重大ナル關心ヲ有ス從テ工部局警視總監及法務官トモ協議ノ上本件ヲ前記各國總領事ニ通報スル必要ヲ感シタルモノナリトシ殊ニ七月二十九日第一特區法院判事暗殺セラレタルニ鑑ミ本件脅迫狀ノ送付ハ深刻ナル不安ヲ醸成スルモノナリトノ趣旨ヲ申送り別二同日附ヲ以テ本官ニ對シ日本側法院問題ニ關心ヲ有スルニ鑑ミ本件各國總領事宛書面寫ヲ送付スルモノナリト前提シ本件脅迫狀ノ危險且不安ナル效果ニ鑑ミ本官ニ於テ何等カ處理ヲ執リ得ルニ於テハ然ルヘク善處アラシコトヲ要請シ來レリ尙前記脅迫狀ノ發出ニ關シテハ十二日當地夕刊ニ報道セラレタリ

北京、南大二轉電セリ

1734

昭和十五年十月三日 興亜院會議決定

「上海租界對策」

上海租界對策

昭和十五年十月三日

興亞院會議決定

一、上海租界ハ東亞新秩序建設ノ爲メ他ノ支那各地ノ租界ト同様原則トシテ回收セラルヘキコト當然ナルモ其時機方未ダハ世界政局ノ動向ト帝國國防力ノ充實トニ反照シ決定セラルヘキモノトス

二、上海共同租界ハ世界經濟上ニ於ケル同租界ノ地位ニ鑑ミ此際帝國ノ不足資源獲得ノ據點タラシムル目的ヲ以テ當分從來ノ國際的色彩ヲ失ハシムルコトナク且ツ其安靜ヲ保持セシムルモノトス

但シ其必要ニ當リテハ何時ニテモ之カ回收ヲ爲シ得ル如ク各般ノ準備ヲ進メ置クヲ要ス

三、上海佛租界ニ關シテモ前項ニ準シ取扱フモノトス

昭和15年10月15日
在上海堀内総領事より
松岡外務大臣宛(電報)

上海仏租界特区法院の接收をめぐる仏国当局

との協議結果について

上海 10月15日後発
本省 10月15日夜着

第二一七一號

一、⁽¹⁾上海租界法院問題ニ關シテハ最近上海特務機關ニ於テ佛租界法院支那人職員ノ寢返リ工作相當見透シ付キタル趣ヲ以テ一先ツ佛租界法院ノミノ接收ヲ實施セントスル意見出テタルカ當方、總軍及大使館ト聯絡ノ結果大使館及當方打合ノ上別途空送ノ接收實施要領案ヲ作製シ七日租界對策幹事會ニ附議シ且其ノ前後ニ於テモ日支關係各方面ト折衝ヲ試ミタル結果同案ニテ各方面ノ意見ヲ取纏メタリ同案ノ骨子ハ一面寢返リ工作ニ重キヲ置クト共ニ他面日佛間了解ノ成立ヲ絶對ノ條件トスル點ニアリ尙幹事會ニ於ケル陸海軍側ノ意見トシテ成ルヘク佛國側ヲシテ應諾シ易カラシムル爲接收ノ儀式等ニ重キヲ置カス又南京政府側ノ任命ヲ受諾スル限りニ於テハ職員各個人ノ重

慶トノ繋リヲ公然ト斷絶セシムル企圖ヲ暫ク差控フルモ差支ナカルヘク斯クシテ共同租界ニ對スル先例ヲ造ルコトニ重點ヲ置カサルヘカラストナセルハ注目ニ値スヘシ

二、⁽²⁾依テ日佛交渉開始ニ先ンシ先方(大使、總領事トモ不在)

ノ態度ヲ打診スルコト然ルヘシト認メ十四日曾根着任挨拶ノ爲舊知ノ佛國總領事代理ヲ往訪ノ際本件ニ言及シ赴任前本件ヲ研究セル結果法院ノ重慶ト絶縁スルコト法院ノ閉鎖及新政府法院ノ新設ハ實際上同時且平穩程ニ行ヒ得ヘシトシテ之ニハ三ノ前提條件アリトノ決論ヲ得タリ即チ

(一)南京政府ニ於テ法院協定ヲ廢止スル等法律問題ヲ起サス事實の解決ヲ旨トスルコト

(二)^(ア)佛當局力好意の中立ヲ持シ先ツ接收ノ場合ニ於ケル保護警戒及接收後ニ於ケル寢返リ辯護士等ノ身體及財産ノ保護ニ任スルノミナラス工部局警察ニ於テモ司法警察トシテ新法院ニ協力ヲ爲スコト(先ノ(二)ハ(三)ナリ)

(二)支那人職員ノ過半数力寢返リ南京ノ任命ヲ受諾スルコト之ナリ

而シテ着任後各方面ヲ打診セル結果(一)(二)ノ條件ハ大體滿

足シ得ヘキ状態ニシテ殘ルハ(三)ノ條件即チ佛國側ノ態度如何ニアル次第ナリトテ先方ノ意見ヲ求メタル處同總領事代理ハ打解ケタル態度ニテ本件解決ノ方法トシテハ法院長ヲ含メ高級職員ノ南京政府辭令ノ受諾カ最穩便ナルカ之カ爲ニハ佛國側トシテモ現實ノ事態ニ適應セサル如キ人物ハ保護出來サル旨ノ威嚇モ可能ナル譯ナレハ其ノ點ハ日本側ニ手助ケシテモ好キ意嚮ニシテ斯カル平穩ナル接收ナル限り之ニ邪魔スル分子ヲ彈壓シ之ニ從フ者ヲ保護スルハ當然ナリ斯クシテ日佛間ノ暗黙ノ了解ノ下ニ接收スルコト最モ望マシトノ私見ヲ述ヘタルモ唯同官ハ單ナル事務代理ニ過キササルヲ以テ新總領事着任(本月二十三日ノ豫定)迄ハ何等責任ヲ取ルヲ得ス尤モ自分トシテハ新總領事ニ對シ右ノ日佛了解案ヲ進言スヘキヲ以テ夫レ迄待タレタシトテ此ノ點ハ固執シテ譲ラサリシヲ以テ更ニ租界内最高法院ノ閉鎖接收儀式等ニモ言及シ考慮ヲ促シ置クト共ニ本件話合カ漏洩シ之カ爲重慶側ノ「テロ」カ寢返リ工作ヲ阻害スルコトナキ様ダメヲ押シタル趣ナリ

三、佛國側ノ態度前記ノ如クナルニ鑑ミ一應新總領事着任迄

待チ其ノ間法院長ノ寢返リ等ノ工作ヲ進ムル様陸海軍幹事ト打合セタリ場合ニ依リ中央ニ於テ佛國政府ニ對シ御交渉願フコトナルヘキモ以上ノ經緯不取敢南大、北大、天津、漢口ヘ轉電セリ

~~~~~

1736

昭和15年11月7日  
在上海堀内總領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

# 上海仏租界特区法院接收を仏国側原則応諾に

ついて

上海 11月7日後発  
本省 11月7日夜着

第二二七一號(大至急)

往電第二二五九號ニ關シ

七日午後支那側ノ對佛通告文ヲ提出セシメタル後本官ヨリ公文(委細郵報)ヲ以テ佛國總領事ニ對シ今般南京政府ヨリ佛租界内支那法院ヲ接收スヘキニ付協力アリタキ旨申出テタル趣ナルカ佛國政府カ曩ニ有田「アンリー」協定竝ニ佛印問題ニ於テ日本ノ支那事變處理方針ニ對シ理解アル態度ヲ表明セルニモ鑑ミ此ノ際法院問題ニ付テモ同様友好的態



度ヲ執リ(一)最高法院ノ閉鎖南京政府ニ依ル高等法院及特區  
法院ノ接收竝ニ佛支協定ニ依ル法院ノ運用(二)各法院ノ文書、  
印章及刑務所、其ノ他ノ財産ノ接收竝ニ上記處置ヲ阻害ス  
ルカ如キ策動ノ抑壓南京政府ノ任命セル法院職員ノ保護(三)  
接收後佛側ノ法院ニ對スル協力援助ノ三點ニ關シ協力ヲ求  
ムル旨申入レタル處午後四時同總領事本官ヲ來訪シ只今  
「コスム」大使ヨリ日本側ノ主張ニ協調スヘキ旨ノ電訓ニ  
接シタルニ付斷言シ得ル次第ナリト前置シタル上前記我方  
要求ノ各項ニ付逐一諒承セル旨ヲ表明シ且新法院ト佛側ト  
ノ關係ニ關シ若干ノ法律的技術的希望意見ヲ述ヘタルカ右  
ハ何レモ佛支協定尊重ノ建前ヨリスレハ問題ナキ所ナリシ  
ヲ以テ本官之ヲ諒承シ接收ノ細目ハ佛租界警察及日本憲兵  
隊代理者間ノ話合ニ委ヌルコトトシ茲ニ本件日佛間話合成  
立セリ

依テ明八日午前圓滿接收ヲ了スル豫定ニテ又新聞發表ニ付  
テモ事前ニ打合ノ上九日朝刊ニ發表スル筈  
北京、天津、南京(大)、漢口へ轉電セリ

1737

昭和15年11月8日

在上海堀内總領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

上海仏租界特區法院の接收完了について

上海 11月8日後発

本省 11月8日夜着

第二二七九號(大至急)

往電第二二七一號ニ關シ

八日午前十一時高等法院第三分院院長室ニ於テ日本側ヨリ  
林憲兵少佐以下憲兵四名佛國側ヨリ警察總監代理及佛租界  
法律顧問立會ノ下ニ新舊法院長司法行政部參事一名ケイセ  
イリン代表一名書記通譯會合ノ上印章。書類財産。品。等ノ引  
渡ヲ行ヒ二時接收ヲ終了シタルカ尙三時四十分ヨリ地方法  
院ヲ更ニ三十分ノ後刑務所ノ接收ヲ了シタルカ法院外部ニ  
於ケル佛國側ノ警戒ハ甚タ嚴重ニシテ諸事極メテ平穩裡ニ  
取運ヒタリ

1738

昭和15年11月11日

在南京日高大使館參事官より  
松岡外務大臣宛(電報)

上海仏租界の特區法院接收実現に關し汪兆銘

がわが方へ謝意表明について

第四八〇號

南京 11月11日後発  
本省 11月11日夜着

特第九〇號(興亞院經由)

十日汪主席ハ影佐ニ對シ今回ノ佛租界法院ノ接收ハ國民政府強化ニ資スルコト大ナリト我カ方ノ協力ニ對シ深甚ナル謝意ヲ表シ關係各機關ニ傳達方特ニ依頼セリ  
周佛海モ影佐ニ對シ法院接收及交通銀行家屋ノ返還(從來南京特務機關ニ於テ使用中ノ交通銀行ヲ新中央銀行ニ當ツル爲五日返還シ支那側ハ直ニ中央銀行籌備委員會ヲ置キタリ)ハ上海方面ニ於テ民心ニ極メテ良好ナル影響ヲ及ホシタリト衷心感謝シ居リ右關係方面ニ御傳ヘ請フ  
宛本院政務部長 通報華中連絡部上海總領事 華中ヨリ總領事館ニ連絡アリ度

1739

昭和16年2月28日  
在上海堀内総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

上海租界当局より日英米間に戦争勃発の場合

の必需品輸送に關し考案方要請について

郵便 昭和十六年二月二十八日發在上海堀内総領事  
より松岡外務大臣宛第二七〇号  
右要請内容

第二六九號

上海 2月28日後発  
本省 2月28日夜着

共同、佛兩租界當局ヨリ二十四日附ヲ以テ日、英、米間ニ戦争勃発ノ場合ニ於ケル必需品ノ速急獲得方ニ關シ要旨別電ノ通り申越タルカ(英、米側ニモ同文申レタル由)更デダニ戦争ノ風説喧傳セラル當地ニ於テ租界當局力輕々ニ風評ヲ裏書スルカ如キ措置ヲ執ルハ甚タ面白カラサルノミナラス關係三國間ニ戦争ヲ豫定シ此ノ種協定ヲ結フ如キハ殆ト考慮ノ外ニシテ假ニ協定スルモ其ノ實施ハ至難ナルヘク何レニスルモ出過キタル遣方ナリト認メ本官トシテハ本件申入ハ取上サル所存ナルカ

不取敢岡本ヲシテ本件通告發出ニ先ンシ市參事會ニ諮ラサリシ點ヲ質スト共ニ本件通告ニ關シ絶對外部漏洩ヲ避クヘキコト竝ニ前記本官ノ意嚮ヲ體シ市參事會側ヲ指導方措置

セシメ置ケリ

尙本件通告ハ首席領事ニ通報シ領事團同章ニ附セラレタリ  
(二十五日來訪ノ英國總領事ハ本件ニ言及セス二十七日來  
訪ノ獨逸總領事ノ質問ニ應シ前記ノ趣旨ヲ述ヘタル處彼ハ  
首席領事ヨリ本件極祕ニスヘキ旨特ニ注意シ來タレリト述  
ヘ居タルカ右注意ハ領事團記者「ロング」ヨリ各領事ニ對  
シ爲シタル由)

(別電)

上海 2月28日後発  
本省 2月28日夜着

第二七〇號

極東ニ於テ日、英、米三國ノ參與スル戰亂勃發ノ可能性ナ  
シトセサル處目下上海ハ米、石炭、小麦及麥粉ハ殆ト全ク  
海路輸入ニ仰キ居リ是等ノ供給斷絶セハ當市民ハ飢餓及之  
ニ伴フ混亂ニ直面スヘキニ付戰亂勃發前ニ是等必需品供給  
確保ノ道ヲ講シ置カルル様要請スルハ工部局ノ義務ナリ依  
テ日、英、米三國政府カ今ヨリ直ニ共同シテ戰亂勃發スル  
トモ當市「シヴィリアン、ポピュウレーション」ニ充テラ

ルヘキ必需品輸送船舶カ自由ニ上海ニ到來スル如キ工夫ヲ  
案スル様貴官ニ懇懇セントス工部局ハ右三國間ノ豫備的協  
議ニ關シ又ハ協定ノ實行ニ關シ協力スル用意アリ

~~~~~

1740

昭和16年11月10日
在上海堀内総領事より
東郷外務大臣宛(電報)

在華米國海兵隊の上海引揚げに関する報道の
反響報告

上海 11月10日後発
本省 11月10日夜着

第二〇六四號

在支米國「マリン」引揚ニ關スル華府發各種通信ハ八、九
兩日當地各紙ニ大々的ニ掲載セラレ一般ニ異常ノ「シヨツ
ク」ヲ與ヘタルカ各外字紙ハ舉ツテ本件ニ對スル外人側
反響トシテ上海ノ唯一ノ安定勢力タリシ「マリン」ノ引揚
ハ一切ノ安全感ヲ剝奪シ貿易ノ前途ニモ暗影ヲ投シ治安ノ
惡化モ亦免レサルヘシトノ悲觀的觀測トシテ「マリン」ノ引揚
リ尙八日上海UPハ權威筋ノ觀測トシテ「マリン」ノ引揚
後ハ上海ノ支配權ハ完全ニ日本側ノ手ニ移ルコトナルヘ

キ旨竝ニ當地米國當局ニテハ引揚米人ノ爲目下香港經由航行中ノ「ブレジデント、ライン」二隻ノ當地寄港方手配中ナル旨發電シ居リ又七日重慶UPハ支那側官邊ニテハ一般ニ米國政府ノ態度ニ信賴ヲ置キ居ルモ一部ニハ右ハ對日緩和政策ノ現ハレニアラサルヤト遺憾ニ思ヒ居ル向アル旨報シ居レリ

南大、漢口、北大、天津、滿、青島、厦門、廣東、香港へ轉電セリ

1741

昭和16年11月17日

在上海堀内総領事より
東郷外務大臣宛(電報)

在華米國海兵隊が上海撤退をわが方へ正式通

報について

上海 11月17日後発

本省 11月17日夜着

第二一〇三號

往電第二〇八九號ニ關シ

「十五日米「マリソ」指揮官ヨリ共同防備委員長タル日本陸戰隊司令官ニ宛テ近キ將來米「マリソ」ヲ撤退スル様

公式命令受理セル旨通報越シタリ

ニ、陸戰隊ニ於テハ豫テヨリノ打合(冒頭往電第二段)通り「マリソ」撤退後ニ於ケルC區ノ警備ハ工部局警察及上海義勇隊ヲ以テ擔當スルコトニ致度治安維持上必要ト認ムル場合ニハ隨時日本軍力之ヲ援助スル用意アル旨二十日迄工部局參事會議長及伊軍指揮官ニ通告スル豫定ナリ

1742

昭和16年11月21日

在上海堀内総領事より
東郷外務大臣宛(電報)

在華米國海兵隊撤退後の対策通告について

上海 11月21日後発
本省 11月21日後着

第二一二六號

往電第二一九號ニ關シ(米「マリソ」撤退後諸般對策ノ件)

「マリソ」ハ二十一日P「マジソン」二十五日P「ハリソン」ニテ全部引揚クル豫定ナル由

ニ、二十日共同防備委員會「シクレタリー」ヨリ陸戰隊司令

官ニ對シ往電第二一〇三號ノ通り市參事會ヨリ本件ニ對スル申入アリタル趣ヲ以テ之ニ對スル意見ヲ問合セ來リタル處海軍側ニ於テハ右ニ對スル回答ノ形式ヲ取ラス獨自ノ見解トシテ十九日附ヲ以テ不取敢C區ハ工部局警察及義勇隊ノ擔當スルモ必要ニ應シテ我方ニ於テ警備ヲ擔當スルコトアルヘキ旨工部局參事會議長竝ニ伊軍司令官ニ對シ申入レ置キタル由



1743

昭和16年11月22日
在上海堀内総領事より
東郷外務大臣宛(電報)

國際情勢急転の場合の上海租界に対するわが

方対処方針につき根本原則設定方請訓

付 記 昭和十六年十一月十一日、東亜局第一課作成

〔國際危機發生ノ際ノ上海租界措置要領(案)〕

上 海 11月22日後発
本 省 11月22日後着

(館長符號)

貴電合第二三四二號ニ關シ

當地租界海關及第三國關係ニ付テハ豫テ非公式ニ御連絡致

シ置キタル通り陸、海、外、興亞ノ現地機關ニ於テ密接聯絡ノ下ニ目下右貴電御方針ニ即シ準備立案中ナルカ(右進行ノ詳細ニ付テハ別途御報告致スヘシ)租界關係事項ニ關スル今日迄ノ審議ノ結果右貴電ノ方針ノ外更ニ中央ニ於テ根本準則ヲ定メラルル要アリト存セラルル諸點次ノ如クニシテ右ハ至急御取上ノ上中央ノ決定トシテ御訓令相成ル様願度シ

(一)國民政府ノ日米戰爭ニ對スル態度ノ指導

國府ヲシテ直ニ宣戰セシムルヤ非交戰ノ儘同盟國ノ態度ヲ執ラシムルヤ等ハ租界(就中英租界)ニ對スル支那側發言權竝ニ敵性國外交官、人民財産ニ對スル支那側措置等ヲ左右スル次第ニ付是非共明確ニ定メ置ク要アリ(直ニ宣戰ノ要ナカルヘシ)

(二)兵力進駐

米國「マリン」撤退必スシモ豫想シ得サリシヲ以テ當地陸海軍協定案ニハ敵武力ヲ一掃スル爲ノ兵力進駐ヲ當然トナシ居ル處敵陸上兵力ハ皆無ノ曉ニ於テモ治安維持又ハ威壓ノ目的ヨリ憲兵隊以外ノ部隊ヲ進駐セシムル必要アリヤハ進駐ニ伴フ人心不安ノ如キ逆效果ト睨合セ政策

の見地ヨリ且ツ實情ニ即シ(租界警察ノ把握ノ程度等)最も慎重ニ考慮ノ要アリ(當地共同租界ニ對シテハ進駐ヲ思止マル様折角説得中ナルカ極メテ困難ナリ)

(三) 佛租界ニ對スル態度就中進駐

當地佛租界ニ對シテモ統帥部案ハ進駐ヲ豫定シ居ル處右ハ「マリン」武裝解除ニ際スル萬一ノ事態ニ備フル爲竝ニ爾後佛側ヲシテ我方ニ協力セシムル爲ニシテ共同防禦ヲ名トシ最後通牒の外交交渉ニ依リ實現セントスルモノナルカ當方トシテハ佛租界對策ハ當地ノミ獨自ノ立場ニテ爲スヲ可トシ更ニ日佛印乃至ハ日佛關係ヨリ觀テ中央ニ於テ決定スヘキ筋合ナリ又當地佛租界ト佛印トノ通商維持ハ我方ノ負擔輕減上ヨリ必要ナリ更ニ「マリン」問題解消ノ上威力進駐ハ不要ニシテ我方ニ全面的ニ迫隨セシムルコト容易ナリ唯佛側カ敵國人又ハ財産ニ對シ中立の庇護權ヲ租界ニ於テ行使セサルコトヲ約束セシムルヲ以テ足ル旨主張シ居レリ

(四) 友好國中立國側ニ對スル態度

租界機構ヲ尊重スルト雖モ租界ハ從來ヨリ占領地ノ一部ニ過キサルヲ以テ(進駐ニ依リ改メテ占領セララルニ非

ス)軍律ヲ行使スヘク紛爭ヲ避クル爲進ンテ協力スル様要請スル態度ヲ以テ臨ムコト肝要ナリ(特ニ獨、伊ニ對シテ)

(五) 敵國人ニ對スル態度

租界、海關等ニ對シテハ本邦ニ在ル敵國人ト同様ニ考フルコトナク寧ロ敵國ヲ占領セル場合ト同様ニ考ヘ有用ノ者ハ其ノ「サービス」ヲ積極的二用フルコトト致度シ南京(大)、北京(大)ヘ轉電セリ

(付記)

國際危機發生ノ際ノ上海租界措置要領(案)

(昭和十六年十一月十一日 亞二)

第一方針

日本對某國間開戰ノ場合ニ於テハ上海租界内ノ敵性分子ヲ芟除スルト共ニ我方ノ負擔ヲ最小限度ニ輕減スルコトヲ目標トシ之カタメ現存ノ政治及經濟的機構ノ實質的把握ヲ行フモ努メテ無益ノ破壞ヲ防止スル如ク措置ス

第二要領

一、列國駐屯軍ニ對スル措置

日本對某國開戰ト共ニ上海地域ニ在ル各國軍隊ニ對シ夫々左ノ措置ヲ執ルモノトス

イ、敵國軍隊及艦艇ノ處理

開戰ト共ニ我軍司令官ヨリ期限附要求ヲ發シテ降伏ヲ要求シ右要求ニ應セサルトキハ實力ヲ用フルモノトス

(一)軍隊ニ付テハ其ノ將兵ヲ俘虜トシ其ノ武器彈藥及軍需品ヲ沒收ス

(二)艦艇ニ付テハ之ヲ拿捕シ其ノ載荷ト共ニ沒收シ乗員ヲ俘虜トス

ロ、同盟國軍隊ニ對スル措置

同盟國軍隊(卽伊太利軍)ニ付テハ格別ノ措置ヲ執サルモ必要ニ應シ租界警備ノ任務ヲ分擔セシム

ハ、中立國軍隊

中立國軍隊(卽佛蘭西軍)ニ付テハ引續キ中立ノ立場ヲ維持スルコトヲ條件トシテ之カ駐屯ヲ認ムルモ必要ニ應シ我軍トノ間ニヨリ強度ノ協力ヲ設定セシム

ニ、共同租界ニ對スル措置

共同租界ニ付テハソノ敵性ノ完全ナル芟除ヲ計ルモ我

方ノ負擔ヲ出來得ル限り輕減スルタメ租界行政ノ現存機構ハ成ル可ク之ヲ存置スル如ク留意シ左ノ如キ措置ヲ執ルモノトス

イ、領事團ニ對スル措置

領事團ハ敵性領事ノ排除ニ依リ其性格ヲ一變セシメ我方完全ナル指導ノ下ニ其ノ職務ヲ行ハシムルモノトス

ロ、臨時市參事會員中英米各三名ハ辭任セシメ後任ハ任命セサルモ場合ニ依リテハ伊太利人一名ヲ任命ス議長ハ日本人トス

ハ、工部局人事ニ對スル措置

(一)工部局總務部

事務總長「フイリツプス」事務次長「ガツプ」次長補「ナツシユ」ヲ罷免シ日本人ヲ事務總長ニ任命ス

(二)工部局警察部

總監ヲ初メ外人副總監(二名)外人總監補(六名)ヲ罷免シ其ノ他外人役員及支那警察官ニシテ我方ニ同調セサルモノニ對シ拔本的肅清ヲ行フモノトス

之等人員ノ補充ニ當リテハ現存日本隊員ヲ基礎トシテ行フモ必要ニ應シ陸軍、内務、外務等ヨリ適任者ヲ入ルルモノトス

(三)工務部

工務部長「ギムソン」ヲ罷免シ日本人ヲ以テ之ニ代フ

(四)財政部

財政部長「モーチャール」次長「オリヴァー」次長補「ミドルトン」ヲ罷免シ日本人ヲ以テ部長及次長ニ任命ス

(五)義勇隊

上海義勇隊ハ之ヲ肅清シ敵性分子ヲ排除シタル上工部局警察ニ編入ス

(六)衛生部

衛生部長「ジョーダン」ハ之ヲ罷免シ日本人ヲ以テ之ニ代フ

二、特區法院ニ對スル措置

共同租界内特區法院ハ國民政府ヲシテ接收セシム

ホ、工部局財政ニ對スル措置

工部局財政ニ付テハ根本的建直ヲ必要トスル處稅制ノ改革新稅ノ徵收等ニ依リ收入ノ増加ヲ計ルト共ニ人件費、公用事業費等ノ節約ニ依リ支出ノ減少ヲ計リ以テ豫算ノ均衡ヲ計ル如ク措置スコレカ具體策ニ付テハ別途考究ス

ヘ、物資配給ニ關スル措置

米、薪炭等ノ生活必需品ノ供給不足ヲ來シ四百萬ノ支那人ノ生活問題起ルコトハ必然ナルヲ以テ右對策ヲ別途至急樹立ス

ト、租界指導ノ爲ノ我方ノ新機構

(一)租界指導委員會(假稱)ノ設置

我方租界指導ノ最高政策ヲ決定スル爲上海二陸、海、外、興亞院ノ係官ヲ以テ組織スル租界指導委員會(假稱)設置ス右委員會ハ上海總領事ヲ以テ委員長トス

(二)租界問題調査機關

現在ノ岡本事務所及上海市政研究會ノ活動ヲ積極的ニ助成シ租界對策ノ具體的諸問題ヲ調査セシメ租界指導委員會ノ政策樹立ノ補助タラシムルモノ

トス

三、佛國租界ニ對スル措置

佛國租界ニ付テハ差當リ現狀ヲ維持スルモ公董局及警察
内ニ日本人ヲ入ルルヤウ積極的ニ工作ス

1744

昭和16年11月27日

在上海堀内総領事より
東郷外務大臣宛(電報)

在華米國海兵隊が撤退予定繰上げについて

上海 11月27日後発

本省 11月27日夜着

第二一六九號

往電第二一三四號ニ關シ

米國側ヨリノ公式通報ニ依レハ「マリーン」第二次引揚部
隊ハ三十日出發ノ豫定ナリシ處華府ヨリノ命令ニ依リ豫定
ヲ繰上ケ隊長「ハワード」大佐引率ノ下ニ二十八日出發ス
ルコトトナリタル趣ナリ

尙二十七日夕刊英字紙ニ依レハ第一次引揚部隊約三五〇名
ハ同日午前中乗船ヲ完了セル趣ナリ

南大、北大、香港へ轉電セリ

1745

昭和16年12月2日

在上海堀内総領事より
東郷外務大臣宛(電報)

國際情勢急転の場合に上海共同租界占領の建
前を執るや否やにつき方針決定方請訓

上海 12月2日後発

本省 12月2日後着

第二一九八號(極祕、館長符號扱、部外祕)

曾禰領事へ

共同租界ニ付占領ノ建前ヲ執ルヤ否ヤハ第三國人ニ對スル
我方要求強制(第三國人名儀物資ノ徵發其ノ他治外法權ノ
爲工部局ニ於テ處理スル權限ナキ諸事項無線通信取締郵便
新聞取締)竝ニ領事團ニ對スル態度決定上重要ナル點ナル
處南京總軍ニ於テハ占領ノ建前ヲ採ルコトハ之ヲ避ケタキ
希望ナルカ如ク察セラルル處現地ニ於テハ實際ノ適用ハ手
加減スルモ建前トシテハ占領ヲ主張スル必要生シ來ルヘシ
ト思考セラルルニ付本件出來得レハ中央ニ於テ速ニ御決定
相成ル様願度シ

南總(外信)へ轉電セリ

1746

昭和16年12月4日

在上海堀内総領事より
東郷外務大臣宛(電報)

国際情勢急転の場合に仏租界当局がわが方の
敵性行動抑圧に協力するならば租界への進駐
の必要はなき旨意見具申

付記 昭和十七年二月二日発在上海堀内総領事より

東郷外務大臣宛電報第二三八号

上海共同租界特区法院接収に関する経緯報告

上海 12月4日後発

本省 12月4日後着

(館長符號、極秘)

一、國際危局到來ノ曉佛租界ニ對スル措置如何ニ付テハ日佛
間ノ全般の外交關係ヲ考慮シ決定セラルヘキ處當方トシ
テハ不取敢直ニ佛國總領事ニ對シ「日本側トシテハ佛租
界内ニ於ケル敵性行動抑壓其ノ他軍事上必要ノ措置ヲ執
ル要アルニ付テハ佛側ニ於テ敵性分子竝ニ敵性財産ニ對
シ庇護權ヲ行使セサルコトヲ承認セラルルニ於テハ兵力
ノ進駐ハ見合スヘシ尤モ此ノ場合ニ於テモ軍側ノ切望ニ
依リ略漢口佛租界同様(日本側制服憲兵派遣)ノ措置ハ是

非共承認セラレタキ旨」申入ルルコトト致度キ意嚮ナリ
尙當地トシテハ佛側ニ於テ右ヲ承認スルニ於テハ佛租界
内ニ於テ直接我方ノ軍令、軍律等ヲ執行スル形式ヲ避ケ
ツツ敵性行動抑壓及敵性分子竝ニ財産ノ處理ヲ或程度迄
(佛租界内敵性人逮捕及獨、伊等第三國人名義財産ニ付
テハ厄介ナル問題生スヘシ)有效ニ實施シ得ルカ然ラサ
ル場合ニ於テハ憲兵ニ於テ直接執行スヘク何レニスルモ
軍隊ノ進駐ハ必要ナラサル見込ナリ

二、佛側ニ於テ右申入ヲ即座ニ承諾セサル場合ニハ眼前ニ好
餌ヲ見逃スコトトナレハ現場ニ於テハ佛側ノ態度如何ニ
拘ラス一方的ニ憲兵ヲ入ルルコトトナル惧極メテ大ナル
處現地トシテハ之ヲ斷行スル方却テ大ナル紛争ヲ避クル
所以ト存セラル

就テハ進駐ハ中央ノ決定ヲ俟ツヘキモ右程度ノコトハ御
諒承ノ上中央ニ於カレテモ適當ノ時機ニ佛側ニ申入相成
様致度シ

(付記)

上海 昭和17年2月2日後発
本省 昭和17年2月2日夜着

第二三八號

本官發南京宛電報第二六號二關シ

法院接收式ハ二日午前同建物内ニ於テ舉行セラレタルカ今日迄ノ經過參考迄

一、今次大東亞戰勃發當初法院接收ニ付手配充分ナラサリシ爲建物ノ接收ト共ニ裁判官ハ逸早く逃亡租界内ニ潜伏シ法院ノ機能停頓ヲ來シ租界内裁判事務山積スルニ至リタルヲ以テ工部局側(五島副總監)ヲ租界治安確保上放任シ難シト爲シ李思群^(土カ)ノ手ニ於テ軟禁中ノ高等法院第二分院長徐維震ヲ首班トシテ法院判檢事ノ引出シ工作ニ着手シ大體客年十二月末ヨリ不完全ナカラ裁判ヲ再開スル運ヒトナリタルカ當初ハ裁判官引出シノ便宜上全然國府側ノ名ヲ出サス又裁判官ノ態度表明ヲモ強制セス單ニ租界民衆ノ利益ノ爲從來通り裁判ヲ續行セヨトノ建前ヲ取り來タレリ

二、一方國府側ニ於テハ司法行政部ハ客年末接收委員ヲ當地ニ派シ接收ニ對シ我方ノ協力ヲ求メタルカ當地日本側各

機關ハ前記一ノ經緯ニ鑑ミ形式的接收ハ裁判官ノ獲得工作ニ影響アルヲ以テ過早ニ行フヘカラストノ見解ヲ持シ國府側ニ自重ヲ求ムル處アリ結局兩者ノ意見接近シ可及的速ニ法院ヲ國府側ニ接收スルコトニ決シ特務機關長ヲ首班トシテ當館興亞院工部局之ニ協力シ國府側接收委員ト共ニ之カ促進ヲ計ルコトトナレリ

三、其ノ後本年ニ入り大東亞戰ノ戰局竝ニ我方ノ對租界諸施策ノ進展ト相俟ツテ復職裁判官ノ數モ漸次増加シ來リ且一月中旬我方ニ於テ接收委員ヲシテ既ニ復職セル裁判官ニ對シテハ國府側歸屬誓約セシメ又未タ復職セサル裁判官ニ對シテハ最後の復職勸告狀ヲ發出セルカ略々裁判進行ニ充分ナル人數(判檢事約四〇書記七〇)ノ復職見込就キタルヲ以テ關係各機關協議ノ結果二日正式接收ヲ行ハシムルコトトナリタル次第ナリ

南大、北大ハ轉電セリ

~~~~~